FX億トレーダーが使う8手法と画期的な検証方法

FX Works［著］

「FXの勝ち方」教えます。

【超具体的】
エントリー&
決済チャート
付

目次

本書でご提供できる４つの価値 ----------2

No.１：順張りピンバー手法 ----------10

No.２：逆張りピンバー手法 ----------44

No.３：ピンバー押し・戻り手法 ----------84

No.４：雲ブレイク手法 ----------100

No.５：SMA50 ピンバー手法 ----------122

No.６：フィボナッチ手法 ----------135

No.７：通貨ペア強弱手法 ----------149

No.８：2line 手法 ----------178

FX 手法の画期的な検証方法 ----------195

FX Work 会員申し込み方法 ----------221

FX Works 会員申し込みで使用できる９つのツール ----------224

あとがき ----------234

Ebook のご感想をいただけませんか？ ----------235

おまけ ----------236

本書でご提供できる 4 つの価値

「FX は難しい。」これが現実だ。しかし誰でも時間をかけて正しい努力をすれば勝てるようになる。これも現実だ。

本書をダウンロードしていただいた方は FX 経験者だろう。

FX 経験者のほとんどの人が、初心者時代にビギナーズラックを経験しているという話がある。FX には「買い」と「売り」しかないので、適当に売買しても儲かってしまう。

しかしビギナーズラックが長く続くことはない。損切りをせずに根拠もなく適当に取引していれば、やがて大きく動いた相場で強制ロスカットになり、資金を失ってしまうのだ。

一度強制ロスカットされるといやが上にも「損切りの大切さ」を知ることになる。

しかし一方で、今度は適切な損切りや利益確定のタイミングがわからなくなってしまうのだ。強制ロスカットの怖さを知っているので、再び強制ロスカットされることはないかもしれない。それでも日々ジリジリと資金を減らす現実に直面する。

そうなると誰もが、再現性に優れた同じルールで取引できる「FX 手法」を探すことになるだろう。この段階でお金をかけて情報商材の購入や、投資塾に入会した人もいると思う。

しかし誰もが、高額な商品を購入しても一向に勝てるようにはならない。きちんと学んだはずなのに結果がでることはなく、やがてはその手法を諦めてしまうのだ。

結果「トレードの損失」＋「商材購入費による損失」が増えたことになる。この時点で FX を辞めれば傷は浅い。しかし FX を辞めることはできない。

何故ならばビギナーズラックで一度は資金が増える体験をしているからだ。

「きっと他に勝てる方法があるはず。」そう思い、また FX 手法探しの旅に出る。

そして再三再四、FX の商材を購入。まったく勝てずに諦める・・。

この「負のスパイラル」を何年も繰り返すことになってしまうのだ。

さてここまで他人事のように書いているが、実は負のスパイラルに陥ったのは私の実体験にもとづいている話だ。

私は FX をはじめてから 4 年以上勝てず、150 万円ほどの損失をだしていた。詳細は割愛するが、そんな私も今や FX の専業トレーダーとして生活できるまでになった。

専業トレーダーになれたのは、本書の FX 手法や検証方法を実行したからに他ならない。

したがってあなたも本書を読むことによって「負のスパイラル」から完全に抜け出せるだろう。時間はかかる。それでも努力をすれば勝てるトレーダーになれるのだ。

頭の良さ、手先の器用さ、要領の良さ、人付き合いのよさ、話の上手さなど FX の成績には関係ない。チャンスは平等に与えられていて、努力した人だけが成功する世界だ。

また現在 FX で利益を上げている方にとっても「手法のポートフォリオ」という観点から、本書は必ず参考になるはずだ。

高額な情報商材や投資塾では教えてくれない情報ばかりだと驚くだろう。読んだあとに、感想をいただければ嬉しい。

著者：FX 手法を探求するブログ @ FX Works　TOMOZO

：FX 専業トレーダー　まもと

本書ではあなたにとって「4 つの価値」をご提供できる。

1．【優位性のある手法が無料で手に入る】FX の情報商材を購入しても勝てない

2．【リスク分散】手法は多ければ多い程リスクの分散になる

3．【時間短縮】検証は莫大な時間を消費する地味な作業

4．【検証方法】どんなに優位性があっても検証をしなければ勝てるようにはならない

まずは 4 つの価値からお伝えしていく。

１．【優位性のある手法が無料で手に入る】FX の情報商材を購入しても勝てない

私は 10 年以上の FX 歴があり、勝てなかった時代も含めて興味本位で FX の情報商材を 10 本以上購入してきた。

1 万円～50 万円までさまざまな価格帯の商材を購入。しかし「結果」という観点から見ると、私が本書でご紹介している「手法以下」と言わざるを得ない。

どれだけレポートのデザイン性が優れていても、動画を使って丁寧に手法のルールを説明しても、購入者の結果に結びつかなければお金を払う価値はない。

FX の情報商材は「有料」にもかかわらず実際に検証してみると、まったく勝てない商材も多く、購入費プラス時間という「財産」を失わせる実に罪深いものだ。

したがって商材にお金を使うよりも、本書に掲載してある「8 つ」の優位性がある FX 手法をとことん検証していただくことの方が、間違いなくよい成果が得られる。

8 つの手法で気に入った手法に対して、とことん時間をかけて突き詰めて見るべきだ。

万が一あなたにとって本書の FX 手法がまったく価値のない情報だったとしても、手法構築のアイデアは本書から引き出せるだろう。

２．【リスク分散】手法は多ければ多い程リスクの分散につながる

たとえばドル円で「年間 300pips」の利益が期待できる手法を手に入れたとしよう。「年間 300pips」を 1 ヵ月平均にすると 25pips なので「たった 300pips か。」と思うだろう。

しかしたった 300pips の利益でも「ユーロ円」「ユーロドル」で運用し「ドル円」と同じな結果が期待できるとすればどうだろうか。

「3 通貨」×「300pips」は「900pips」の利益だ。

年間 900pips は、1 ロットで約 90 万円の儲け、10 ロットで約 900 万円の儲けになる。

加えて 300pips の期待ができる手法を「10 個」作れたとすればどうだろうか？

1 通貨で年間「3000pips」、3 通貨で「9000pips」の利益になるのだ。

金額にすると 1 ロットで 900 万円、10 ロットで 9,000 万円の儲けになる。

実際はその年の相場と相性が合わない手法もあるので、10 手法すべてで勝つのは難しいだろう。しかし検証において優位性を確認している手法だけを使えば、トータルでマイナスになる確率はきわめて低い。

私はこうやって少しずつ手法を増やし年間を通して勝てるトレーダーになってきた。

大切なことはスキャルピングやデイトレの短期手法だけではなく、スイング、長期保有など、さまざまな時間軸の手法をもつことだ。そうすることでリスクを分散できる。

株式投資でも 1 つの銘柄で運用している人はまずいない。複数の銘柄を保有して必ずリスクを分散している。一つひとつの手法を過度に信用してはならない。その理由は、検証やリアルトレードで勝てたとしても今後利益が保証されてはいないからだ。

実際私も約 10 年前にメインだった FX 手法は現在使用していない。リーマンショック後のボラティリティの高い相場では儲かったが、現在のボラティリティでは通用しないのだ。

手法の分散を行うことこそが FX における最大の「リスク分散」だと私は思う。

そういった意味で本書に掲載してある「8 つの手法」は必ず役に立つはずだ。

３．【時間短縮】検証は莫大な時間を消費する地道な作業

本書では「FX Works」の「TOMOZO の FX 手法」コンテンツでは公開していない、現在私が使用している手法を掲載している。

FX の手法検証は面倒で時間がかかる。私は専業トレーダーで十分な時間があるので苦痛ではない。一方で本書を読んでいるほとんどの方は、兼業トレーダーではないだろうか。

平日の仕事終わりや休日に検証を行うのは実に骨の折れる作業だ。

自分だけのオリジナル FX 手法を作るには、ネットや書籍の情報をかき集めて、過去チャートや実践で何度も PDCA サイクルを回して完成させなければならない。

１つの優位性がありそうな手法を完成させるには大変な労力が掛かるのだ。

本書を読むことにより、この面倒な工程を大きくショートカットできる。

最終的な本人による検証はもちろん必要となるが（後述）今回紹介する「8 つの手法」はすでに実績のある手法だ。そのまま手法をコピーするだけで、すぐに実践的な検証に移れる。

また本書のレビュー特典で、手法ごとのチャートパターン集を用意しており、8 手法合わせて「約 500 枚」を確認できる。チャートパターン集は手法の理解度を高める材料となるだろう。

４．【検証方法】どんなに優位性がある手法でも、自分で検証をしなければ勝てるようにはならない

FX で勝つために必ず必要な検証。本書では具体的な検証方法を学べる。

大切なことなので手法を見る前に「検証の必要性」についてまずは考えてみよう。

FX で儲けるためには「手法の検証が大事」と誰もがいう。海外の著名な投資家も、国内の投資系インフルエンサーも、有名 youtuber もまるで決まったテンプレートがあるかのように「検証、検証」と唱える。

日々チャートを見て取引している方であればこの意見に反対する人は皆無だろう。

逆に「検証しなくても FX は勝てる。」このような主張をしている人がいれば、ビギナーズラックでたまたま儲かった初心者か未来がわかる超能力者くらいだ。

考えてみると私も長いこと FX をやってきて、ネット上でも実際に会った人でも検証を行わずに長期的に稼いでいる人はみたことがない。

そもそもなぜ、FX で儲かるためには検証が必要なのだろうか。その理由を知るために、検証を行わずにトレードを実施して失敗した人の例をあげさせていただく。

凄腕トレーダーA さんに手法を伝授された B さん

儲かっている凄腕トレーダーA さんの口座履歴（資産 1 億円以上）を見せてもらい、その財産を築いた手法を B さんが教えてもらった。

「すぐにリアル口座ではじめても大丈夫ですよ。必ず勝てますから。」

と凄腕トレーダーに言われた B さんは完璧に手法をコピーしていざ本番。

最初は順調に儲かった。これからの未来を想像するとニヤニヤが止まらなくなる。エクセルの表計算で 10 年後の資産を計算したりもした。

しかし勝率 100%の手法などないので、やがて負ける時がやってくる。「2 連敗」「3 連敗」「5 連敗」と続いたときに B さんは次のような感情になった。

- 何故勝てないのか・・。
- 連敗中はルール以外の取引だったのではないか。
- もしもこのまま連敗が続いたらどうしよう。

次々と不安が押し寄せてくる。

やがて A さんから教えてもらった手法を疑うことになるのだ。

B さん：「そもそもこの手法は本当に勝てるのだろうか？」

人間は自分の資産が減少する局面に遭遇すると他人を信用できなくなる。

そうこうしているうちに、次の取引チャンス（買い）がやってくる。

B さんは「今は流れが悪いから今回は様子見しよう。」

と買いエントリーを見送った。

しかし相場の動きは B さんの考えとは裏腹に、本来エントリーするポイントだったところでレートはピタリと止まり、グングンと上昇していく。

「すぐにエントリーしなければ」と思い二番底を待っていてもすでに手遅れ。

相場に押し目が入ることなく一方的に買われ、結果的にビックチャンスを逃してしまった。ルール通りに買いポジションを保有していれば「5 連敗」で失った金額を取り戻すだけでなく、大きな利益を手にできていた。

「5 連敗直後のあの時、何故手法を疑ってしまったのか。」

反省しても、後悔しても後の祭りだ。１つの疑いからメンタルが崩壊してしまった B さんは、その後も A さんの手法を信じられずに利益を得ることはできなかった。

日々のトレードを淡々とこなす凄腕トレーダーA さん

一方凄腕トレーダー A さんは、もちろん同じ手法でトレードを行っていた。

B さんとの違いは「5 連敗」してもまったく気にする素振りがないことだ。なぜならば過去の検証と、リアルトレードで「5 連敗」は経験済。最悪「10 連敗」も想定していたからだ。

仮に「10 連敗」してもトータルでは儲かる自信があるから感情を揺さぶられることはない。B さんとは違い「5 連敗後」のトレードも機械的にこなし、しっかりと利益を残せた。A さんにとっては当たり前のことなのだ。

A さんにして見れば B さんのトレードを理解できないだろう。勝てる手法を教えたのだから、そのまま実行すればいいのに・・・と思うはずだ。

しかし時間をかけて検証していない B さん。つまり手法を「自分のもの」にしていない B さんにとっては難しいことなのだ。

検証の必要性と目的

このようにまったく同じ手法を使っていても「検証をしているか」「検証をしていないか」で大きな差が生じてしまう。

この例からわかる通り、どんなに優位性がある手法でも、使う本人がしっかりと検証を行っていなければ儲けることはできず宝の持ち腐れになってしまう。

検証の一番の目的は**「自信を得ること」**だ。

- 連敗していても大丈夫だという自信
- 絶対に儲かるという自信

これらの自信がなければ FX を続けていくことはできない。

検証そのものが投資における技術の一つであり「検証力」がトレードの技術力向上に直結する。

具体的な検証方法については本書の後半で述べているが、これから紹介する手法が勝てると言われてもそのまま鵜呑みにはせずに、必ず自身が時間を掛けて「検証」を行っていただきたい。そうすることにより、洗練された自分だけのオリジナル手法が完成するはずだ。

それでは「8 つ」の FX 手法を順番に紹介していく。

No.1 ：順張りピンバー手法

手法概要

執 筆 者	TOMOZO
取引スタイル	**デイトレード**
時 間 足	15 分足、1 時間足、その他
通貨ペア	何でも OK（検証は EUR/JPY）
分析方法	ピンバー、移動平均線
注文方法	成行、指値
取引時間帯	9:00～24：00

最初に紹介するのは「ピンバー」でエントリーを行う手法だ。

基本的には複数の時間足で環境認識を行う必要がなく、ローソク足の「形」だけでエントリーできるので、FX 初心者の方も取り組みやすい手法である。

移動平均線を使うことによって自ずとトレンドに沿ったキレイな形だけを狙っていける。

勝率は 50%以上。損益レシオは 2 倍以上と、大きなドローダウンが起こりにくいのもこの手法の特徴だ。15 分足と 1 時間足では取引ルールが異なるので、しっかりと両方のルールを確認後に検証を行っていただきたい。

チャート環境（15 分足）

1．移動平均線 3 本表示（SMA50、SMA20、SMA5）

2．ピンバーはインジケーターを使用（青色：上向き、赤色：下向き）

エントリールール（15 分足）

買いの場合

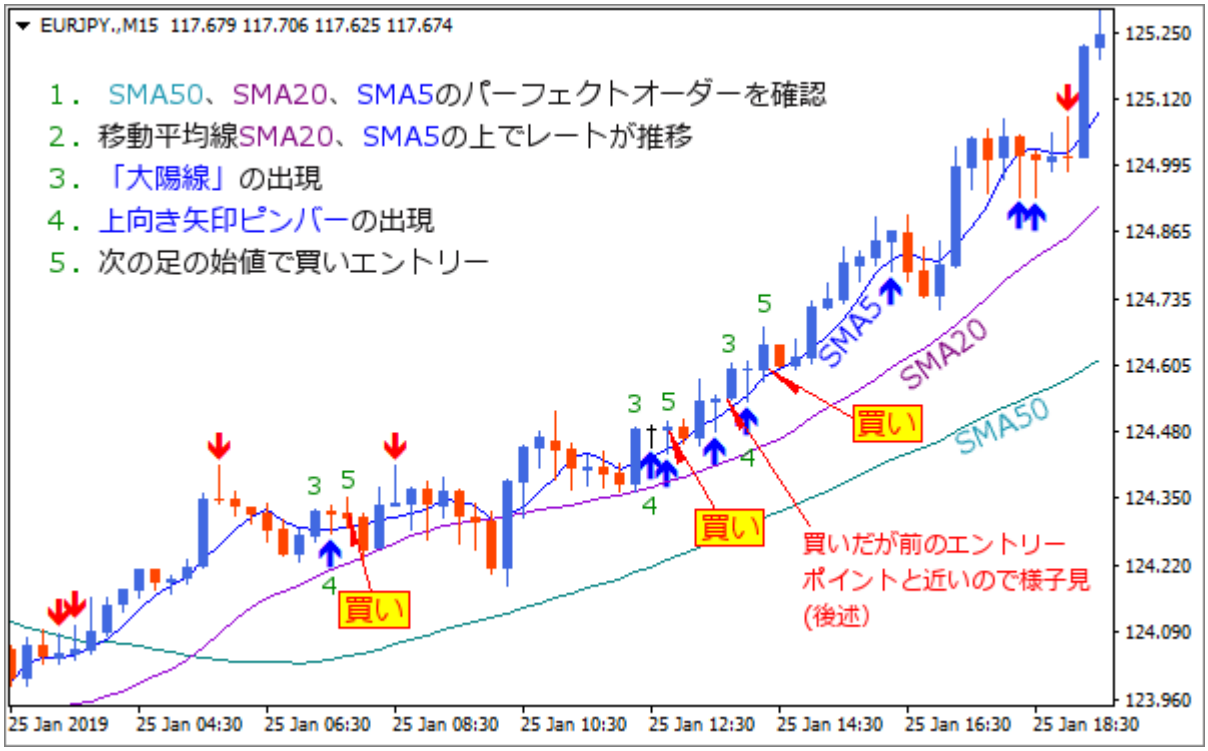
1． SMA50、SMA20、SMA5 のパーフェクトオーダーを確認（下から SMA50、SMA20、SMA5 の順番に並ぶ）

2． SMA20、SMA5 の上でレートが推移している

3．「大陽線」の出現

4．上向き矢印ピンバーの出現

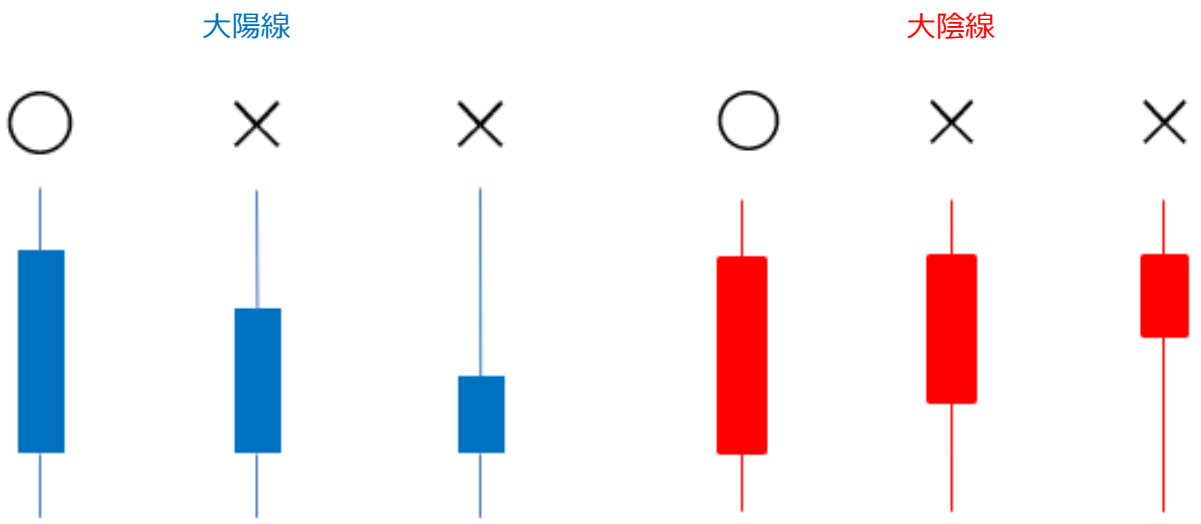
5．次の足の始値で買いエントリー



「大陽線」「大陰線」の基準

実体が上ヒゲよりも長いローソク足を「大陽線」とする。上ヒゲが実体よりも長い場合は見送り。実体と上ヒゲがほとんど同じ長さだった場合も見送る。下ヒゲの長さは考慮しなくてよい。

実体が下ヒゲよりも長いローソク足を「大陽線」とする。下ヒゲが実体よりも長い場合は見送り。実体と下ヒゲがほとんど同じ長さだった場合も見送る。上ヒゲの長さは考慮しなくてよい。



売りの場合

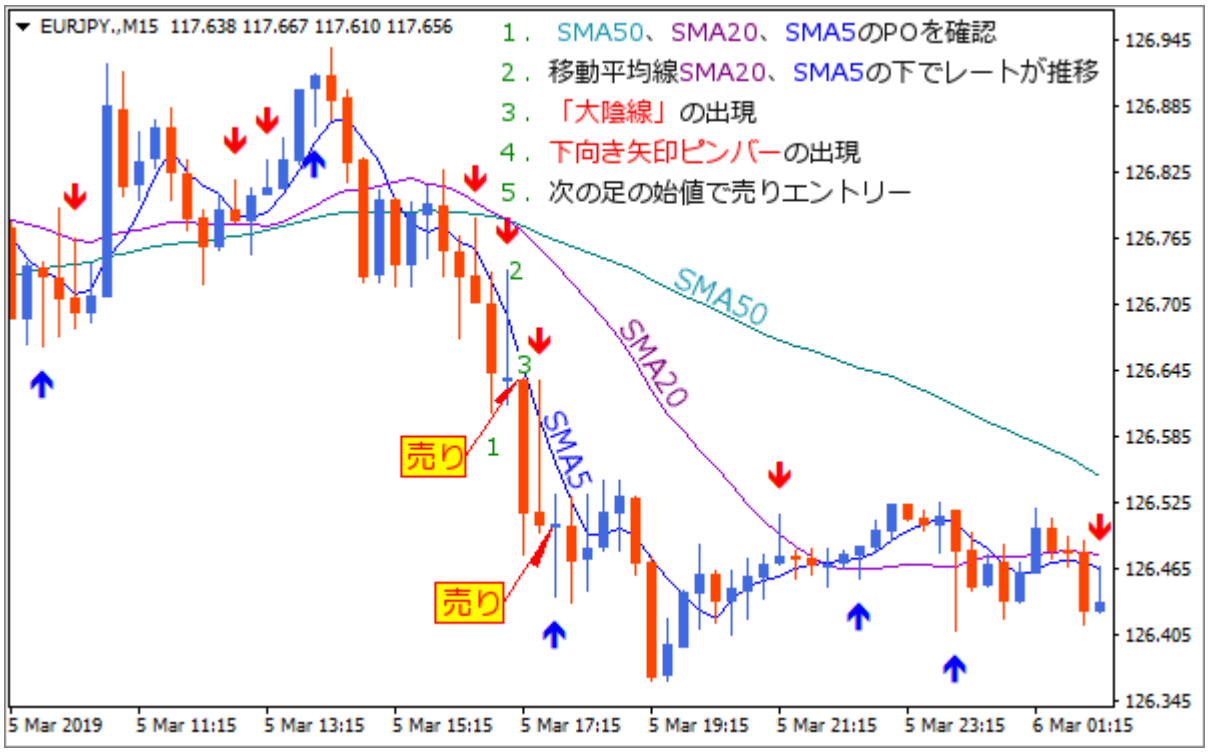
１． SMA50、SMA20、SMA5 のパーフェクトオーダーを確認（上から SMA50、SMA20、SMA5 の順番に並ぶ）

２． SMA20、 SMA5 の下でレートが推移している

３．「大陰線」の出現

４．下向き矢印ピンバーの出現

５．次の足の始値で売りエントリー



エントリーを見送る条件（15 分足）

1．パーフェクトオーダーでなくボラティリティが少ない場面

2．「三尊」「逆三尊」を予測させる形

3．SMA5 の角度がエントリー方向と逆になっている場面

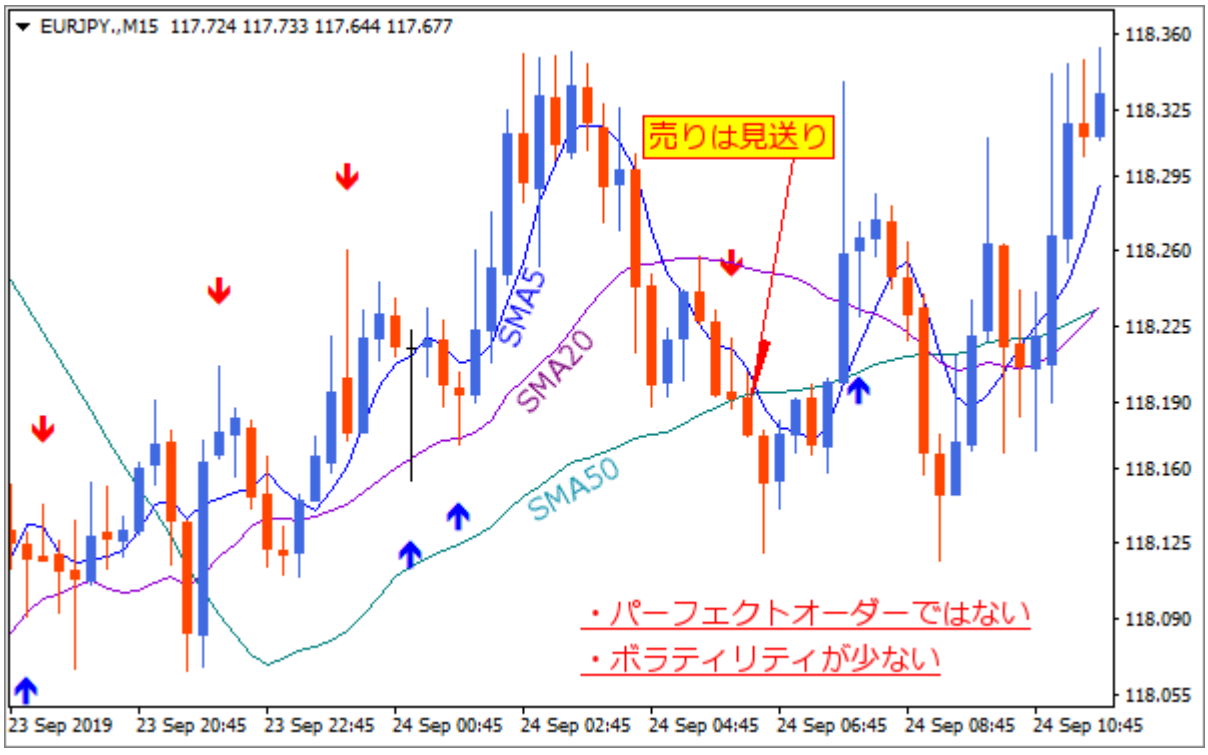
4．高値圏・安値圏でのダラダラとしたメリハリがない値動き

5．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

順番にチャートを使って解説する。

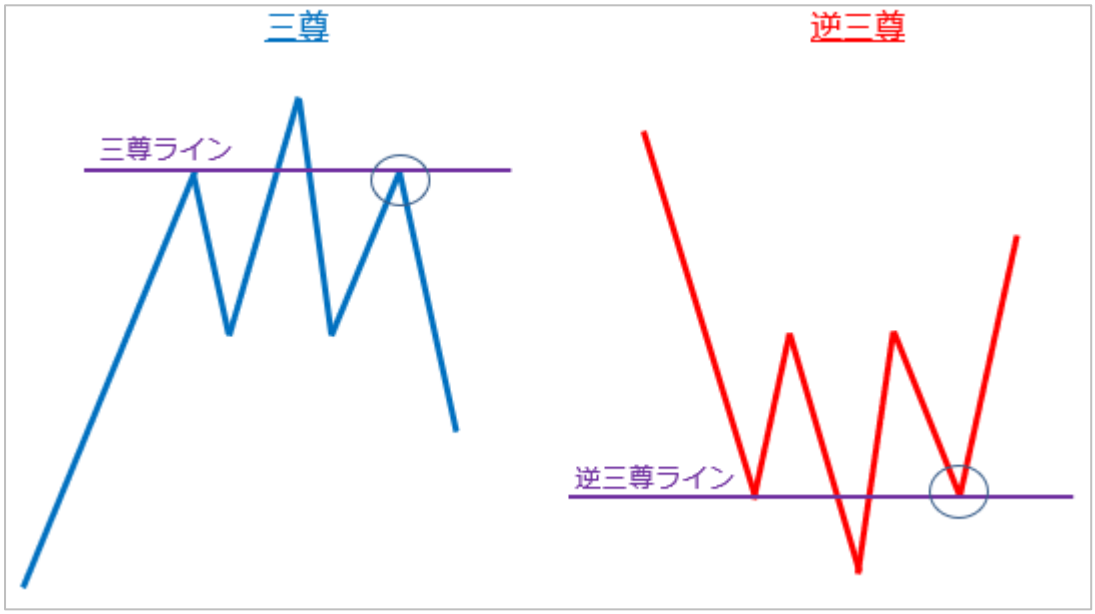
1．パーフェクトオーダーでなくボラティリティが少ない場面

以下のチャートでは「SMA20」が「SMA50」の上に位置している。パーフェクトオーダー達成までには時間がかりそうな状況だ。また、全体的なボラティリティも低下しているので、ここは見送るべき場面。



２．「三尊」「逆三尊」を予測させる形

「三尊」「逆三尊」は天井・底で発生する典型的なトレンド転換のサインとして知られている。図で表すと以下の形になる。



買い注文では「三尊」の形成、売り注文では「逆三尊」の形成が予測される場面ではエントリーを見送る。

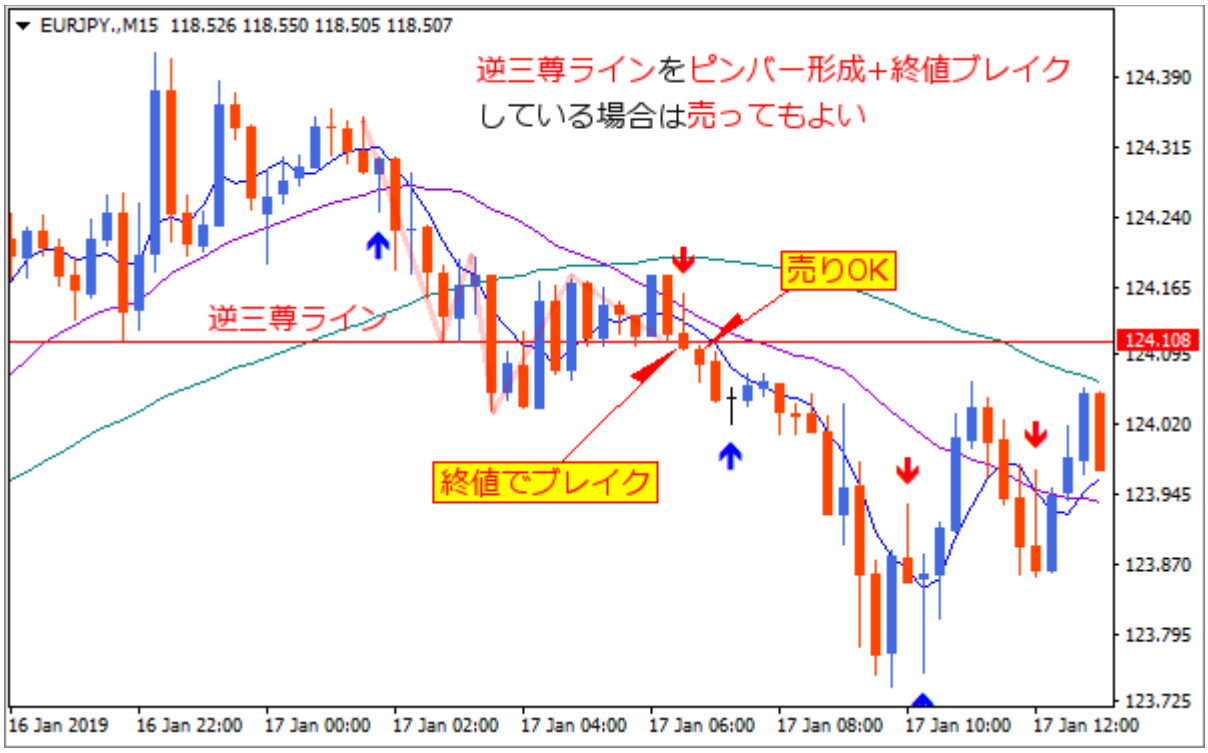
・逆三尊（売り注文）の例

※三尊・逆三尊でもエントリーしてもよいケース

「三尊」「逆三尊」を形成しそうな場面であっても、エントリーが可能なケースもある。

それはラインを「ローソク足終値でブレイク」している時だ。

以下のチャートでは「逆三尊」を警戒する場面になる。ピンバーの出現と同時に逆三尊ラインをブレイクしていることがわかる。意識されるラインを抜けることにより、ストップの注文をはきだし下落が加速していく。



「三尊」「逆三尊」の判断はある程度慣れが必要になってくるだろう。わかりにくければ、チャート上のローソク足を辿って斜めのラインを引いてみればよい。形が見えてくるはずだ。

数をこなしていくうちに、見送るパターンとエントリーしてもよいパターンを発見できるようになると思うので、注意深く観察していただきたい。

３．SMA5 の角度がエントリー方向と逆になっている場面

上昇トレンド中の「SMA5 下向き」下落トレンド中の「SMA5 上向き」では相場転換する可能性が高いのでエントリーを見送る。

・売りの例

以下のチャートは先に説明した「逆三尊」を警戒する必要もあるが、SMA5 の角度に注目してもらいたい。角度が上向きになっていることがわかる。

このような場面では SMA5 が SMA20 をゴールデンクロスして、上昇相場に転じることが多いのでエントリーを見送る。

※SMA5 の角度がエントリー方向と逆でもエントリーしてよい場面

・売りの例

SMA5 が上向きの場合でも売りのエントリーをしてよいケースがある。

以下のチャートは、先ほどのチャートと同じで SMA5 の角度が上向きで「大陰線」⇒「下向きピンバー」となり SMA5 を下抜けしている。

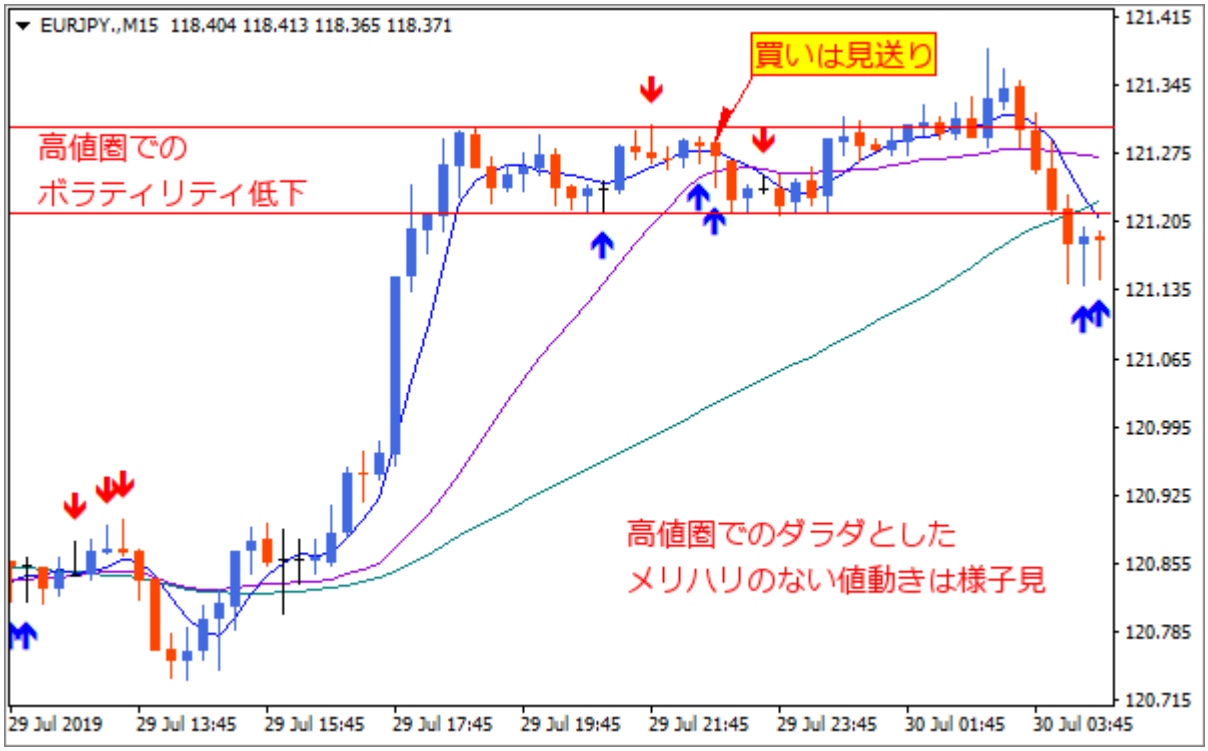
違うのは下落トレンド中の「キレイな戻し」を作っていることだ。戻りの場面で、連続で陽線が続いた後に大陰線 1 本というパターンは再度安値を目指す展開が多い。更にピンバーの出現で売りが加速しやすくなる。

この日は思惑通りの値動きにはならなかったものの、積極的に売ってもよい形だ。

４．高値圏・安値圏でのダラダラとしたメリハリがない値動き

酒田五法には「上値遊び」と「下値遊び」という言葉があるように、高値圏・安値圏でのボラティリティ低下には注意する必要がある。

以下のチャートのように、強い上昇トレンド中に値動きが少なくなる時もある。このような高値圏でのダラダラとした値動きでピンバーが発生してもエントリーは行わない。



パーフェクトオーダーではないがエントリーしてもよいケース

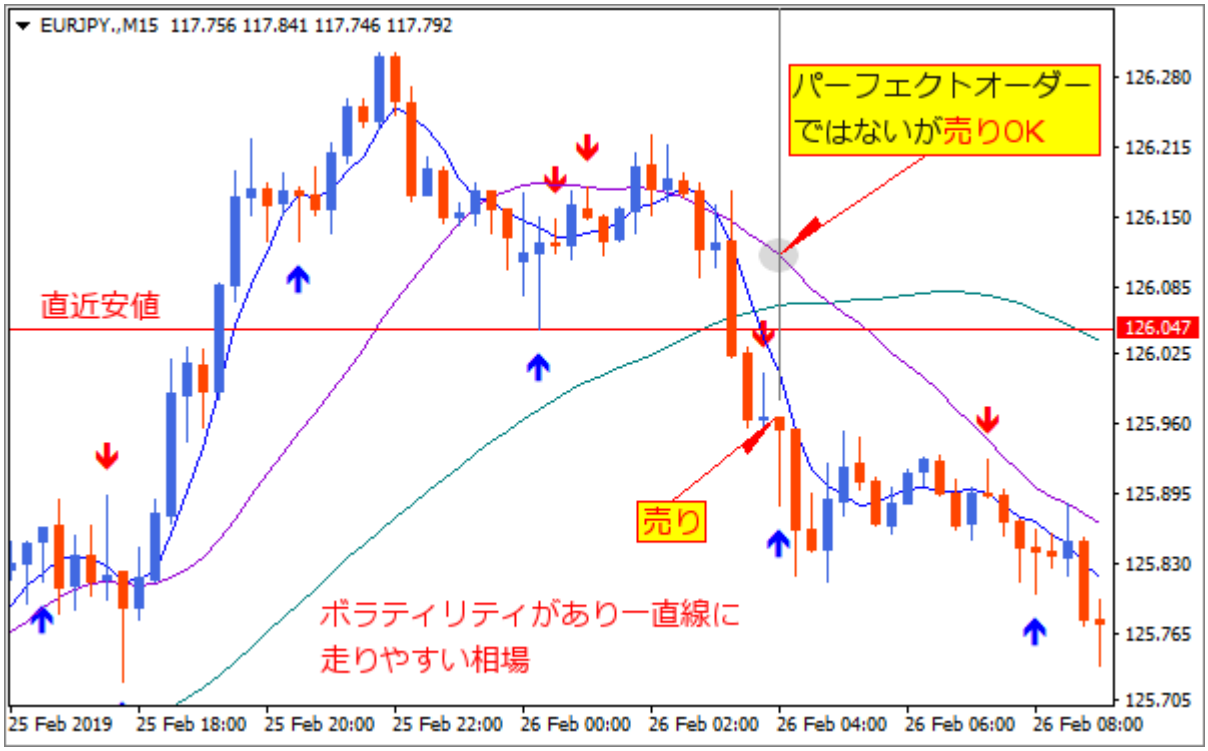
本手法で最も重要なのはプライアクションなので、パーフェクオーダーは少々フライング気味でも問題ない。

とくに以下の場合は、パーフェクトオーダーを待たずにエントリーしてもよい

１．パーフェクトオーダーではないが、ボラティリティが高くローソク足１本１本の長さが長い

２．パーフェクトオーダーではないが、高値・安値を明確にブレイクしている

前日からボラティリティがある相場。パーフェクトオーダーは達成していないが、エントリーしてもよい。直近安値もキレイにブレイクしている。



2．パーフェクトオーダーではないが、高値・安値を明確にブレイクしている

【ピラミッティング】既にポジションを保有している状況でも、追加で同方向にエントリー

以下の条件で積極的にピラミッティングを仕掛ける。

１．１つ目のポジションが+5pips 以上含み益になっている

２．同方向最大保有ポジションは「２つ」まで

３．同方向「２つ」のポジション（買い、売り合計４つのポジション）がリミットに到達したらその日のトレードは終了。

利益確定ルール（15 分足）

1．エントリー後「+20pips」にリミットを設定

2．エントリー後「三尊」「逆三尊」を予測させる形になった場合は「三尊ライン」「逆三尊ライン」で利確する

3． パーフェクトオーダーから 5 時間が経過している場合「+50pips」にリミットを設定

1．エントリー後「+20pips」にリミットを設定

２．エントリー後「三尊」「逆三尊」を予測させる形になった場合は「三尊ライン」「逆三尊ライン」で利確する

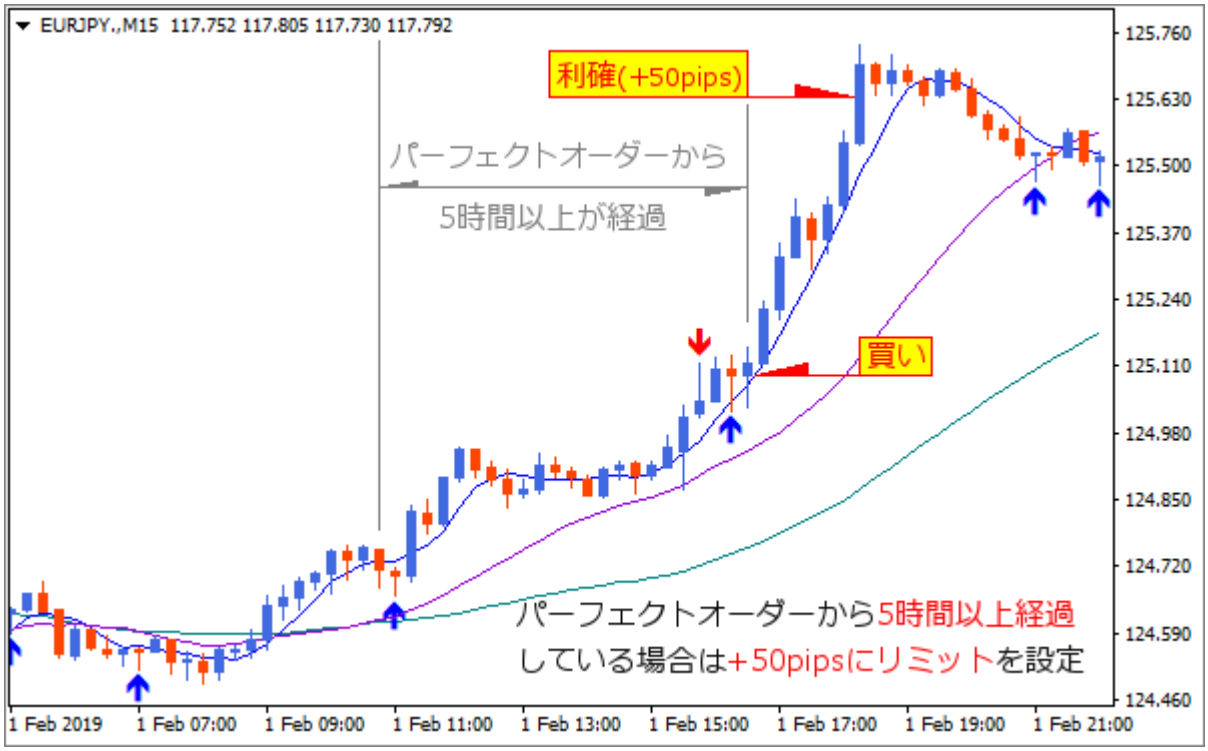
前述したように「三尊」「逆三尊」は相場の転換ポイントになりやすい特徴がある。したがってエントリーをしてから、新たに「三尊」「逆三尊」の形成が予測された場合は利益確定する。

以下のチャートでは、建値付近での決済となる。

３． パーフェクトオーダーから 5 時間が経過している場合「+50pips」にリミットを設定

移動平均線 3 本の「パーフェクトオーダー完成」からある程度時間が経過している相場は「トレンドが確定」したといえる。

この場合、更に値動きがトレンド方向に加速しやすいので、+20pips ではなく+50pips まで利益を伸ばす。



損切りルールとストップポイントの変更（15 分足）

１．エントリー後「-10pips」にストップを設定

２．「+15pips」以上の含み益になったらストップを建値に変更する。

３．パーフェクトオーダー5 時間が経過しているポジションは、押し目・戻し目を作り、2 回天井・底を試した場合のみ、ネックラインにストップを移動する

４．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

1．エントリー後「-10pips」にストップを設定

2．「+15pips」以上の含み益でストップを建値に変更する。

3．パーフェクトオーダーから 5 時間が経過しているポジションは、押し目・戻し目を作り、2 回天井・底を試した場合のみ、ネックラインにストップを移動する

4．ポジションは翌日に持ち越さずにスプレッドの拡大と、スワップポイントが付与される前に決済する（早起き推奨）

次に順張りピンバー手法の「1 時間足」のルールを解説する。

エントリールール、エントリーを見送る条件、利益確定ルール、決済ルール、すべてにおいて少しずつルールが異なる。そのため混乱しないように最初から解説していく。

チャート環境（1 時間足）

1．移動平均線 3 本表示（SMA50、SMA20、SMA5）

2．ピンバーはインジケーターを使用

※15 分足とすべて同じ設定

エントリールール（1 時間足）

買いの場合

1．移動平均線 SMA5、SMA20 の上でレートが推移している

2．「大陽線」の出現

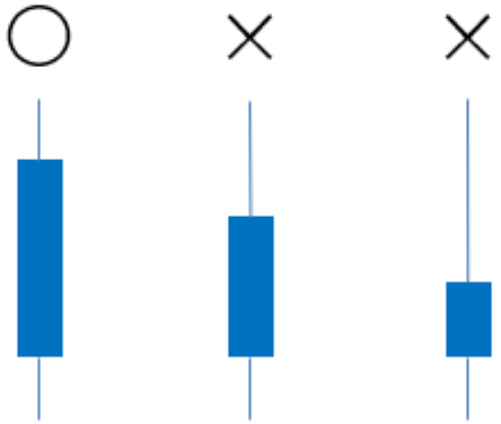
3．上向き矢印ピンバーの出現

4．次の足の始値で買いエントリー

※1 時間足は 15 分足と違い「パーフェクトオーダー」を確認しなくてもよい

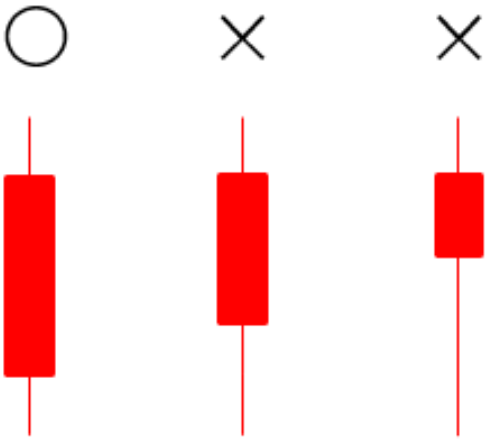
「大陽線」の基準

実体が上ヒゲよりも長いローソク足を「大陽線」とする。上ヒゲが実体よりも長い場合は見送り。実体と上ヒゲがほとんど同じ長さだった場合も見送る。下ヒゲの長さは考慮しなくてよい。



「大陰線」の基準

実体が下ヒゲよりも長いローソク足を「大陽線」とする。下ヒゲが実体よりも長い場合は見送り。実体と下ヒゲがほとんど同じ長さだった場合も見送る。上ヒゲの長さは考慮しなくてよい。



売りの場合

１．移動平均線 SMA5、SMA20 の下でレートが推移している

２．「大陰線」の出現

３．下向き矢印ピンバーの出現

４．次の足の始値で売りエントリー

※1 時間足は 15 分足と違い「パーフェクトオーダー」を確認しなくてもよい

エントリーを見送る条件（1 時間足）

１．３本の移動平均線の距離が近くボラティリティの少ない場面

２．「三尊」「逆三尊」を予測させる形

３．【買いの場合】大陽線の１つ前のローソク足を確認して、高値を更新している上ヒゲが長いローソク足の出現、【売りの場合】大陰線の１つ前のローソク足を確認して、安値を更新している下ヒゲが長いローソク足の出現。

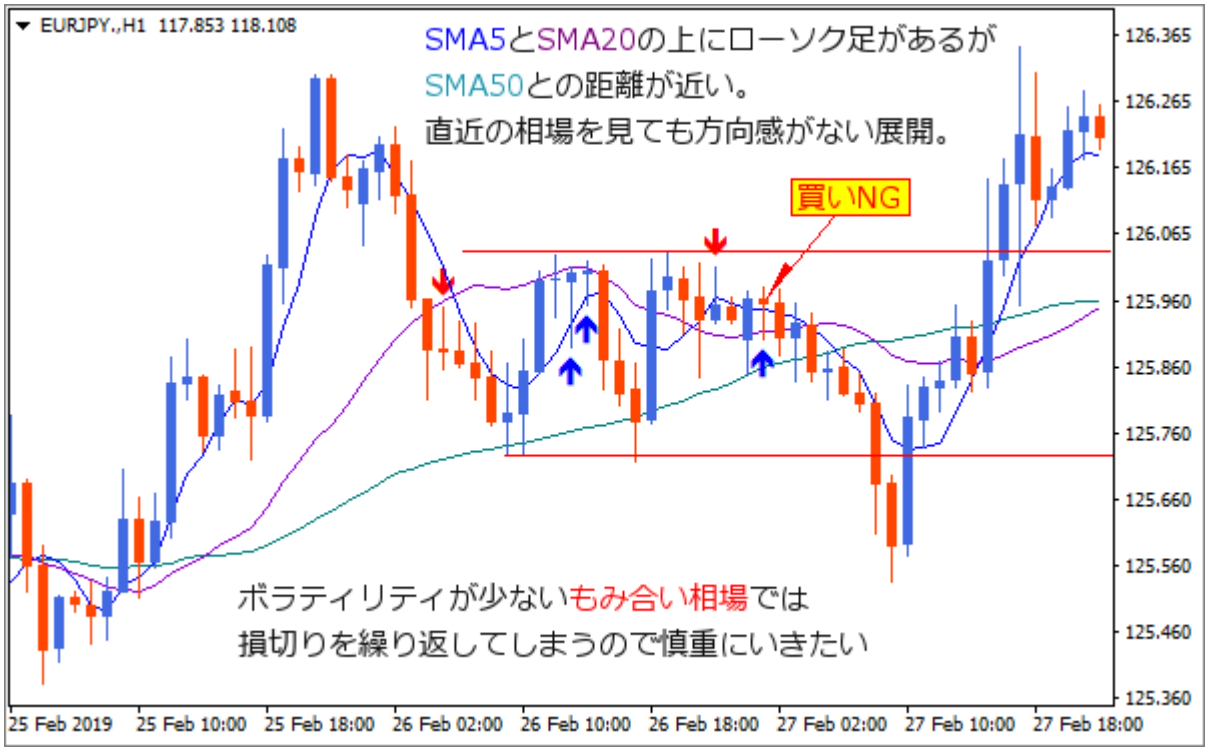
４．高値圏・安値圏でのダラダラとしたメリハリがない値動き

５．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

１～４まで順番にチャートを使って解説する。

１．３本の移動平均線の距離が近く、ボラティリティが少ない場面は見送る

以下のチャートでは「SMA5」と「SMA20」の上にローソク足がある一方で、３本の移動平均線の距離が近くもみ合い相場になっている。このような相場ではトレンドが出にくいので、エントリーを見送る。※1 時間足ルール

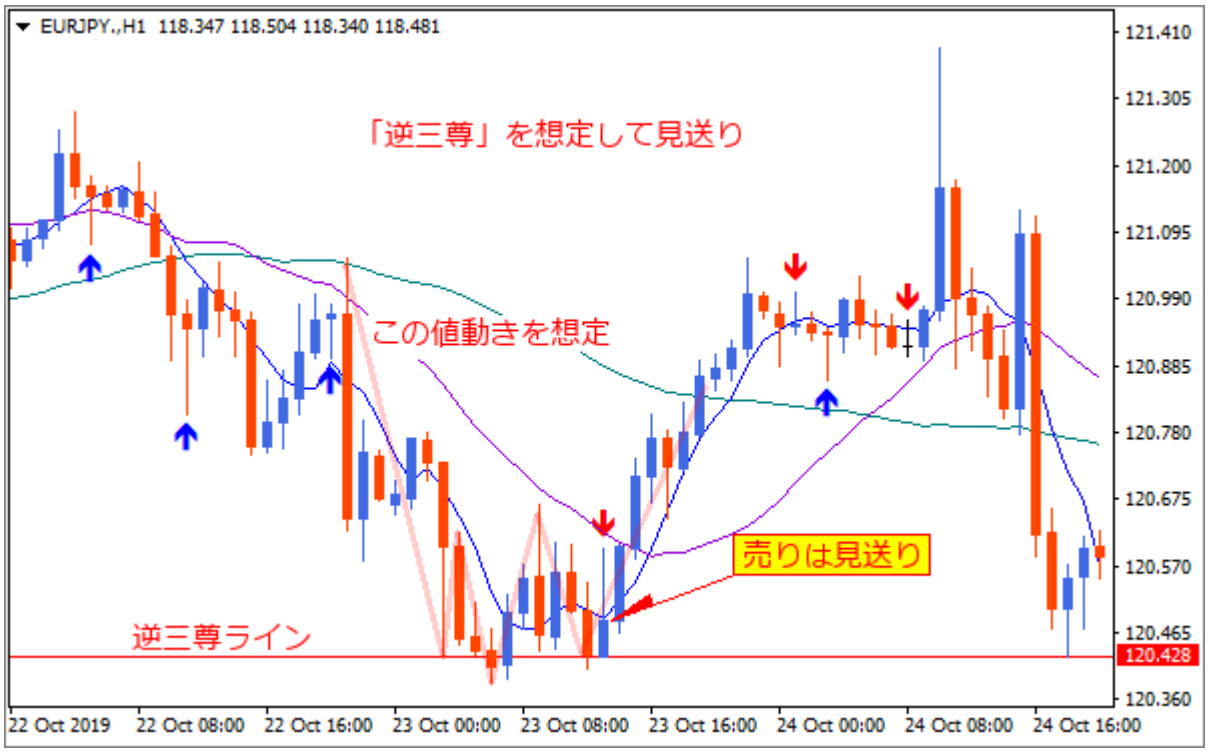


２．「三尊」「逆三尊」を予測させる形

買い注文では「三尊」の形成、売り注文では「逆三尊」の形成が予測される場面ではエントリーを見送る。

・逆三尊の例（売り注文）

「逆三尊ライン」でピタリ反発し上昇に転じている。「大陰線」後の下向きピンバーであっても売り込まれる展開は考えにくい。



３．【売りの場合】大陰線の１つ前のローソク足を確認して、安値を更新している下ヒゲの長いローソク足の出現で様子見。(※ただし３本の移動平均線がパーフェクトオーダーで、強いトレンドが発生している場合はエントリーしてもよい)　※1 時間足ルール

４．高値圏でのダラダラとしたメリハリがない値動きは様子見。（直近のローソク足１本１本が長くボラティリティが高ければエントリーしてもよい）※共通ルール

利益確定ルール（1 時間足）

１．エントリー後「+30pips」にリミットを設定

２．エントリー後「三尊」「逆三尊」を予測させる形になった場合は「三尊ライン」「逆三尊ライン」で利確する

３．エントリー後に直近高値・直近安値で反発するピンバーが出現した場合は利確する

４．エントリー直前にピンバーサインが発生していた場合は、反発する可能性が高いので直近高値・直近安値付近で利確する

５．明らかに相場に勢いが感じられる場面は、15 分足チャートを確認しながら+50pips にリミットを設定する

１から５まで順番にチャートを使って解説する。

１．エントリー後「+30pips」にリミットを設定

２．エントリー後「三尊」「逆三尊」を予測させる形になった場合は「三尊ライン」「逆三尊ライン」で利確する

３．エントリー後に直近高値・直近安値で反発するピンバーが出現した場合は利確する

４．エントリー直前に下ヒゲピンバーをつけた場合は、反発する可能性が高いので直近安値付近で利確する。

５．明らかに相場に勢いが感じられる場面は「+50pips」にリミットを設定

エントリー後に時間がかかることなく直近高値や直近安値など、意識されやすいラインを勢いよくブレイクした場合は、利益が伸びやいので「+50pips」の利益を目指して保有する。

この場合、エントリー後に設定している「+30pips」のリミットを一旦解除して、直近高値や安値のブレイク後にどのような動きになるか注目する。

具体的には 15 分足で勢いが感じられるようであれば「+30pips」より少しでも有利な位置で利確できるようにする。（最終的には+50pips の利益を目指す）

相場に勢いが感じられない、あるいは思惑通りに利益が伸びなければ「+30pips」に再度リミットを設定して利確する。

リアルタイムでチャートを監視している時にこの判断を行うのはなかなか難しいので、慣れるまでは「+30pips」で利確して、利益が伸びやすいパターンを自分自身で模索していただきたい。

以下に２つの例を示す。1 時間足と 15 分足両方を確認して総合的に判断する。

例 4-①：ダブルトップブレイクの際に直近高値が意識されず「大陽線」を形成

1 時間足、15 分足、両方のブレイクした陽線に注目（両方の足での勢いが重要）

※このときの 15 分足での値動き

例 4-②　強い上昇トレンド相場のわかりやすい押し目が入った後、直近高値を「大陽線」でブレイク。

※このときの 15 分足での値動き（直近高値へのファーストタッチでブレイクするのが望ましいが、その後の値動きを見ても「上昇の勢いがある」と判断できる）

損切りルールとストップポイントの変更（1 時間足）

4 つのルールがある。

1．ピンバーの安値、高値までの距離が近い場合は一律「10pips」に逆指値注文。

2．ピンバーの安値、高値までの距離が「10pips」以上離れている場合はロット数を減らしてエントリー行い、ピンバーの安値、高値から 1pips 余裕を見てストップを設定

3．「+25pips」以上の含み益になったらストップを建値に変更する。

4．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

1．【買い】エントリーポイントからピンバー安値までの距離が近い場合は、一律「10pips」に逆指値注文。

２．ピンバーの安値、高値までの距離が「10pips」以上離れている場合はロット数を減らしてエントリー行い、ピンバーの安値、高値から 1pips 余裕を見てストップを設定

損切り幅が「10pips」以上広がる場合は、１回あたりの取引リスクを減らすためにロット数を調整する。

たとえば「10pips ストップ＝1 ロット」であるとすれば、「20pips」離れていた場合はロット数を半分に減らして「0.5 ロット」でエントリーを行う。

ローソク足が確定してから計算しては遅いので、あらかじめロット数調整の基準を決めておけばよい。

※注（1pips 単位で神経質になる必要はない。迷っている間にエントリーが遅れてしまっては本末転倒なので、そこは臨機応変に対応していただきたい。）

たとえば以下のように表を作り、モニターの前に張っておくことをオススメする。

ストップ基準10pips

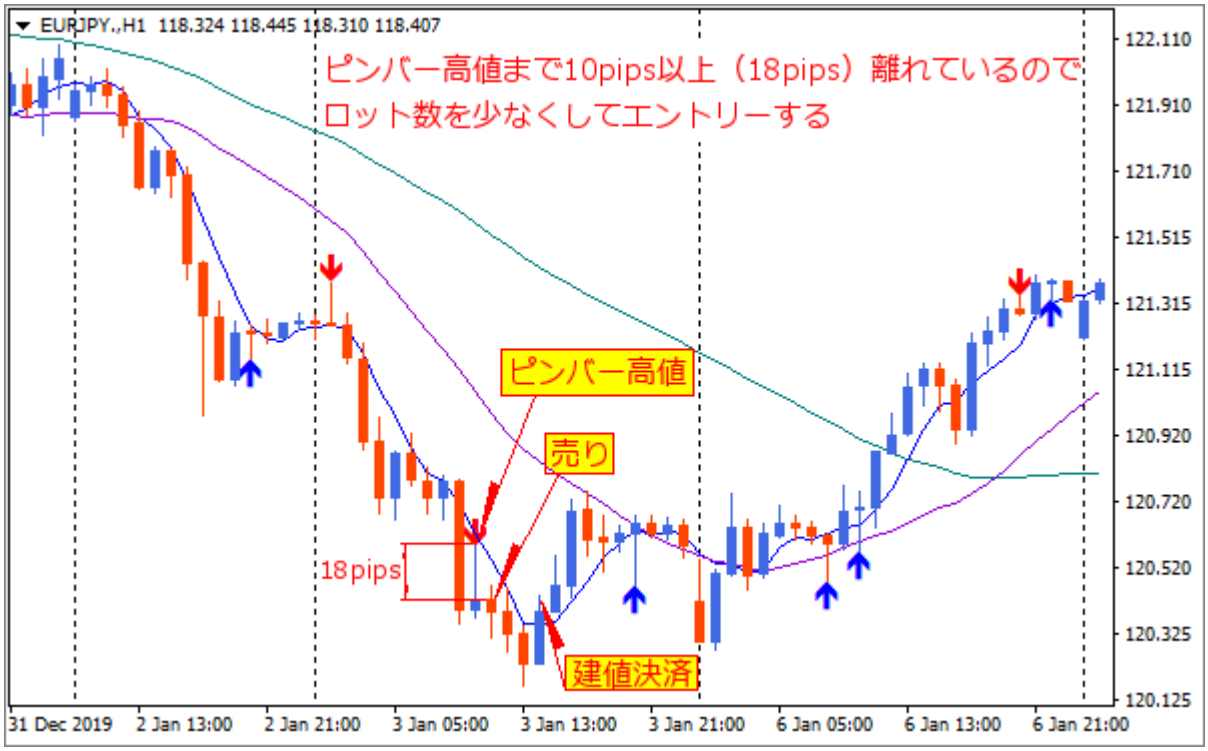
ストップ幅	ロット数
10.0pips以下	1.0ロット
10.1pips～12.0pips	0.9ロット
12.1pips～14.0pips	0.8ロット
14.1pips～16.0pips	0.7ロット
16.1pips～18.0pips	0.6ロット
18.1pips～20.0pips	0.5ロット

この手法に限らず、高値・安値付近では売りと買いの攻防が激しくなり、ほんのわずか（たとえば 0.1pips）はみ出しだして反発するというケースがよくあるので、ピンバーの高値・安値から 1pips 程余裕を見てストップを設定する。

売りの場合：「値幅+スプレッド+1pips 」がストップの値となる。

買いの場合：「値幅+1pips」がストップの値となる。

以下のチャートでは、ストップの「ピンバー高値」まで「18pips」離れているのでロット数を通常の「40%程」少なくしてエントリーする。



３．「+25pips」以上の含み益になったらストップを建値に変更する

たとえば「+29pips」の含み益後に「-10pips の損切り」になったとすれば多少なりともメンタルに影響を及ぼすだろう。建値決済で終えることにより、気持ちをリセットして、次のチャンスを待てる。

４．ポジションは翌日に持ち越さずにスプレッドの拡大と、スワップポイントが付与される前に決済する（早起き推奨）

まとめ

この手法は上昇トレンド中の大陽線、下落トレンド中の大陰線は「トレンドの継続を示唆する」という考えが前提にある。しかしトレンド中の大陽線・大陰線だけでは根拠が薄い。

次のローソク足がトレンド方向への「ピンバー」であることが重要となるのだ。

たとえば 1 時間足の下向き矢印のピンバーは、5 分足の「12 本」で見ると必ず一度上昇して下落という「だまし」の動きを形成している。

下落中に短い時間軸で買われ、反発上昇を匂わせてから一気に売り込まれた結果が、1 時間足のピンバーなのだ。つまりこの 1 時間で上昇に「失敗」しているともいえる。

上昇が失敗したことにより、次の足以降における「新規買い注文」が少なくなり、また強い売り込みを見て「新規の売り注文」が増えてくる。その結果、1 本前の「大陰線」を踏襲する形で下落が加速していくことになるのだ。

エントリーに関していえば、かなりシンプルなルールなので検証がしやすいはず。

また 1 時間足、15 分足以外でも有効な手法なのでぜひ試していただきたい。

No.２：逆張りピンバー手法

手法概要

執 筆 者	TOMOZO
取引スタイル	**デイトレード**
時 間 足	15 分足、1 時間足、その他
通貨ペア	何でも OK（検証は EUR/JPY）
分析方法	ピンバー、移動平均線
注文方法	成行、指値
取引時間帯	9:00～24：00

No.１の手法と同じで、複数の時間軸を使用せず、15 分足単体、1 時間足単体で分析が可能。また 3 本の移動平均線とピンバーはNo.１手法と設定値がすべて同じなのでチャートを変更する必要がない。

したがってこの手法はNo.１と２つセットで検証していただければわかりやすいかと思う。

No.１手法の名称は「順張りピンバー手法」だったが、この手法の名称は「逆張りピンバー手法」である。この名前からわかるように、No.１とNo.２は相対する手法となる。

たとえば上昇トレンド相場であれば、移動平均線の「上」で買うのがNo.１の順張り手法だ。一方でNo.2 逆張り手法は、移動平均線の「上」で売っていく。

正反対ゆえに時には「両建て」になるケースがある。ただしこの両建てが、リスクの分散になっているともいえる。複数の手法、複数の通貨で売買していればリスクヘッジは必須。

そういった意味で、順張り手法のポートフォリオとして私が昔から重宝している手法になる。今回は 1 時間足と 15 分足で解説をしていく。

最初に 1 時間足のルールから解説する。

№1 手法とは逆になるが 1 時間足からの方が分かりやすいので。

チャート環境（1 時間足）

１．移動平均線 3 本表示（SMA50、SMA20、SMA5）

２．ピンバーはインジケーターを使用（青色：上向き、赤色：下向き）

※№１．順張りピンバー手法とまったく同じ設定値。

エントリールール（1 時間足）

買いの場合

買い注文の前提条件として、移動平均線のパーフェクトオーダーを確認する。

SMA50、SMA20、SMA5 の「売りのパーフェクトオーダーを確認」

（以下のチャートのように上から SMA50、SMA20、SMA5 の順番に並ぶ）

エントリールールは下記４つ。すべて下落のパーフェクトオーダーを確認してからだ。

・1 時間足買い注文４つの「型」

１．ダブルボトム形成狙いのピンバー（ファーストタッチ限定）

２．上向きピンバーを形成しているポイントでの強い反発（ファーストタッチ限定）

３．上向きピンバーを形成しているポイントでのダマシ

４．１週間以内の直近安値でのピンバー（ファーストタッチ限定）

１．ダブルボトム形成狙いのピンバー（ファーストタッチ限定）

ダブルボトム形成を狙い、直近安値にファーストタッチで「上矢印ピンバー」が出現したら買い。この時のピンバー安値は直近安値のレートに対して同値か下回っている必要がある。

例：直近安値「117.516 円」とする。

〇：ピンバー安値「117.476 円」

〇：ピンバー安値「117.516 円」

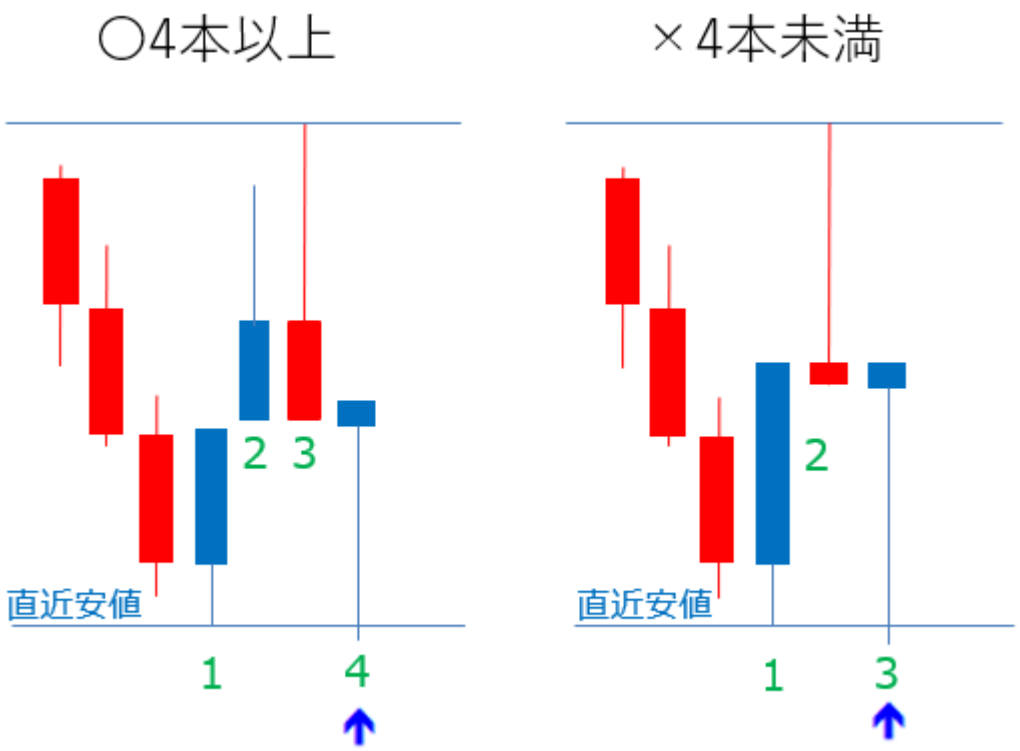
×：ピンバー安値「117.517 円」　※直近安値にタッチしていないので NG

・ファーストタッチではない。エントリーしないケース

以下のチャートではファーストタッチした次のローソク足でピンバーを形成している。どんなにキレイなチャートを形成していても、ファーストタッチでのピンバー以外はすべてエントリーを見送る。

・ダブルボトムの基準

ダブルボトムを判断する基準として直近安値をつけたローソク足から数えて「4 本以上」が必要となる。「4 本未満」は見送る。



２．上向きピンバーを形成しているポイントでの強い反発（ファーストタッチ限定）

以下３つの手順でエントリーを行う

1. 上向きピンバー形成

2. ピンバー（直近安値）へのファーストタッチで強い反発を確認

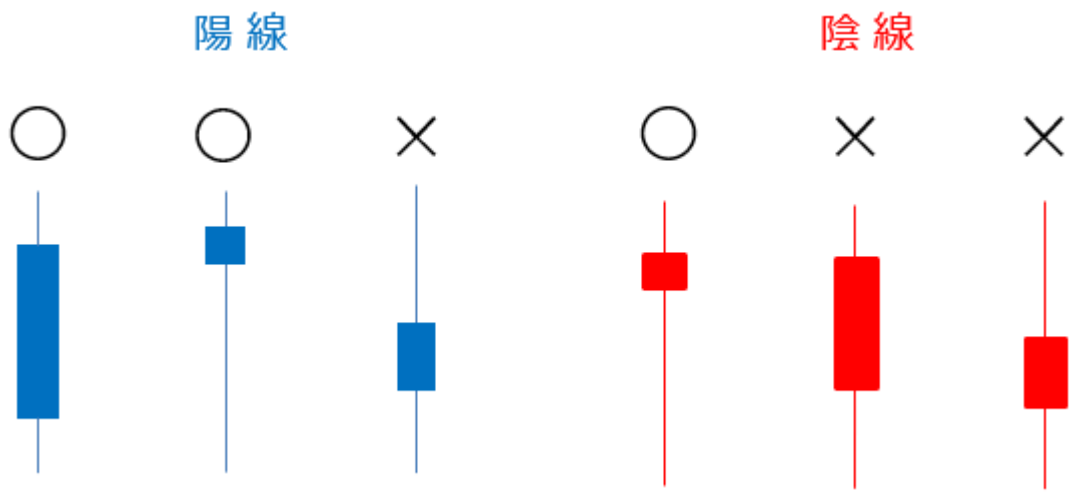
3. 次の足の始値で買いエントリー

ピンバーの形成は「反発の意志がある」と受け取れる。そのピンバーの安値まで再度下落して強い反発を見せることにより、１度目では買えなかった投資家が安心して買えるポイントになる。（強い反発の基準は次頁を参照）

強い反発（買い）：ローソク足の基準

陽線：下ヒゲ+実体が「上ヒゲ」よりも長いこと（十字線は避ける）

陰線：「下ヒゲ」が「実体+上ヒゲ」よりも長いこと



３．上向きピンバーを形成しているポイントでのダマシ

２のエントリールール「上向きピンバーを形成しているポイントでの強い反発」とは逆で「陰線」でのブレイクを待ってからエントリーとなる。

以下４つの手順でエントリーを行う

1. 上向きピンバー形成

2. ピンバー（直近安値）を陰線終値で下にブレイク

3. 次の陽線終値（1 本限定）で 直近安値を再度上にブレイク

4. 次の足の始値で買いエントリー

本手法は「ダマシ」の値動きを狙ったエントリー方法となる。

下落のパーフェクトオーダー中に意識される「直近安値」を下抜けることにより、買い勢の「損切り売り注文」や「新規の売り注文」が集まりやすい。

この場面では、相場が下方向に加速することを多くの投資家がイメージしているはず。

しかし多くの投資家の思惑は外れ、反対の買い注文が集まり、次の足で直近安値を上抜ける陽線が出現している。このスピード感が重要で、早ければ早いほど、トレンド方向と逆に走りやすい傾向がある。

ダラダラとした戻しでは、絶好の「戻り売りポイント」と認識され売り注文が増えるので、戻り売りポイントとは思わせず、反対方向に走りやすいのが「ローソク足 1 本限定」となる。

ローソク足 1 本限定の「形」は 1 時間足であれば、極端に上ヒゲが実体よりも長くなければエントリーをしてもよい。（※注 15 分足では厳しく見る必要がある）

４．１週間以内の直近安値でのピンバー（ファーストタッチ限定）

１のダブルボトム形成狙いのピンバーと同じルールだ。違うのは直近安値の基準を長い期間でみること。（1 週間が目安）

以下のチャートは 1 時間足では「ダブルボトム」には見えないだろう。しかし同じ場面を、4 時間足で見ると「ダブルボトム」を形成していることがわかる。

つまり 4 時間足の「ダブルボトム」形成狙い、1 時間足の上向きピンバー(ファーストタッチ限定)でエントリーを行うのが 4 つ目のルールだ。

4時間足ではダブルボトムを形成

なぜファーストタッチが重要なのか

ここまでエントリー「４つの型」をご紹介してきた。そのうちの「３つ」が直近安値での「ファーストタッチ」限定のエントリーとなる。

直近安値は、いわずもがな世界中の投資家が意識するポイントだ。

・直近安値は売りポジションの「利益確定」の「買い注文」が集まり、

・直近安値は、反発を狙った「新規」の「買い注文」が集まるポイント。

その重要なポイントで反発するのであれば「ファーストタッチ」の反応は極めて重要となる。ファーストタッチで反発するのは、売り注文を早めに諦めた投資家が多いか、あるいは早めに新規で買いたい投資家が多かったか、そのどちらかである。

直近安値をはさむ短時間で「均衡が崩れた」結果がピンバーとなるのだ。

仮に売りと買いの釣り合いが取れているのであれば、直近安値で一時的に戻されたとしても、１時間足でピンバーを形成することはない。

直近安値をはさんでの値動きは売りと買いとの「せめぎ合い」であり、上矢印のピンバーは買いが大差で勝利した瞬間ともいえる。

直近安値の動きに時間がかかるほど、徐々に相場の均衡が保たれて「もみ合い」に突入していく。

直近安値付近で何往復もする動きは迷いが生じている証であり、迷っている相場に手を出しては優位性のあるトレードはできない。

反発のスピード感を重視していることが、直近安値のファーストタッチで売買を行う理由である。

直近安値を同値、あるいは下回る必要がある理由は、そもそも最低でも同値まで下がらない限り、買いと売りの戦いが行われていないという考えのもとに導いたルールとなる。

エントリーを見送る条件（1 時間足）

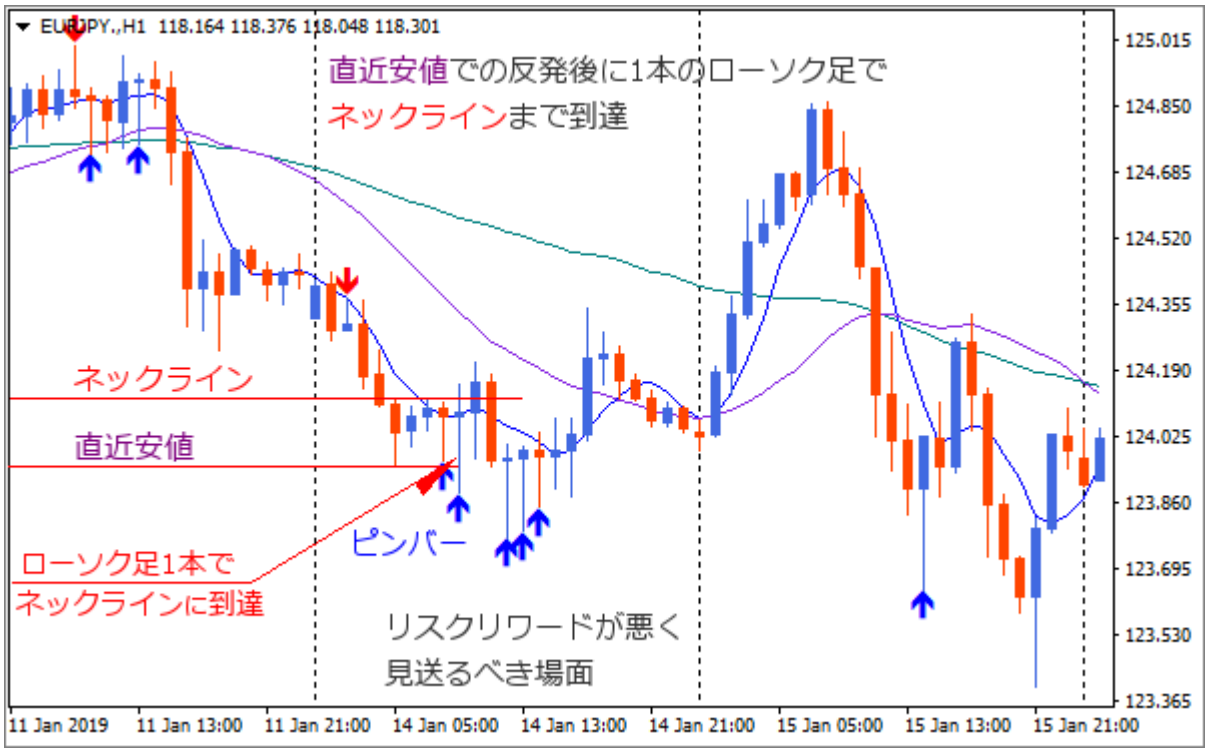
1．直近安値での反発後に 1 本のローソク足でネックラインまで到達しているケース

2．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

1．直近安値での反発後に 1 本のローソク足でネックラインまで到達しているケース

直近安値で反発をして勢いよく上昇、一気にネックラインまで到達するパターンはよく出現する。このようなあまりにもスピードが早すぎる値動きは、逆にネックラインでの売りを誘発することになるためエントリーを見送る。

またすでにネックラインまで上昇していることで、その分ストップまでの値幅が大きくなる。つまりリスクリワード比が高い、美味しいポジションとはならないことも見送る理由だ。



２．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

重要な経済指標の発表全はスプレッドが拡大し不安定な値動きになる。エントリーして利益を得られることはもちろんあるだろう。しかしストップが狭い、本手法でトレードするのはリスクが大きすぎる。チャンスはたくさんあるので、ムリをする必要はない。

続いて「売り」注文の型を確認していこう。

売りエントリーの場合

売り注文の前提条件として、移動平均線のパーフェクトオーダーを確認する。

SMA50、SMA20、SMA5 の「買いのパーフェクトオーダーを確認」

（以下のように下から SMA50、SMA20、SMA5 の順番に並ぶ）

・売り注文４つの「型」

１．ダブルトップ形成狙いのピンバー（ファーストタッチ限定）

２．下向きピンバーを形成しているポイントでの強い反落（ファーストタッチ限定）

３．下向きピンバーを形成しているポイントでのダマシ

４．１週間以内の直近高値でのピンバー（ファーストタッチ限定）

「買い」と「売り」のルールはすべて同じなのでチャートでの説明は省く。

売りエントリーのチャートを確認したい方は本書の「レビュー特典」に掲載してある、チャートパターンをご活用いただきたい。（235 ページ参照）

利益確定ルール（1 時間足）

本手法では「+30pips」固定で利益確定している。成行でエントリー後「+30pips」に指値注文を行う。

天井・底をとらえられる手法なので、もっと伸ばせるのではないか？という疑問をもつ方もいると思う。しかしあくまでも「パーフェクトオーダー中の逆張り」であるので、欲張る必要はない。

ただし「30pips」よりも「40pips」の方がトータルの損益は大きくなる傾向がある。

一方で勝率は当然低下する。

このあたりの設定値は各トレーダーのスタイルや性格にも左右されるので、ご自身で検証していただき、自分に合った利益確定ルールを構築していただきたい。

損切りルールとストップポイントの変更（1 時間足）

以下 5 つのルールがある。

1．安値、高値から「1pips」余裕を見てストップを設定

2．安値、高値までの距離が「20pips」以上離れている場合は、ロット数を減らしてエントリー行い、安値、高値から「1pips」余裕を見てストップを設定

3．「+25pips」以上の含み益になった場合はストップを建値に変更する

4．エントリーから 10 時間経過した場合はストップを建値に設定

5．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

1．ピンバーの安値、高値から「1pips」余裕を見てストップを設定

「1pips」余裕を見てストップを設定するのは、どのエントリールールでも同じだ。

たとえば 3 の「上向きピンバーを形成しているポイントでのダマシ」でエントリーした場合も、エントリーの決め手となったローソク足の安値から「-1pips」がストップの値となる。

２．ピンバーの安値、高値までの距離が「20pips」以上離れている場合は、ロット数を減らしてエントリー行い、ピンバーの安値、高値から 1pips 余裕を見てストップを設定

損切り幅が広い場合は、１回あたりの取引リスクを減らすためにロット数を調整する。

たとえば「20pips ストップ＝1 ロット」であるとすれば、「25pips」離れていた場合はロット数を減らして「0.8 ロット」でエントリーを行う。

ローソク足が確定してから計算しては遅いので、ある程度自分で基準を決めておくべき。

※注（1pips 単位で神経質になる必要はない。迷っている間にエントリーが遅れてしまっては本末転倒なので、そこは臨機応変に対応していただきたい。）

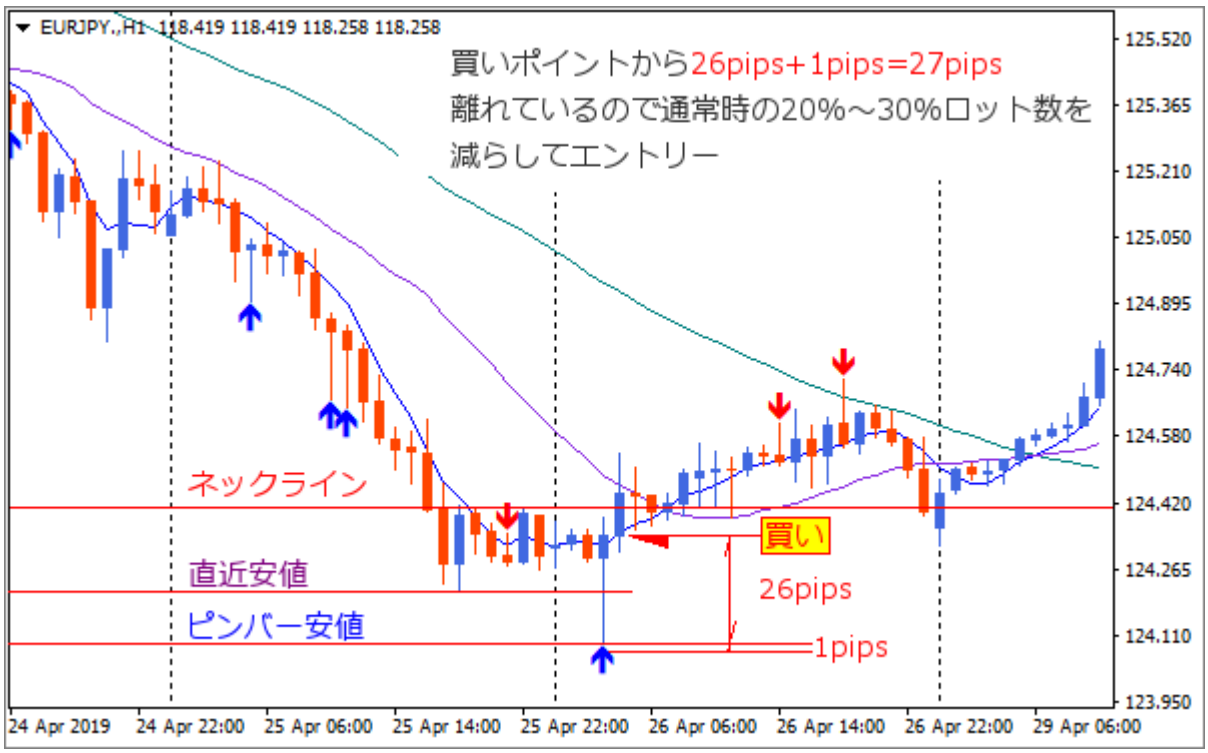
たとえば以下のように表を作り、モニターの前に張っておくことをオススメする。

例（ストップ基準 20pips）

ストップ基準20pips

ストップ幅	ロット数
20.0pips以下	1.0ロット
20.1pips～23.0pips	0.9ロット
23.1pips～26.0pips	0.8ロット
26.1pips～30.0pips	0.7ロット
30.1pips～35.0pips	0.6ロット
35.1pips～40.0pips	0.5ロット

ロット数変更：チャート例



３．「+25pips」以上の含み益になった場合ストップを建値に変更する

４．エントリーから「10 時間」経過した場合はストップを建値に変更

時間が経ちすぎると再度安値を試す可能性が高いため、エントリー後に「10 時間」が経過した場合はストップを建値に移動する。

５．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

次に逆張りピンバー手法の「15 分足」のルールを解説する。

15 分足でのコンセプトは「キレイな形」だけを狙っていくことだ。

15 分足では 1 時間足よりもおのずと取引回数が多くなり、その分「ダマシ」の値動きも増えてくる。その結果、損切りが増えて PF が悪化してしまう。

そうならないように「15 分足」ではより世界中の投資家に意識されやすいポイントだけに絞って取引を行っていく。

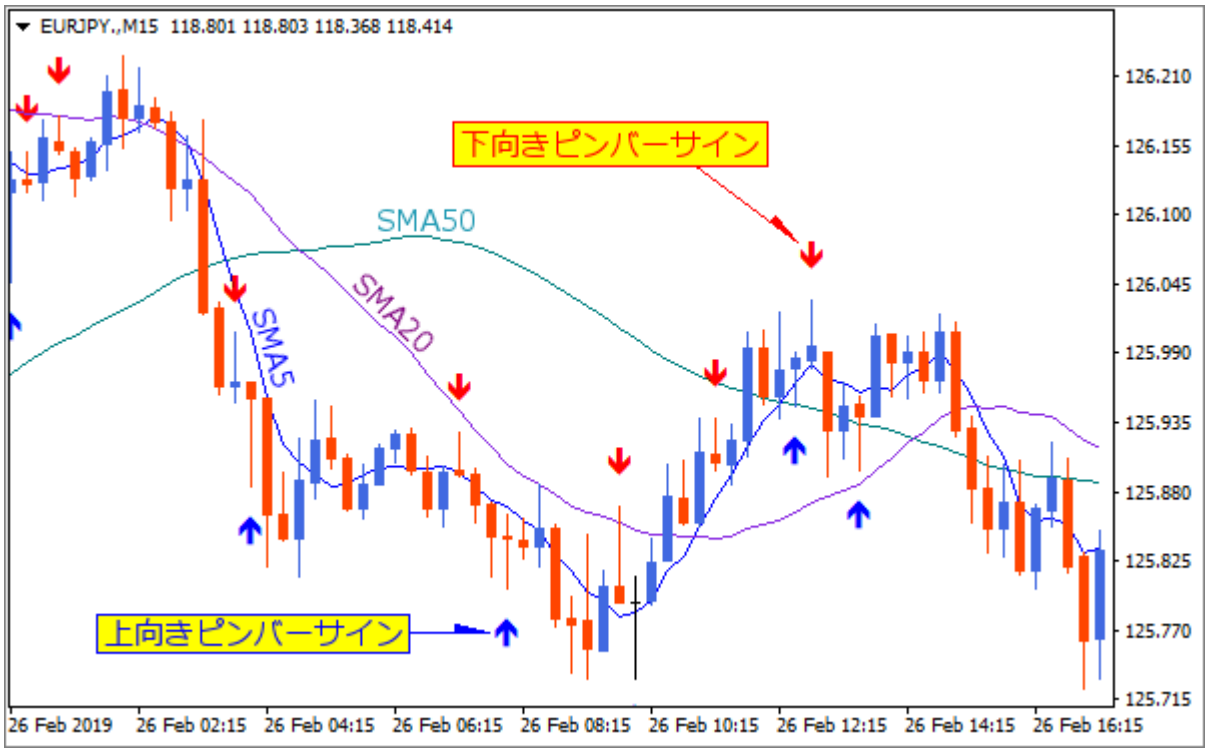
チャート環境（15 分足）

1．移動平均線 3 本表示（SMA50、SMA20、SMA5）

2．ピンバーはインジケーターを使用

チャート環境は 1 時間足とまったく同じだ。

買い注文の前提条件として、移動平均線の「パーフェクトオーダー」を確認するルールも 1 時間足と変わらない。



エントリールール（15 分足）

エントリー面で 1 時間足と 15 分足の違いは、

３の「上向きピンバーを形成しているポイントでのダマシ」と４の「1 週間以内の直近安値でのピンバー（ファーストタッチ限定）」のエントリーを行わないことだ。

３のエントリーを行わない理由は、１と２のルールを比較してエントリーポイントが視覚的にわかりにくいためだ。15 分足は 1 時間足の 4 倍のスピードでローソク足が確定するので、複数通貨ペアを監視していると、わかりにくい 3 のルールはどうしてもエントリーの見逃しが多くなってしまう。したがって 15 分足では排除している。

４のエントリーを行わない理由は、15 分足となると単純に 1 時間足よりも一日に描かれるローソク足の本数が多くなる。

ローソク足の本数が多くなると、直近安値はおのずと増えることになり、15 分足においてはファーストタッチでのピンバーが出現しても反発ポイントになりにくい傾向にある。

したがって 15 分足では以下 2 つの型でエントリーを行う。

・15 分足買い注文 3 つの「型」

１．ダブルボトム形成狙いのピンバー（ファーストタッチ限定）

２．上向きピンバーを形成しているポイントでの強い反発（ファーストタッチ限定）

~~３．上向きピンバーを形成しているポイントでのダマシ~~

~~４．1 週間以内の直近安値でのピンバー（ファーストタッチ限定）~~

・15 分足売り注文 3 つの「型」

１．ダブルトップ形成狙いのピンバー（ファーストタッチ限定）

２．下向きピンバーを形成しているポイントでの強い反落（ファーストタッチ限定）

~~３．下向きピンバーを形成しているポイントでのダマシ~~

~~４．1 週間以内の直近高値でのピンバー（ファーストタッチ限定）~~

1 時間足と同じ形になるが、復習の意味で 15 分足でもそれぞれのパターンをチャートで確認していくこう。

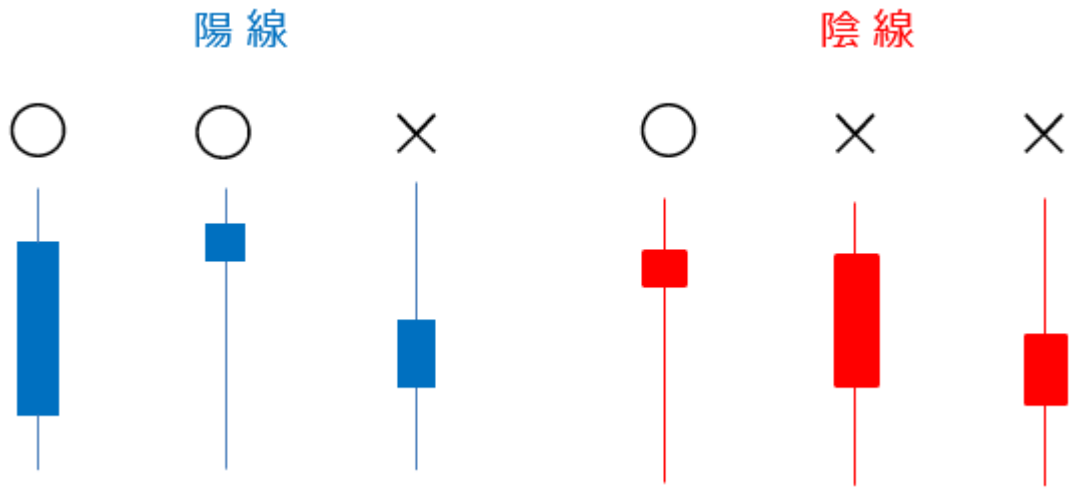
１．ダブルボトム形成狙いのピンバー（ファーストタッチ限定）

２．上向きピンバーを形成しているポイントでの強い反発（ファーストタッチ限定）

強い反発（買い）：ローソク足の基準

陽線：下ヒゲ+実体が「上ヒゲ」よりも長いこと（十字線は避ける）

陰線：「下ヒゲ」が「実体+上ヒゲ」よりも長いこと



エントリーを見送る条件（15 分足）

15 分足のエントリーを見送る条件は、1 時間足よりも細かくルールを設定している。やはりキーポイントとなるのは「キレイな形」であることだ。

1．直近安値での反発後に 1 本のローソク足でネックラインまで到達している、またはネックラインまでの距離が近い場合

2．直近のサポート・レジスタンスで反発している（直近サポ・レジを更新していない）

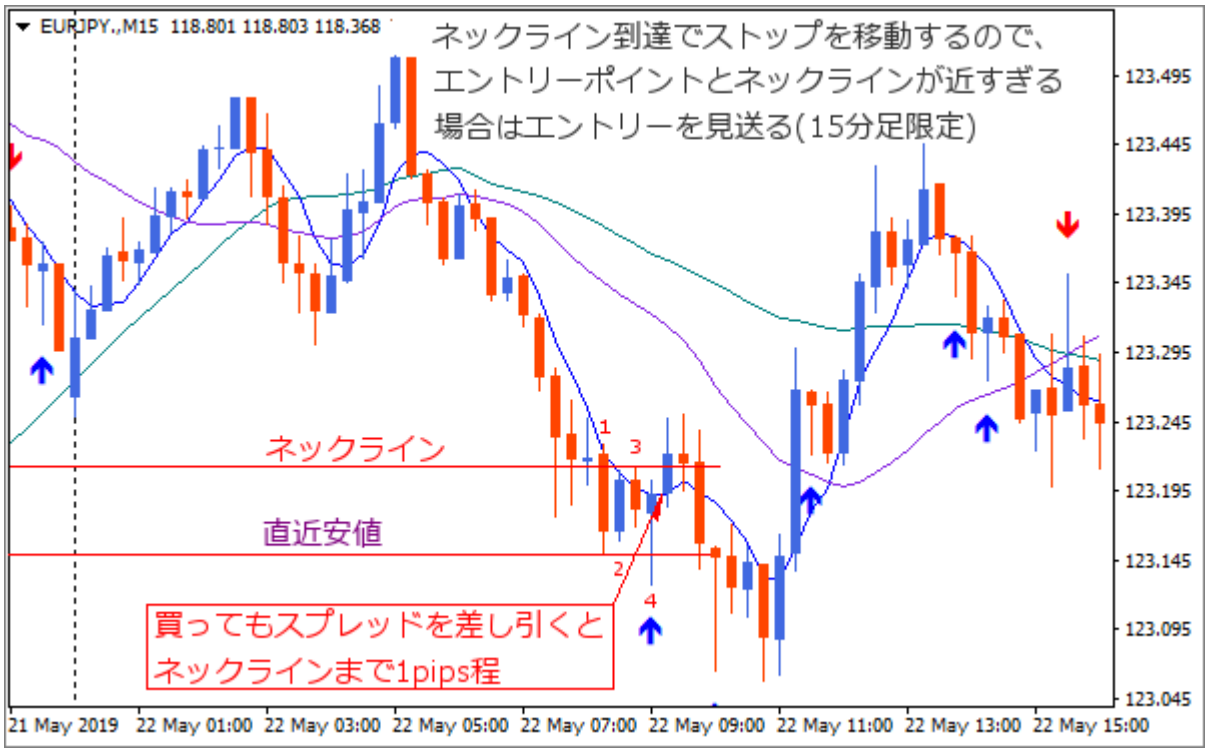
3．ダブルボトム・ダブルトップの形がきたないケース（バランスが悪い）

4．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

見送り１．直近安値での反発後に１本のローソク足でネックラインまで到達している、またはネックラインまでの距離が近い場合

15 分足では、1 時間足と異なりネックラインまで到達したタイミングでストップを建値に移動する（後述）したがってネックラインとの、距離が近い場面でエントリーしても、すぐにストップを建値に移動することになるので、エントリーは見送る。

以下のチャートでは、直近安値でのピンバーを確認して、エントリーしてもスプレッドを差し引くと、ネックラインまでは約「1pips」程の値幅しかないので見送りとなる。



見送り２．直近のサポート・レジスタンスで反発している（直近サポ・レジを更新していない）

冒頭で「15 分足はキレイな形だけに絞ってエントリーする。」と述べた。そのために重要となるのがこの見送りルールだ。少々ややこしいので、チャートパターンを複数用いて説明していく。

まず理想的なパターンを紹介する。

チャート上に直近安値・直近高値が２つでてきて、説明がややこしくなるので、

買いの場合

・過去の直近安値を「サポート」

・現在のレートに最も近い直近安値を「直近安値」

売りの場合

・過去の直近高値を「レジスタンス」

・現在のレートに最も近い直近高値を「直近高値」　と表記している。

以下のチャートではルール通り、直近安値へのファーストタッチ上向きピンバーを確認してから「買い」注文をしている。これはエントリールール「１」の形になる。

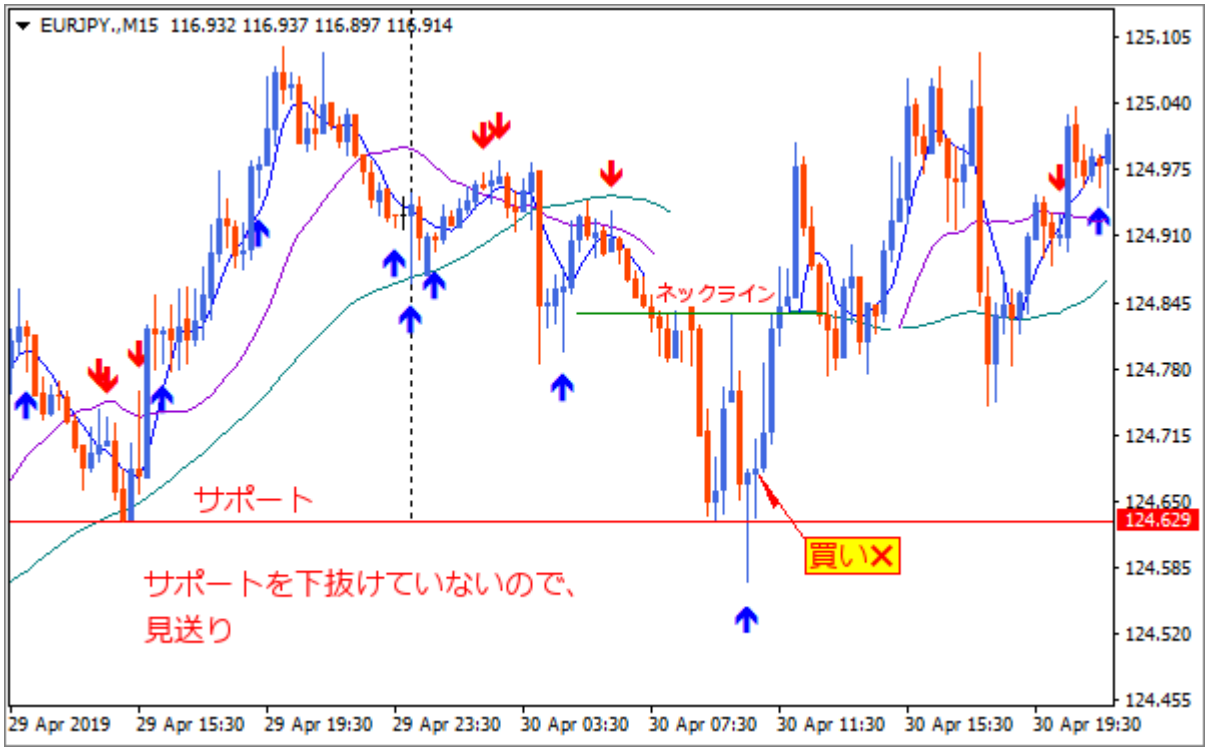
この時に 15 分足で注目していただきたいのが「サポート」をブレイクしているかだ。

サポートをローソク足の終値でしっかりと下抜けて安値を更新（新たな底を形成）している時のみ、エントリーを行う。

逆に言えば、サポートの手前やサポートピタリで反発している場合は見送りとする。

わかりやすいよう、同じチャートを合成して「見送り」のパターンを確認してみよう。

「サポートピタリで反発」⇒「ネックライン形成」⇒「上抜きピンバー出現」という流れだ。「キレイな形」なのでは？と疑問をもつ方もいると思う。しかし下記のチャートは見送りのパターンとなる。



なぜならこの場面での「上向きピンバー」はダマシのきっかけになりやすいのだ。

見送りの理由として、相場の方向性が本当に決まっているのであれば、サポートで反発した後にネックラインをつけて再度安値を試す動きはしない。

以下のように、一気に上昇して直近高値を目指す展開になるはずだ。

つまり「サポートで反発したのに」一度では上昇できずに「再度安値を試した。」この事実をネガティブにとらえて見送りを決定する。

ここであらためて、最初の理想的なエントリーパターンを確認してみよう。

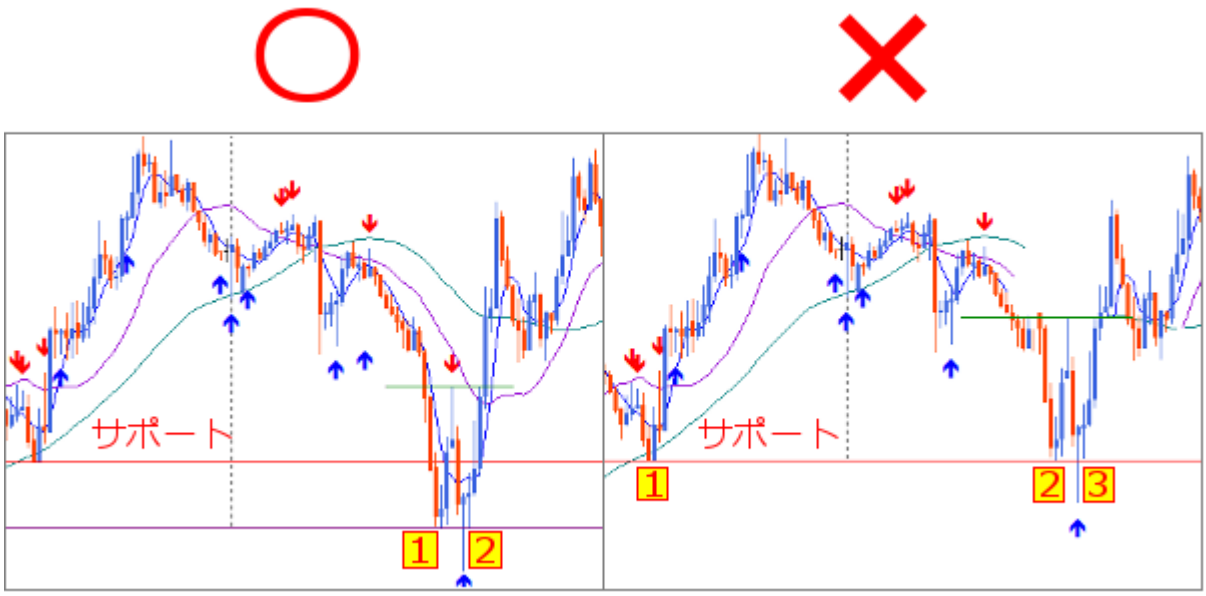
サポートを下抜け後に反発、上昇することにより「直近安値」が誕生している。

「直近安値」の形成に貢献したのは、サポートを下抜けているのに完全逆張りで「買った」実に勇気のある人だ。しかしこのタイミングで買うのは、根拠の薄いギャンブルといえる。

買いの正しいタイミングとしては新しく誕生した「直近安値」での反発を確認することだ。

「直近安値」が「新しい底値」になる。新しい底値を作れば、サポートの下抜けを見て売っていた投資家もポジションクローズの買戻しを行い、また新規の買い勢も参入することになる。その流れが相場の転換を引き起こすのだ。

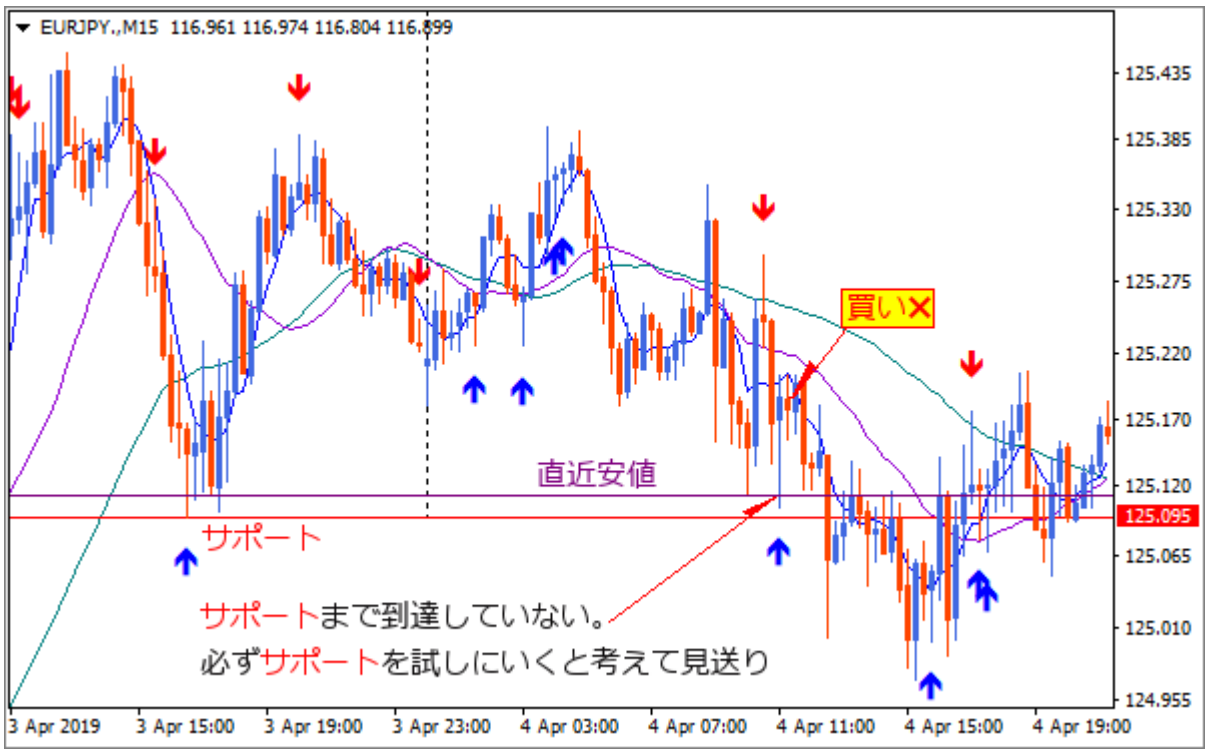
この見送りルールを簡単にまとめると「3 回目のタッチは見送る」と覚えておくとわかりやすいだろう。



※注）サポート 2 回目タッチでのピンバー形成も 15 分足ではエントリーしない。

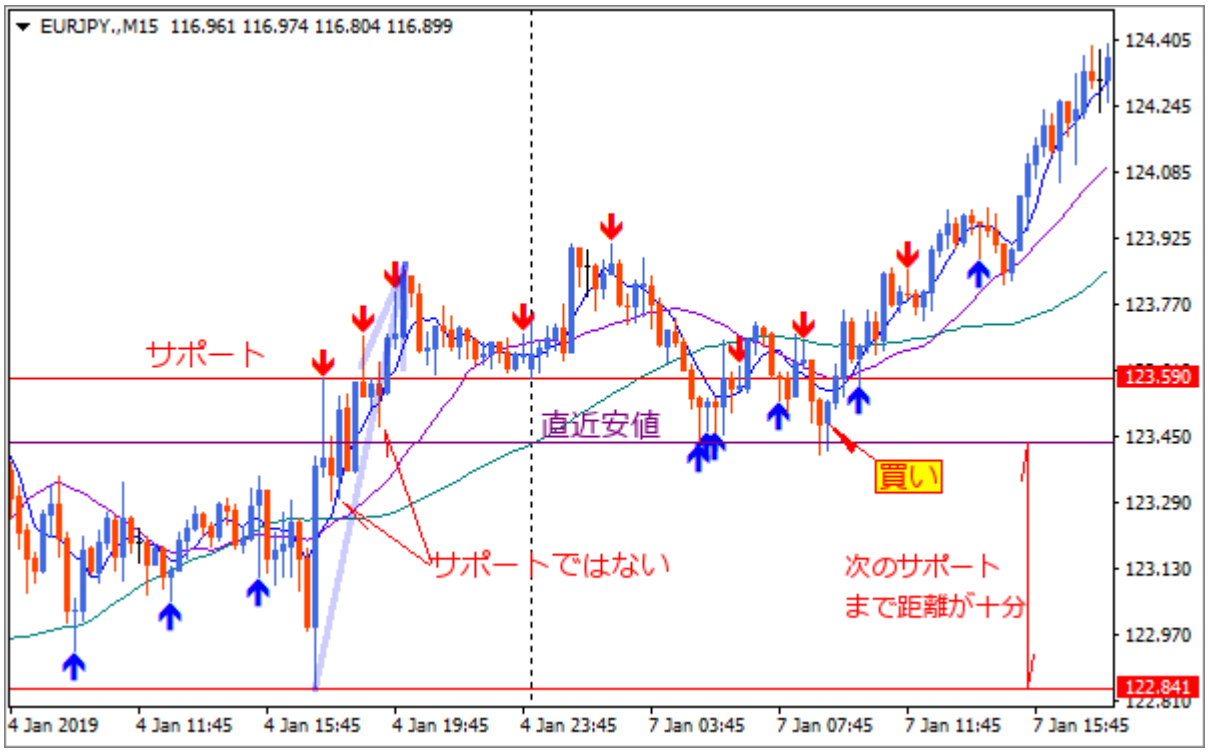
ここまでは、サポートピタリで反発している場面の事例を解説してきた。さらにサポートの手前で反発している場面もエントリーは見送る。

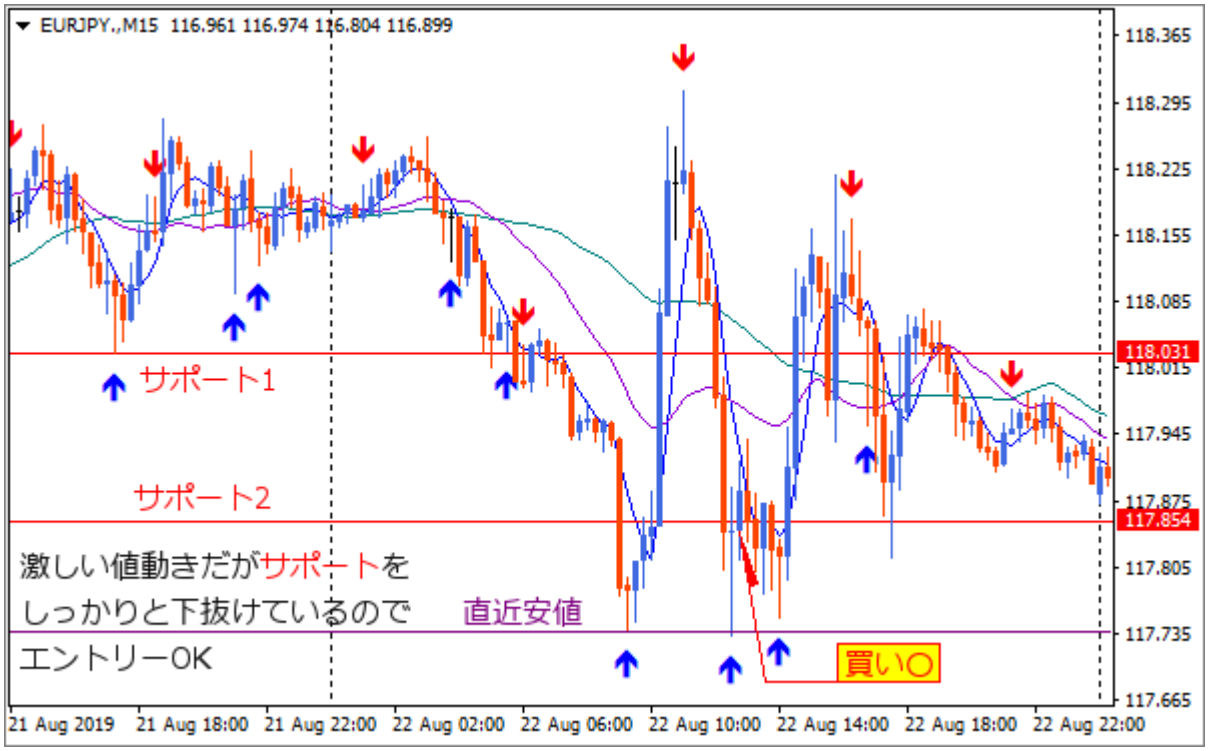
なぜならば「サポートを必ず試しにいく」という考えをもとにしているからだ。意識されそうなサポートが近くにある場合は見送り、サポートのブレイクを待とう。

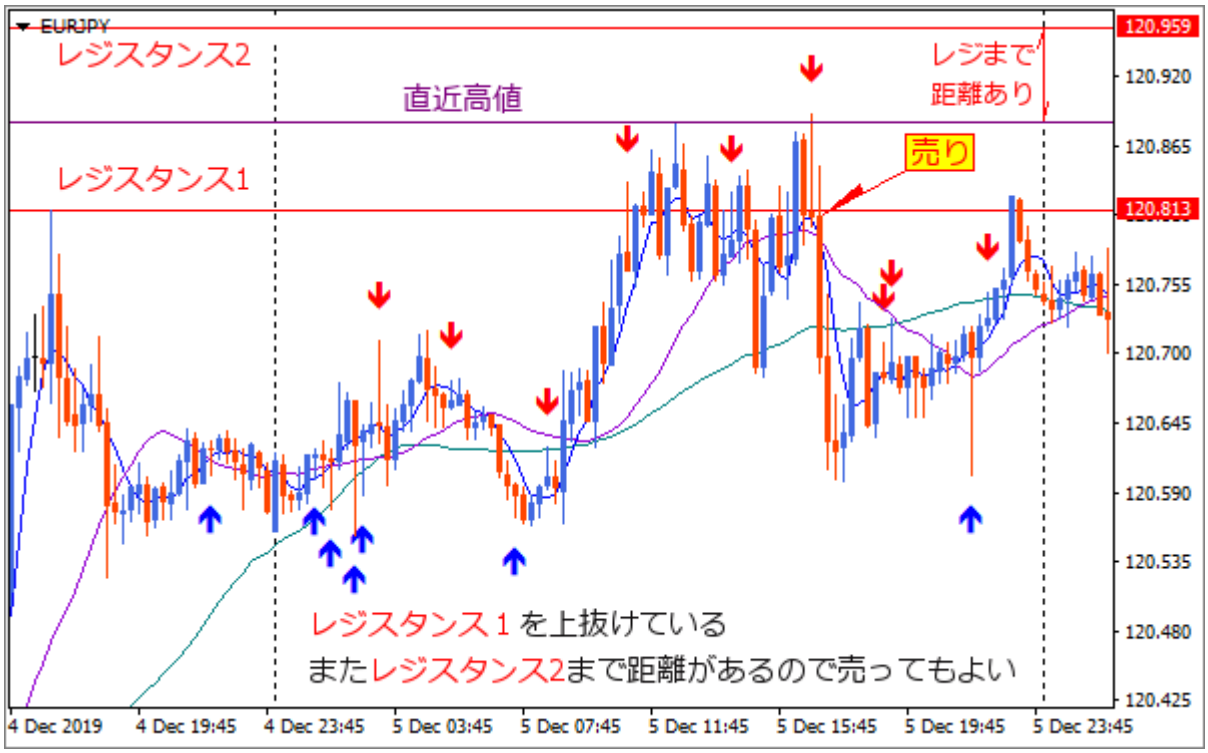


この見送りルールでは、サポート・レジスタンスの基準と距離感を判断するのが難しい。

そこで実際にエントリーに至ったチャートを何パターンか紹介するので、感覚を掴んでいただきたい。




EURJPY.,M15 116.961 116.974 116.804 116.899
サポート1
サポート2
激しい値動きだがサポートを
しっかりと下抜けているので
エントリーOK
直近安値
買い〇
118.365
118.295
118.225
118.155
118.085
118.031
117.945
117.875
117.854
117.805
117.735
117.665
21 Aug 2019
21 Aug 18:00
21 Aug 22:00
22 Aug 02:00
22 Aug 06:00
22 Aug 10:00
22 Aug 14:00
22 Aug 18:00
22 Aug 22:00


EURJPY
レジスタンス2
直近高値
レジまで
距離あり
売り
レジスタンス1
レジスタンス1を上抜けている
またレジスタンス2まで距離があるので売ってもよい
120.959
120.920
120.865
120.813
120.755
120.700
120.645
120.590
120.535
120.480
120.425
4 Dec 2019
4 Dec 19:45
4 Dec 23:45
5 Dec 03:45
5 Dec 07:45
5 Dec 11:45
5 Dec 15:45
5 Dec 19:45
5 Dec 23:45

サポート・レジスタンスの基準と距離感については、〇〇pips など明確な基準を設けているわけではないので、この部分はどうしても裁量が入る部分になる。

とくに次のサポートやレジスタンスまでの距離が微妙なケースでは、毎回悩みながらエントリーしているのが正直なところだ。

私の場合は迷ったら、ダブルボトムやダブルトップに至るまでが「キレイな形」であるかを判断材料にしている。（次の見送りルールに記載）

機械のようにすべてルールにカチッとはめるのではなく、せっかくリアルタイムでチャートを見ているのだから、臨機応変に判断できるように経験を積んでいただきたい。

その結果間違って損切りをすることもあるし、うまくいって大きな利益を手にする時もある。その経験を積み重ねることにより、期待値の高いトレードができるようになるだろう。

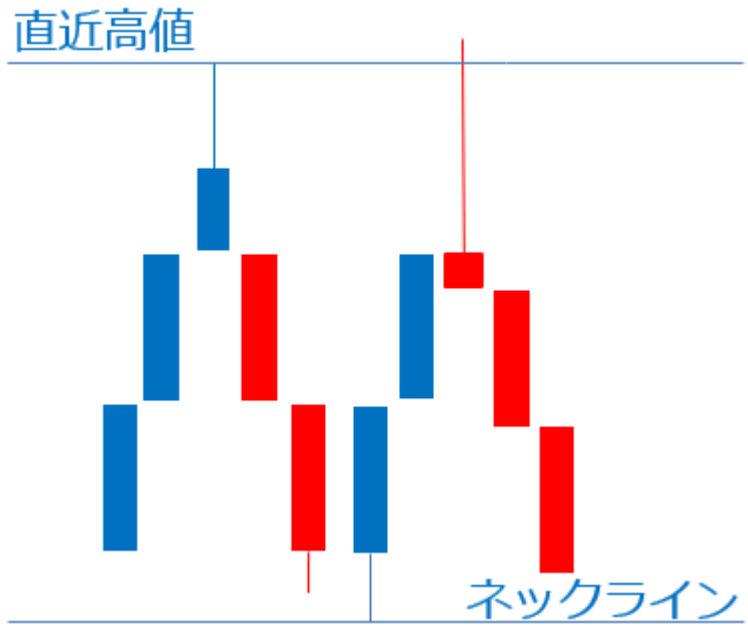
※この見送りルールに関しては伝わりにくい部分があると思うので、詳しくは「レビュー特典」でプレゼントをしている「チャート集」を見てもらいたい。

15 分足では極めて重要となる「見送りのパターン」に重きを置いて制作している。

（レビュー特典は 235 ページ参照）

見送り３．ダブルボトム・ダブルトップの形がきたないケース（バランスが悪い）

以下の図をご覧いただきたい。ダブルトップの「キレイな形」とは以下のようなパターンだ。



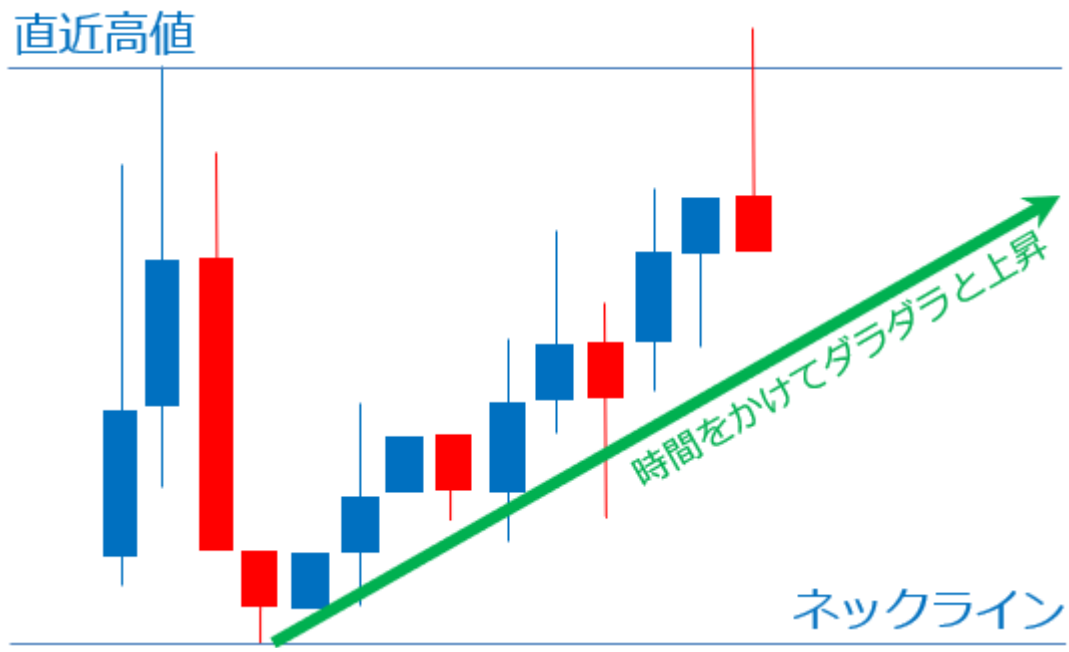
直近高値とネックラインが**「左右対称」**になっていることがわかる。

また１本１本のローソク足に迷いがなく、メリハリのある値動きだ。

実際のチャートがこのようなキレイな形を描くことはきわめて珍しいが、できるだけ上記の形に近いダブルトップを探すことが重要となる。

では逆に、ダブルトップの「キタナイ形」とはどのような形だろうか？

同じダブルトップでも、エントリーを避けた方がよいチャートパターンもある。以下のようにネックラインをつけてから、メリハリのない値動きでダラダラと上昇する展開。これが「キタナイ形」」だ。１本１本のローソク足が短く、時間をかけて高値に到達している。



実際のチャートで見てみよう。このような形でエントリーしても勝率が悪化するだけなので見送る。「ピンバーが出現する前の値動き」にも注目することが重要だ。

利益確定ルール（15 分足）

1 時間足では「30pips」にリミットを固定したが、15 分足では「20pips」に固定する。

損切りルールとストップポイントの変更（15 分足）

1．エントリー後、安値、高値まで 10pips 以下の場合「10pips」にストップを設定

2．安値、高値までの距離が「10pips」以上離れている場合は、ロット数を減らしてエントリー行い安値、高値から 1pips 余裕を見てストップを設定

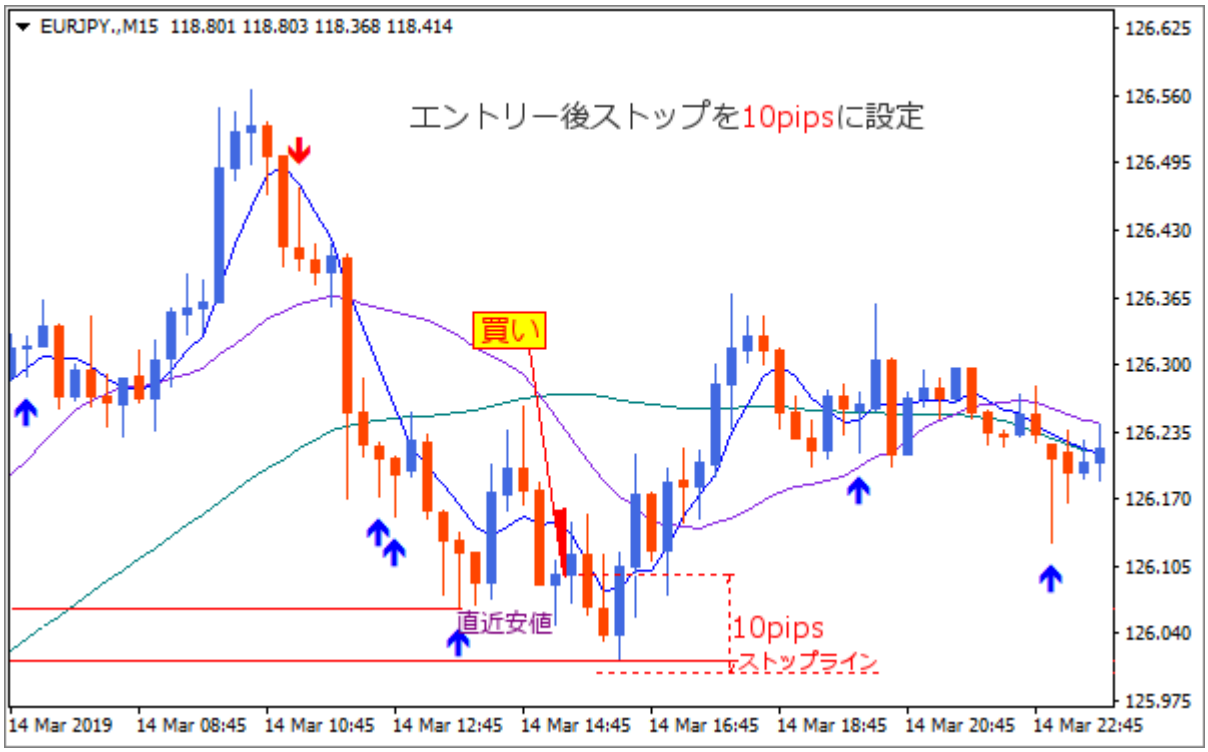
3．ネックライン到達でストップを建値に移動する

4．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

1 時間足と 15 分足の違いは、最小のストップが「-10pips」であること、ネックライン到達でストップを建値に移動することだ。順番に説明していく。

１．エントリー後、安値、高値まで 10pips 以下の場合「10pips」にストップを設定

15 分足はエントリーポイントから安値まで「10pips」以下の場合、直近安値の下ではなく、一律「10pips」逆行したポイントにストップを設定する。



これはどんなにボラティリティが低い相場であっても「10pips」で損切りすることを意味する。

ではボラティリティが高い相場ではどうするか？

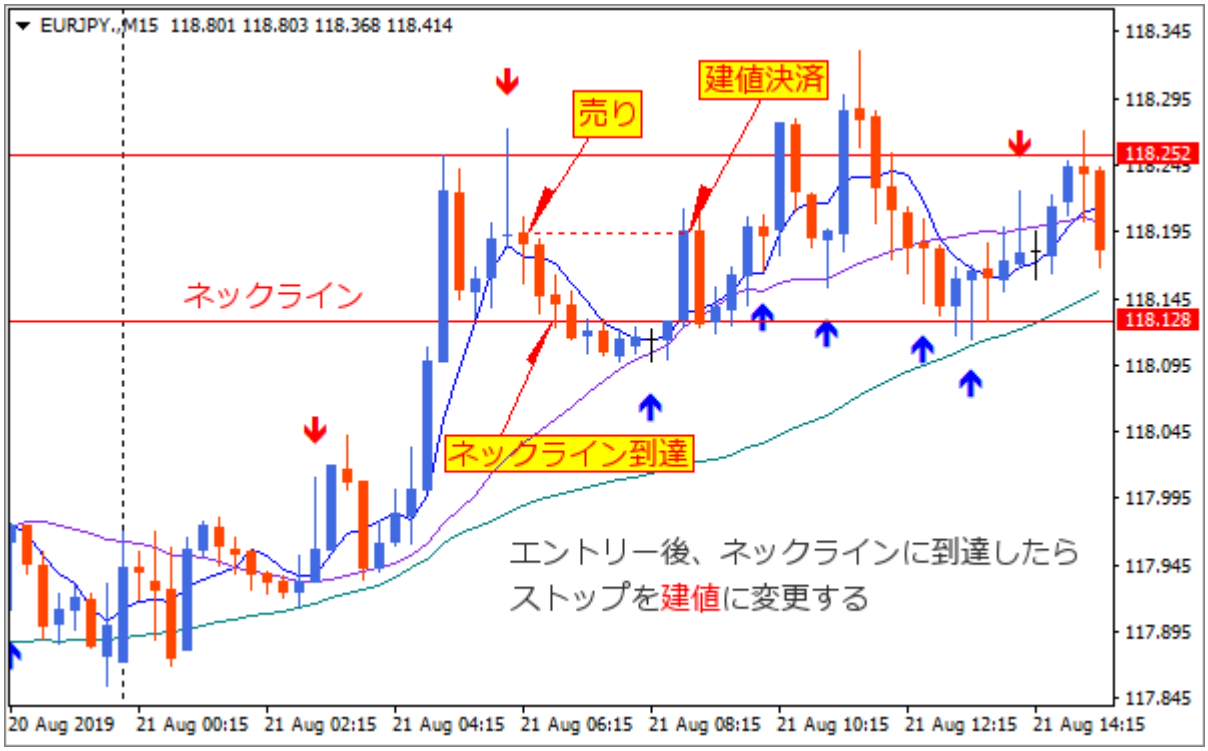
２．安値、高値までの距離が 10pips 以上離れている場合は、ロット数を減らしてエントリー行い、安値、高値から「1pips」余裕を見てストップを設定する

すでにご紹介しているように、pips ごとにロット数を調整する。

３．ネックライン到達でストップを建値に移動する（15 分足限定ルール）

ネックラインで反発した場合、再度高値や安値を目指す傾向が強い。したがってネックラインに到達（ローソク足の確定）を確認してからストップを建値に変更する。

このルールにより建値決済はかなり増えることになる。



４．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

15 分足ではネックラインに到達した時点でストップを移動するので、早朝までにポジションを保有している状況はほとんどない。もしポジションが残っていた場合は、翌日に持ち越さずに成行で決済する。（早起き推奨）

まとめ

直近安値・直近高値への「ファーストタッチ」がエントリーの基本となるこの手法は年間をとおしても「取引チャンスが少ない」手法だ。1 か月間で 1 度もエントリーをしないときがある。

ただし日々、複数のチャート・時間足を見ていれば必ずいつかは表れるパターンなので、あきらかに優位性が高い手法を省く理由はどこにもない。

私は FX 投資をはじめてから 10 年以上が経過している。この間さまざまな手法を試してきた。その中には、過去に大きな利益を獲得した手法であっても現在はまったく機能しない手法もある。

しかし本手法は相場の傾向が変わっても、常に使い続けてきた手法の一つだ。それだけ、直近安値・高値へのファーストタッチでのピンバーは信頼できるサインなのだ。

仮にあなたの手元にこの手法だけしかないのであれば、めったに表れないパターンを待ち続けるのは険しい道のりになるだろう。しかしさまざまな「手法群の 1 つ」と考えれば待つのは難しいことではない。

取引チャンスが少ないからといって、優位性のある手法を諦めてしまうのは、もったいないことである。仮に 1 通貨あたりで月に 1 回、年 12 回しか取引がない手法であっても、10 手法積み重ねれば月に 12 回、年 144 回にチャンスは増える。

また単純に通貨ペアを 2 つに増やせば、取引チャンスも倍になる。

信頼できる手法の数が増えれば、 1 つの手法に対する依存度は下がり、1 回 1 回の取引に「一喜一憂」することはなくなる。メンタルへの影響を最小限にし、淡々と相場に向かえるのも複数の手法を作るメリットだ。

私のトレードスタイルは、このような手法の積み重ねにより成り立っている。

№３：ピンバー押し・戻り手法

手法概要

執 筆 者	TOMOZO
取引スタイル	**デイトレード**
時 間 足	15 分足、その他
通貨ペア	何でも OK（検証は EUR/JPY）
分析方法	ピンバー、移動平均線、移動平均ハッチ
注文方法	成行、指値
取引時間帯	9:00～24：00

ピンバーを使用した 3 つ目の手法。

この手法は移動平均線にハッチングをかけたインジケーターとピンバーを使い、トレンド中の押し目・戻し目を拾っていく。

利益と損失の比率を表す損益レシオは「1.2」ほどだ。したがって「損小利大」の手法ではない。ただし勝率が「70%～80%」と高いので大きなドローダウンが起こりにくい。

またポジションの保有時間が短く、エントリーから決済まで比較的早めに決着がつくので短期トレードを好む人にオススメできる。（15 分足の場合）

1 時間足以上の足では取引回数が極端に少ないので、15 分足以下が推奨となる。ちなみに友人のトレーダーは短い時間足を使ったスキャルピングで本手法を活用して大きな利益を出している。

そういった意味でも検証のやりがいがある手法なので、ぜひ試していただければと思う。本書では 15 分足チャートを使って解説している。

チャート環境（15 分足）

1．移動平均線 3 本表示（SMA50、SMA20、SMA5）

2．ピンバーはインジケーターを使用（青色：上向き、赤色：下向き）

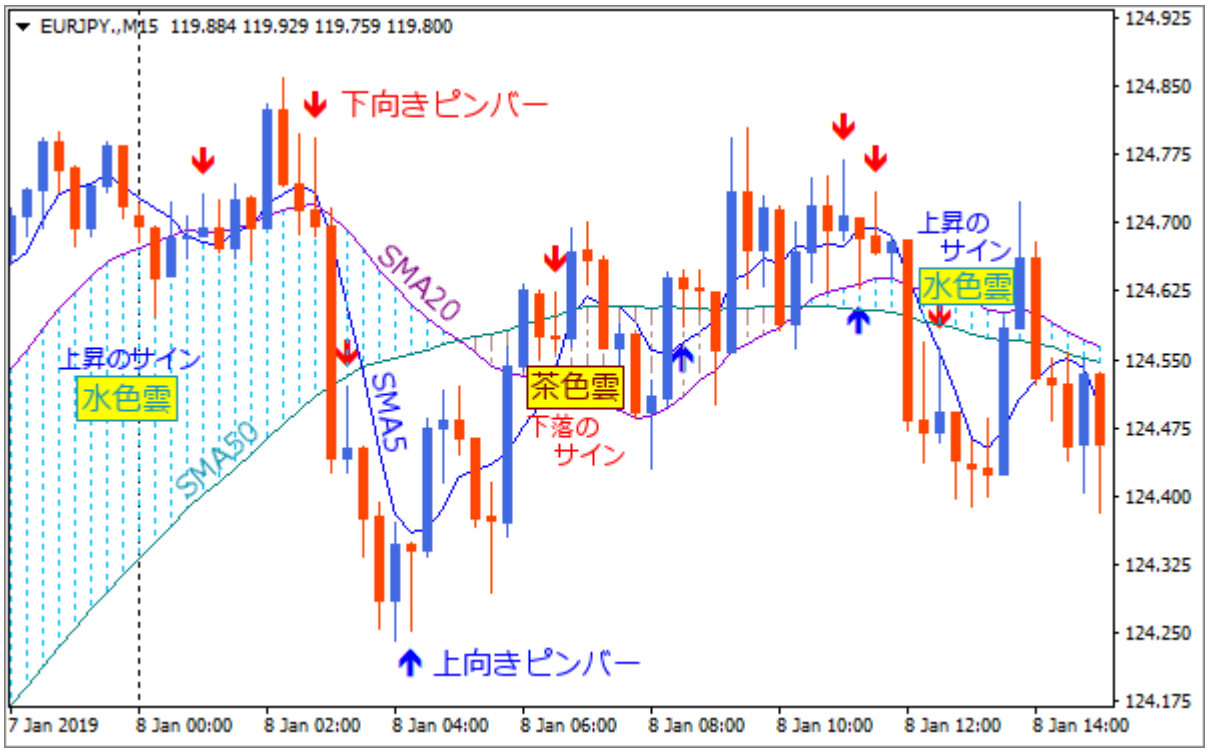
3．移動平均線ハッチングインジケーターを使用（水色雲：上向き　茶色雲：下向き）

通常「雲」とは一目均衡表で使われる抵抗帯や支持帯を指す。

本手法では、SMA50 よりも SMA20 が上にある場合を「水色雲」とし、SMA50 よりも SMA20 が下にある場合は「茶色雲」と定義している。

・水色雲：SMA50 より SMA20 が上にある上昇サイン

・茶色雲：SMA50 より SMA20 が下にある下落サイン



エントリールール（15 分足）

買いの場合

１．SMA5 が水色雲のなかに潜る、あるいは下抜ける

２．上向き矢印ピンバーが水色雲の中、あるいは下で出現する

３．直後に上向き矢印ピンバーの高値を上抜ける「大陽線」の出現（1 本限定）

４．上向き矢印ピンバーの高値に指値買い注文

※上昇トレンド中の押し目を「買う」

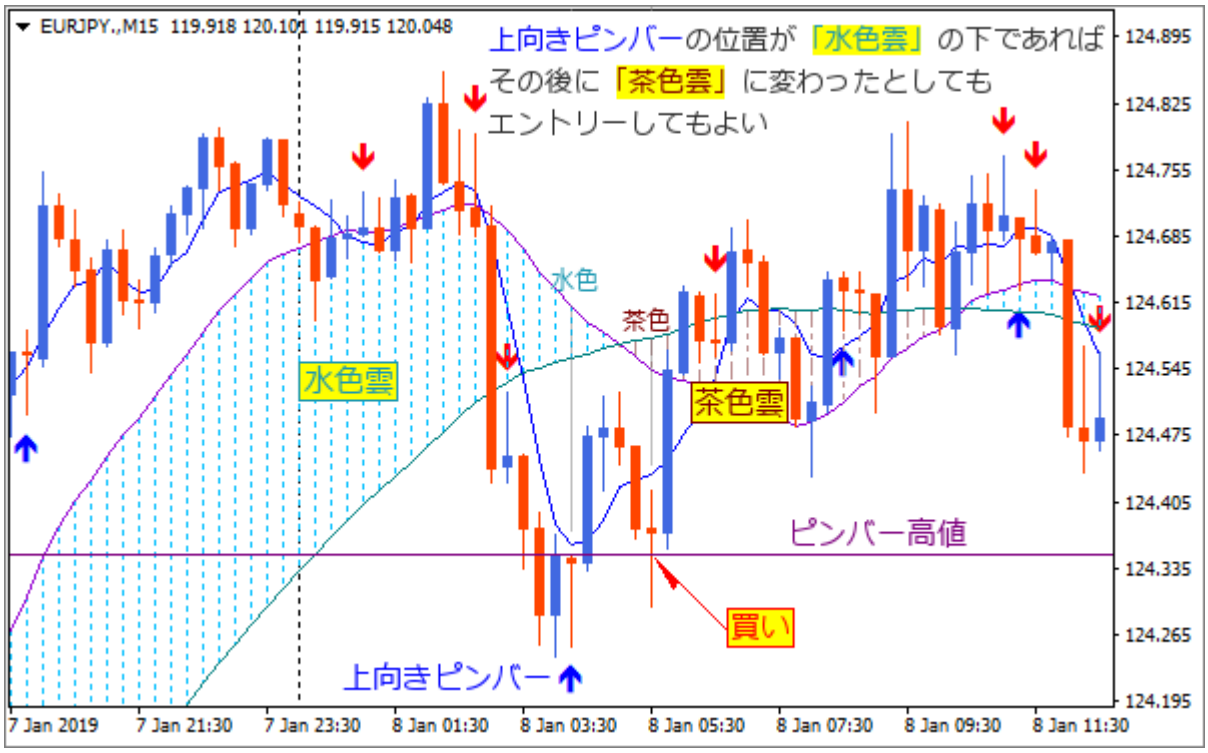
※買いは「水色雲のみ」

「水色雲」の中でのエントリーパターン

※「水色雲」の下でのエントリーパターン

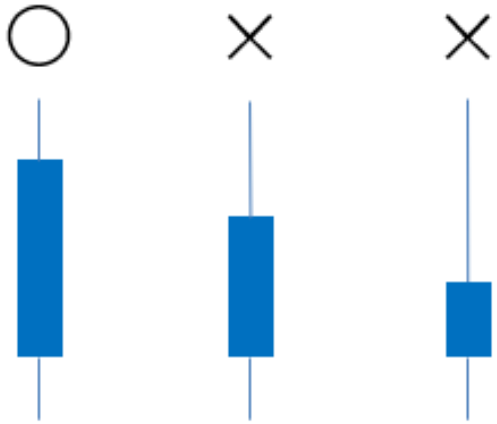
※指値注文後に、雲の色が茶色に変わっていてもエントリー可

上向きピンバーの位置が「水色雲」の下であれば、その後の展開で「茶色雲」に変わったとしても買いエントリーしてもよい。



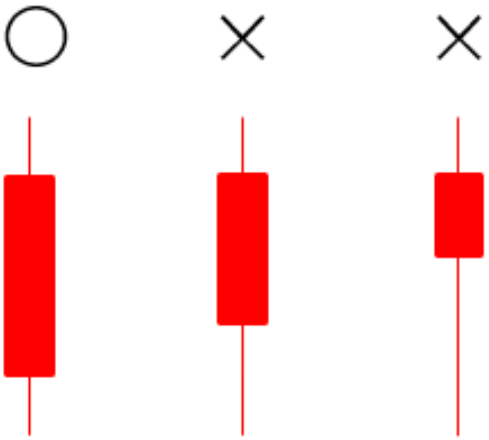
「大陽線」の基準

実体が上ヒゲよりも長いローソク足を「大陽線」とする。上ヒゲが実体よりも長い場合は見送り。実体と上ヒゲがほぼ同じ長さだった場合も見送る。下ヒゲの長さは考慮しなくてよい。



「大陰線」の基準

実体が下ヒゲよりも長いローソク足を「大陽線」とする。下ヒゲが実体よりも長い場合は見送り。実体と下ヒゲがほぼ同じ長さだった場合も見送る。上ヒゲの長さは考慮しなくてよい。



売りエントリーの場合

１．SMA5 が茶色雲のなかに潜る、あるいは上抜ける

２．下向き矢印ピンバーが茶色雲の中、あるいは上で出現する

３．直後に下向き矢印ピンバーの安値を下抜ける陰線の出現（1 本限定）

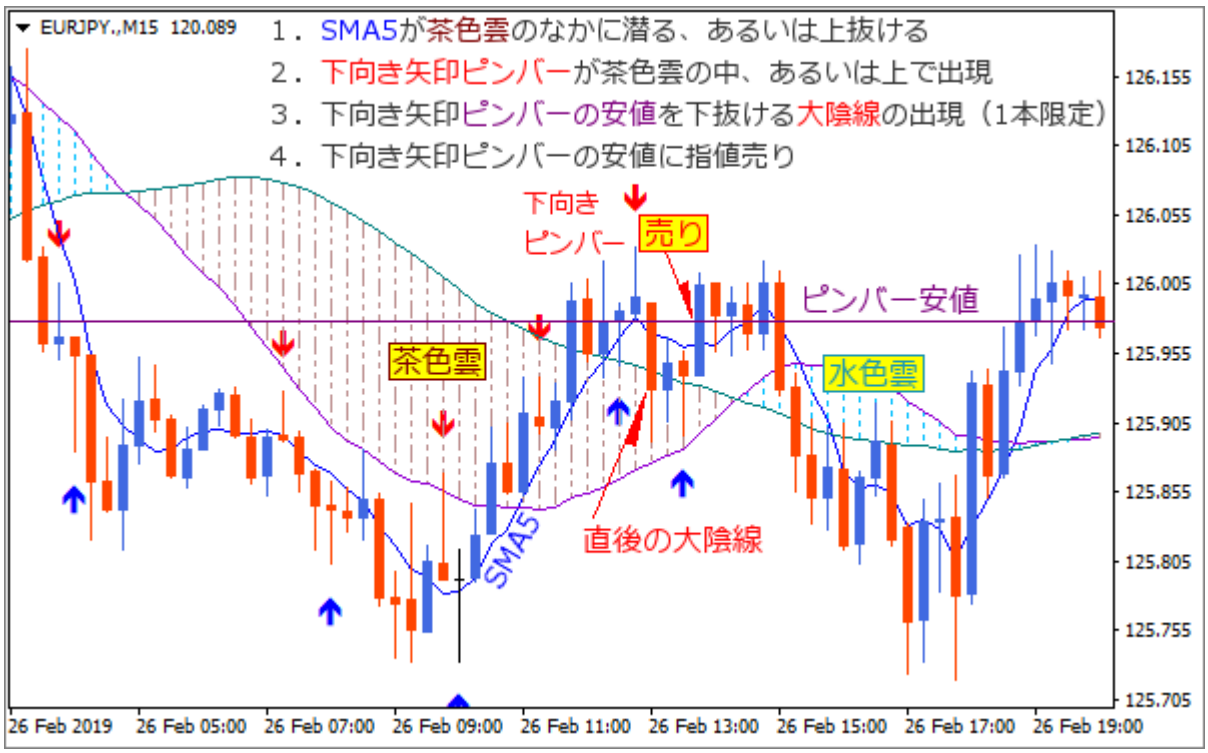
４．下向き矢印ピンバーの安値に指値売り注文

※下落トレンド中の戻りを「売る」

※売りは「茶色雲のみ」

売り注文独自のルールはないので、すべて買い注文の逆となる。

参考までに「茶色雲」の上での売りエントリーパターン



エントリーを見送る条件（15 分足）

１．高値・安値ブレイクの基準は最低でも 1pips 以上が必要

２．「三尊」「逆三尊」を予測させる形

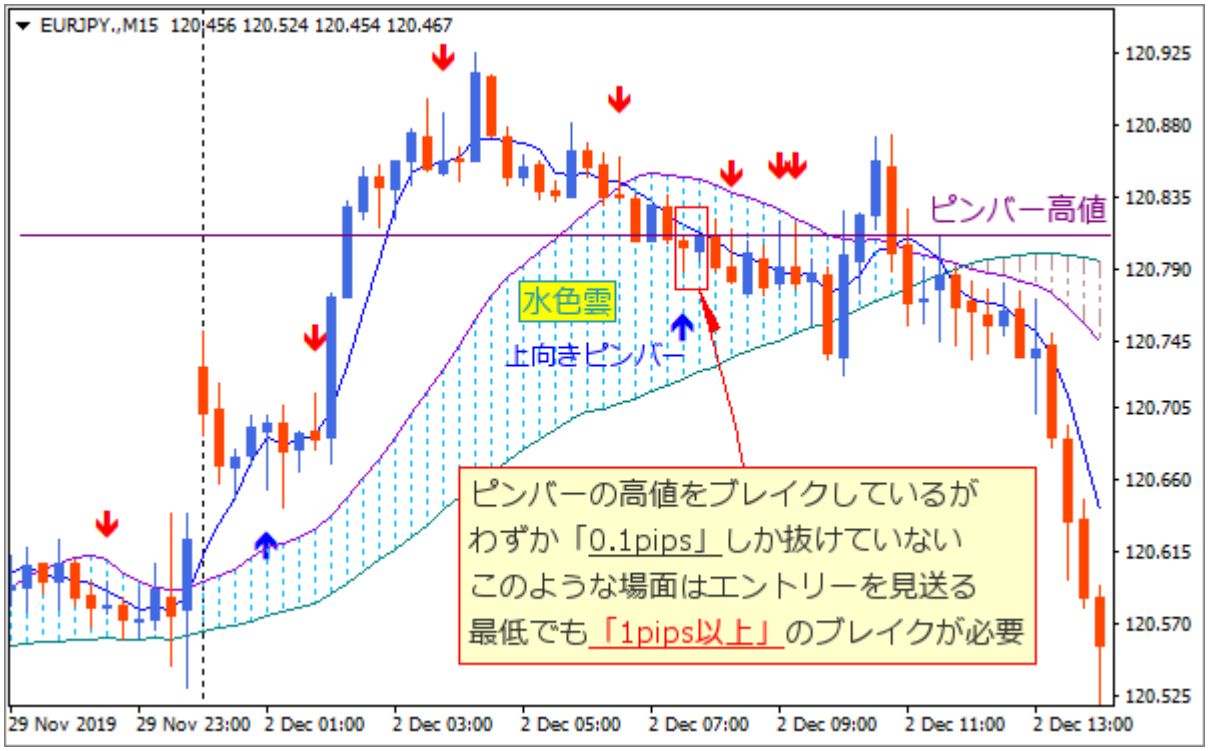
３．直近の値動きが不安定なケースでは見送る

４．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

１．高値・安値ブレイクの基準は最低でも 1pips 以上

以下のチャートでは上向きピンバーの高値を、次の「大陽線」でブレイクしている。しかしこのブレイクの場面では「0.1pips」しか上抜けていない。このような場面では明確な反発とはいえないので、エントリーを見送る。

※最低でも「1pips 以上」ブレイクした「大陽線」を確認すること



２．「三尊」「逆三尊」を予測させる形

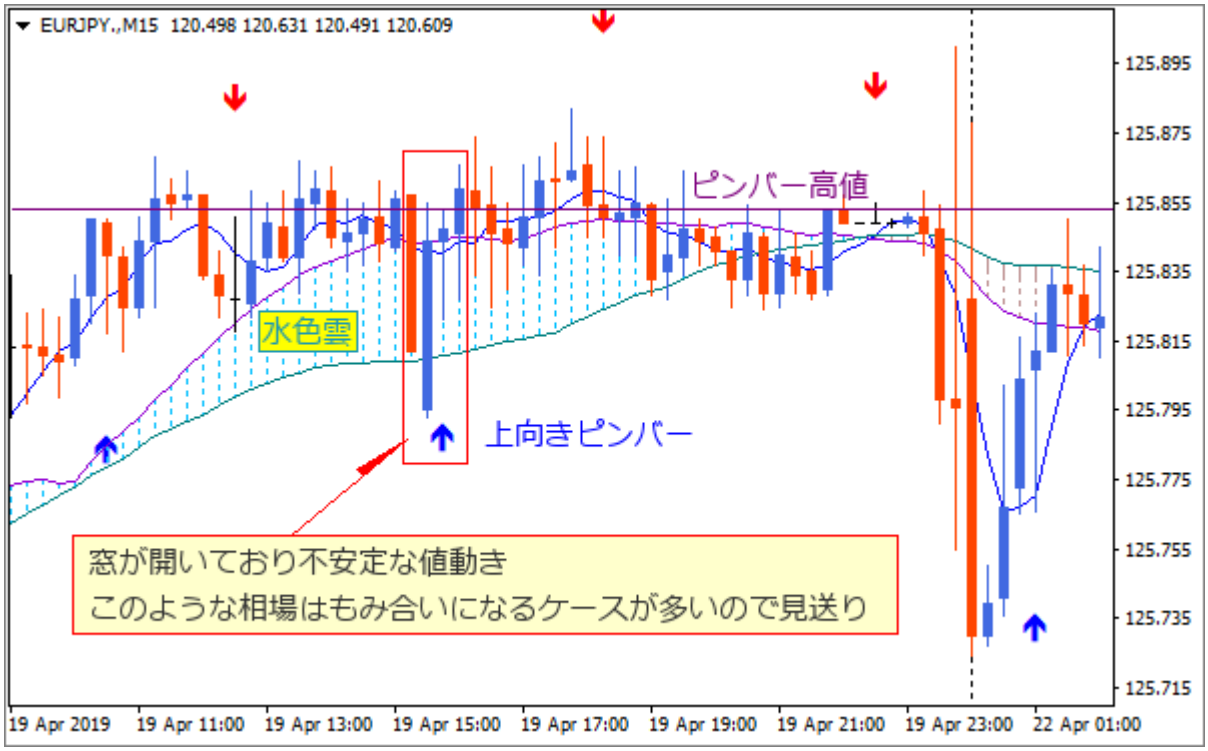
買い注文では「三尊」の形成、売り注文では「逆三尊」の形成が予測される場面ではエントリーを見送る。

・三尊の例（買い注文）

３．直近の値動きが不安定なケース

以下のチャートは、窓が開いており不安定な値動きになっている。このような相場はもみ合いになるケースが多いので見送り。

仮に間違ってエントリーしてしまっても、直後の値動きを見て建値付近で決済すべき場面である。（※以下のチャートは 1pips 以上、上抜けていないのでダブルのルールで見送り）



利益確定ルール（15 分足）

１．約定後「+20pips」にリミットを設定する。エントリーした次の足から数えて 5 本以内でリミットに到達すれば取引完了。

２．「+20pips」のリミットに到達せずに、5 本目の終値で「+10pips」以上の含み益があった場合は成行で利益確定。

３．「+20pips」のリミットに到達せずに、5 本目の終値が「+10pips」未満だった場合は「+10pips」にリミットを設定する。

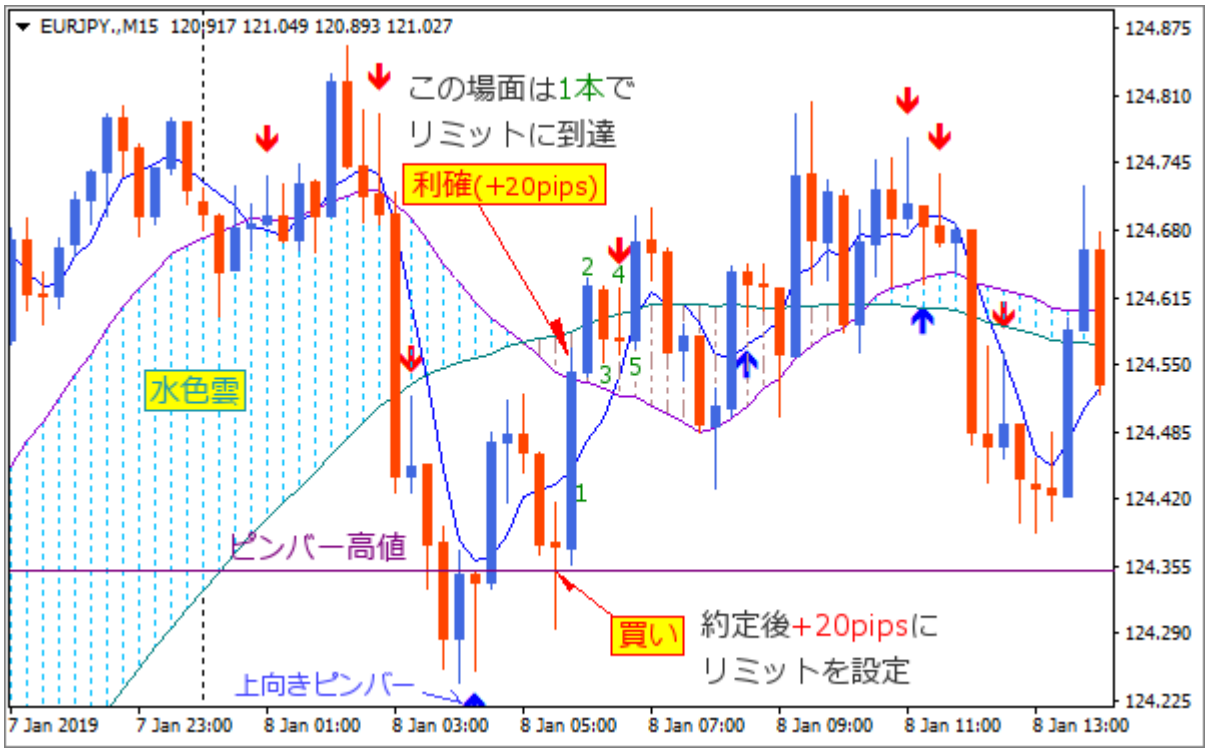
本手法では約定後に思惑通りの方向に進むスピードが速い程、利益を得やすい傾向が確認されている。一方で時間が経つほど優位性はなくなり、エントリーポイントから逆行する確率が高くなった。そのため上記のルールを採用している。

３つの利益確定パターンを順番にチャートで確認していく。

１．買い注文後が約定後「+20pips」にリミットを設定する。エントリーした次の足から数えて 5 本以内でリミットに到達すれば取引完了。

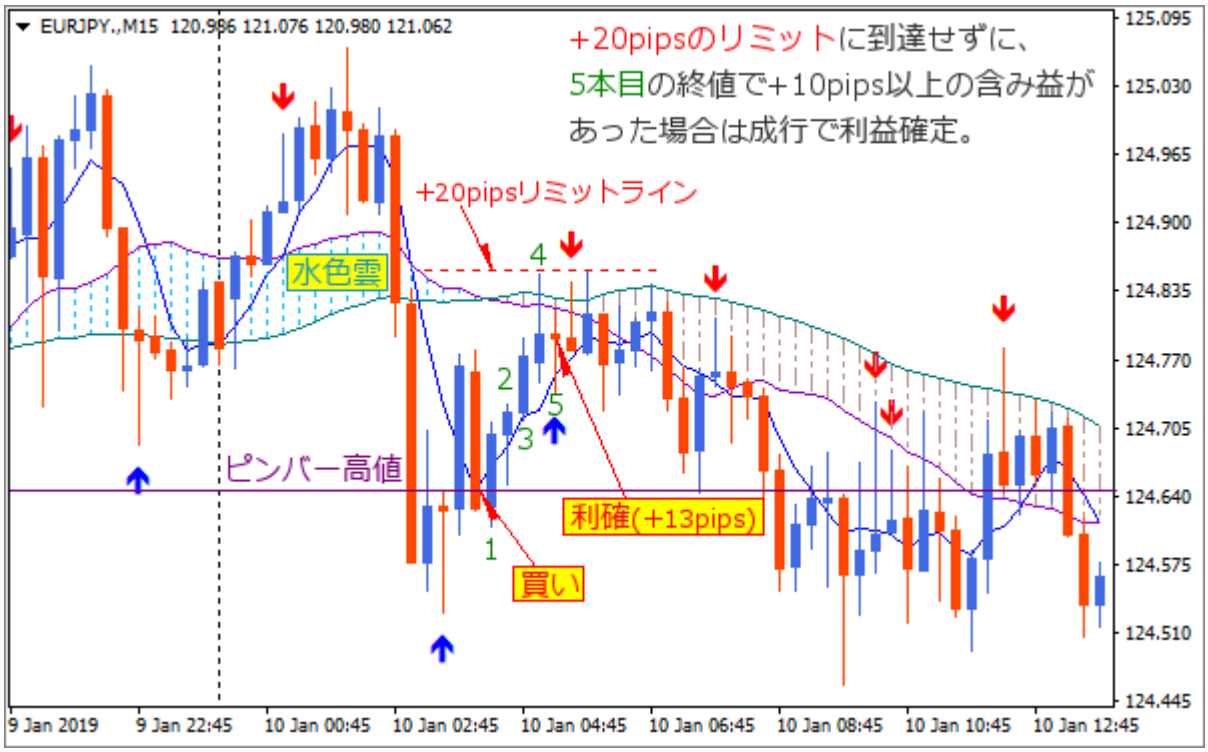
以下のチャートは 1 時間半以内（15 分足×5 本以内）に決済できる理想的なパターンだ。ピンバー高値で反発して、エントリーをした次の足で利益確定ができている。

その後の値動きを見れば、30pips 以上とれているのにもったいないと思うかもしれない。しかし本手法は「勝率重視」なので 20pips の獲得で十分だ。



２．+20pips のリミットに到達せずに、５本目の終値で「+10pips」以上の含み益があった場合は成行で利益確定。

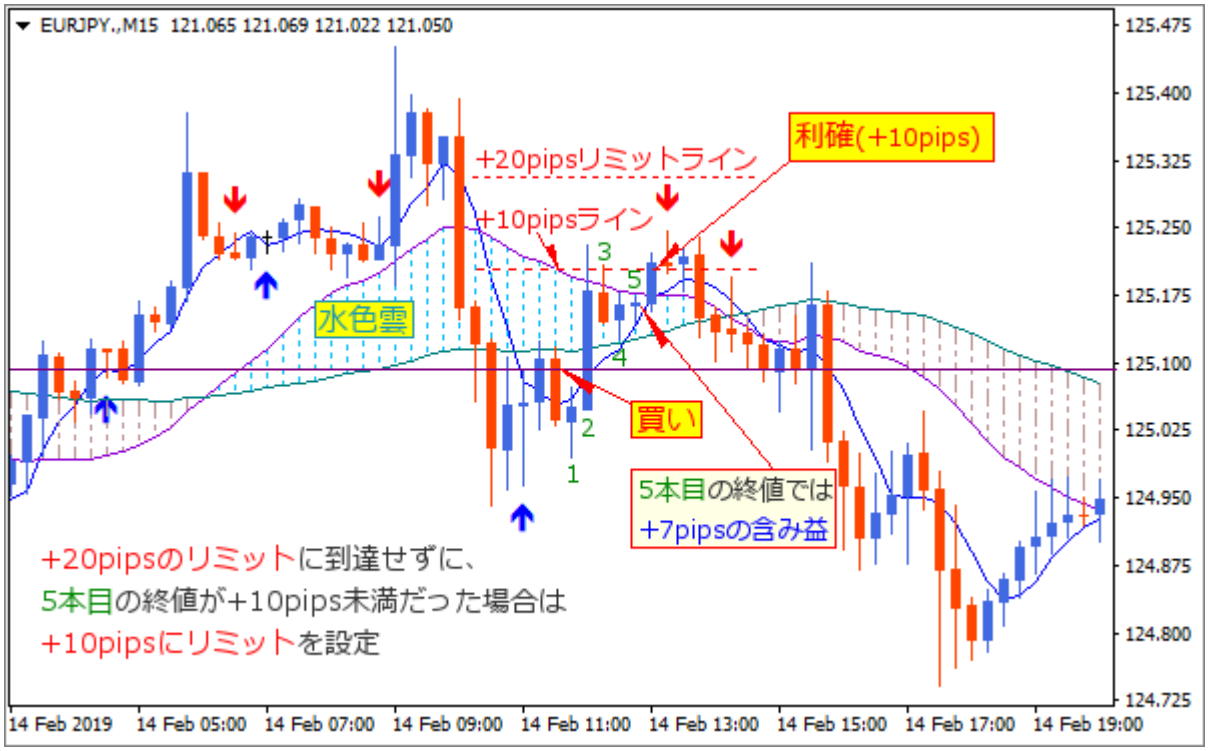
以下のチャートは買い注文約定後に順調に上昇。しかし惜しくも「+20pips」のリミット（点線ライン）には到達していない。この場合５本目の陰線が確定した時点で成行決済する（+13pips）



３．「+20pips」のリミットに到達せずに、５本目の終値が「+10pips」未満だった場合は「+10pips」にリミットを設定する。

以下のチャートは買い注文約定後に含み損を抱えるものの、２本目で「大陽線」が出現して上昇する展開。しかし 20pips のリミットには到達せずにローソク足の５本目が確定している。

この段階で「+7pips」の含み益であったので、「10pips」にリミットを設定し次の足で利益が確定した。



損切りルールとストップポイントの変更（15 分足）

１．エントリーポイントから、ピンバーの安値、ピンバーの高値まで「10pips」以下の場合「10pips」にストップを設定

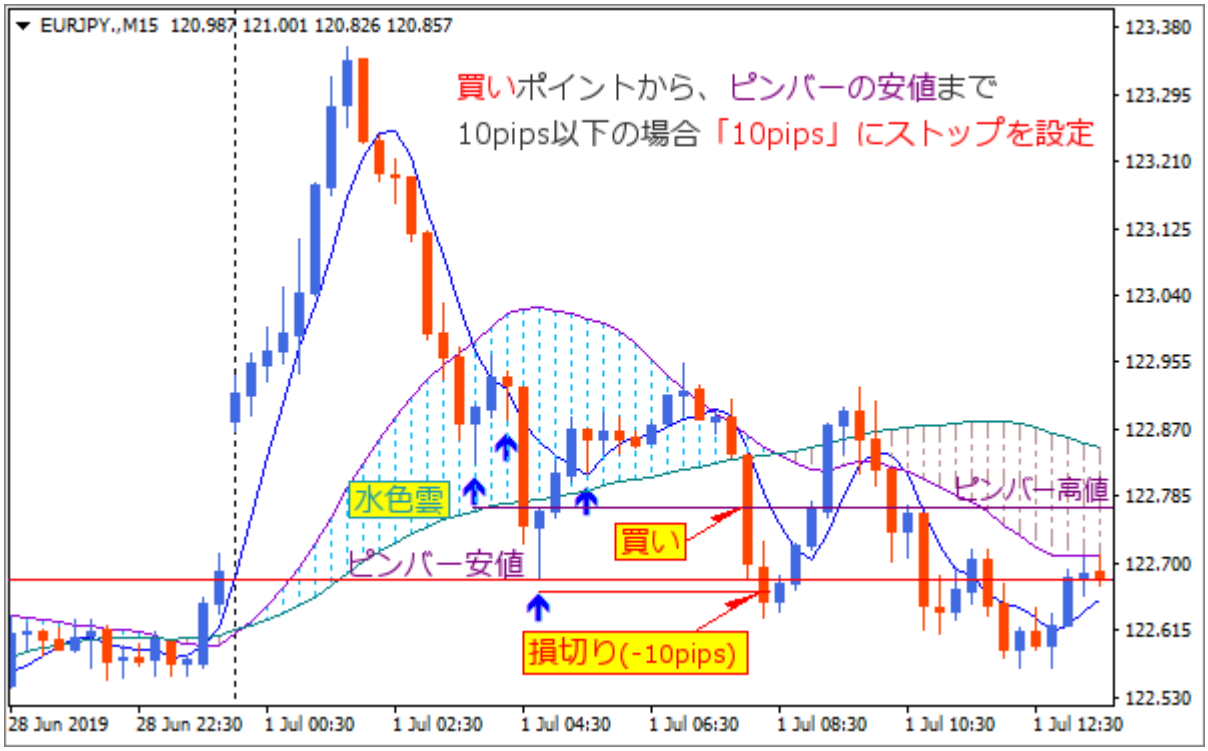
２．ピンバー安値、ピンバーの高値までの距離が「10pips」以上離れている場合は、ロット数を減らしてエントリー行い安値、高値から 1pips 余裕を見てストップを設定

３．エントリー後に極端なボラティリティの低下がみられた場合は建値付近で決済する

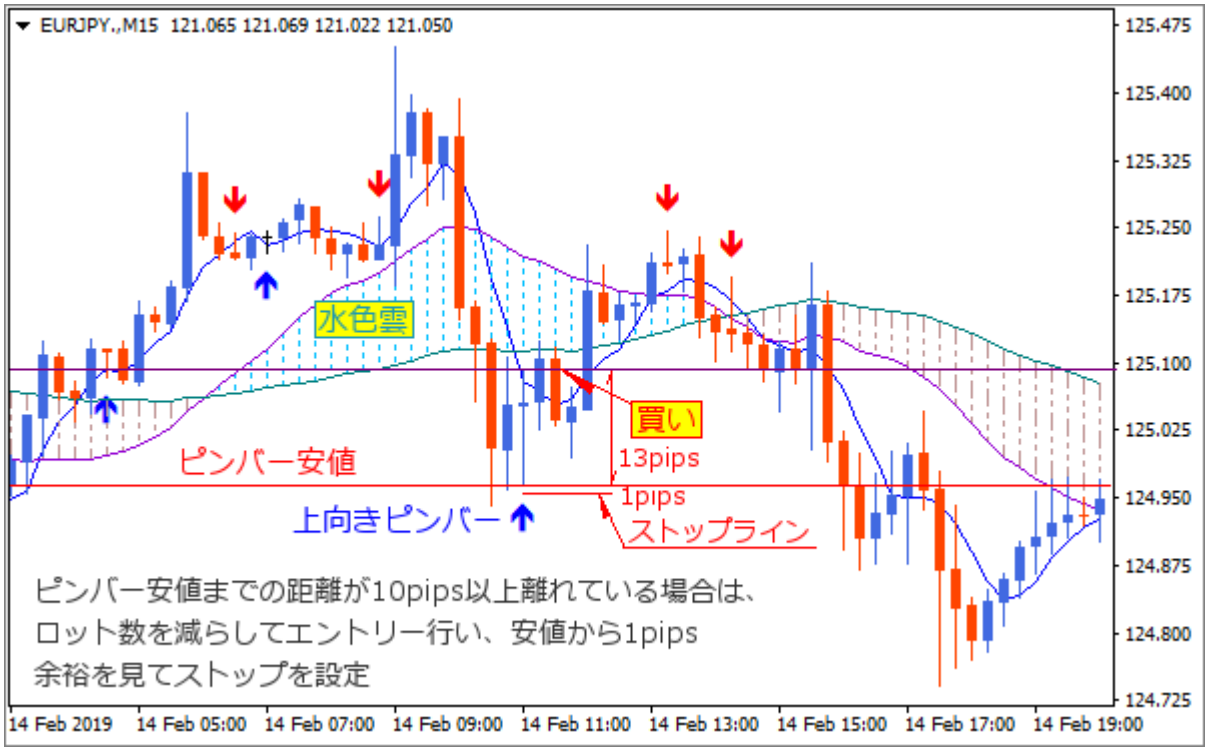
４．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

ストップの値は基本「-10pips」とし、エントリーポイントからピンバーの安値・高値まで離れている場合はストップを広げてロット数を調整する。

１．エントリーポイントから、ピンバーの安値、ピンバーの高値まで「10pips」以下の場合「10pips」にストップを設定



２．ピンバー安値、ピンバーの高値までの距離が 10pips 以上離れている場合は、ロット数を減らしてエントリー行い、安値、高値から 1pips 余裕を見てストップを設定



ストップ基準10pips

ストップ幅	ロット数
10.0pips以下	1.0ロット
10.1pips～12.0pips	0.9ロット
12.1pips～14.0pips	0.8ロット
14.1pips～16.0pips	0.7ロット
16.1pips～18.0pips	0.6ロット
18.1pips～20.0pips	0.5ロット

３．エントリー後に極端なボラティリティの低下がみられた場合は建値付近で決済する

本手法はトレンドの最中ではなく、押し目・戻しがエントリーポイントになるため、エントリー後に「もみ合いに」なってしまうことがよくある。

このようなケースではボラティリティが低下し不安定な値動きを形成するため、早めに建値付近で決済を行う。

以下のチャートはエントリー後に、値動きが少なくなった典型的なもみ合い相場である。

リアルタイムでこのチャートを見ていて、どのタイミングで建値決済の判断を行うかは慣れが必要となる。最初のうちはわかりやすくポジションの保有時間で区切ってもよいだろう。

このような判断はある程度経験が必要になってくるので、検証のうえ自分なりのルールを構築していただければと思う。

４．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

本手法は比較的ポジションの保有時間が短いルールだ。早ければエントリーから 15 分以内に決着がつく。早朝までにポジションを保有している状況はほとんどないが、もしポジションが残っていた場合は、翌日に持ち越さずに成行で決済する。（早起き推奨）

まとめ

本手法では、「一度は反発する確率が高いポイント」にターゲットを絞ってエントリーを行っている。

エントリールールをまとめると、

１．大きい流れを示す「雲」と同じ方向に反発するピンバー

２．ピンバーの高値・安値を「大陽線」・「大陰線」でブレイク

３．高値・安値への押し・戻しを待ってエントリー

という流れになる。

買いを例にすると、上昇トレンドの押し目、ピンバー出現で直ちにエントリーすることはなく、ピンバーの高値を超える「大陽線」の確認が必要となる。

更に「大陽線」出現後にしっかりと、ピンバー高値までの押し目を待たなくてはならない。

つまり本手法では、

「大きい上昇トレンドの押し目と反発を待ち、小さい上昇トレンドの押し目を待つ」という行動を１つの時間足でやっていることになる。

このとことん「待つ」という行動が高確率で勝てるトレードを生み出している。

FX で勝てない人は例外なく「待つ」ことができない人だ。

「ポジポジ病」という言葉もあるように、チャートを目の前にするとついつい、エントリーがしたくなってしまうのだ。根拠のないエントリーを繰り返している人は、必ず相場からの退場を経験することになる。

いつも気が付けばエントリーをしているという方は、この手法を試していただき、「待つ」大切さを学んでいただきたい。

最初に述べたように、15 分足より短い足についても優位性があるので、さまざまな通貨ペア、時間足でじっくりと検証をしていただければと思う。

№４：雲ブレイク手法

手法概要

執 筆 者	TOMOZO
取引スタイル	**デイトレード**
時 間 足	15 分足、その他
通貨ペア	何でも OK（検証は EUR/JPY）
分析方法	移動平均線、移動平均ハッチ
注文方法	成行、指値
取引時間帯	9:00～24：00

本手法は、№3 の「ピンバー押し・戻り手法」でも使用した SMA5 と SMA20 と SMA50 の「雲」を使用して売買を行う。

強い上昇トレンドの「押し目買い」、強い下落トレンドの「戻り売り」は投資の基本といえる。まさにこの手法は投資の基本を忠実にこなす方法だ。

トレンドに沿った売買なので、基本的には高値・安値ブレイクを狙っていくことになる。一方で天井や底の形成を疑う場面では、臨機応変に早めに決済を行う。

勝率は「約 60%」損益レシオは「1.70～1.90」といったところ。

この手法のデメリットとしては相場によっては「連敗をしやすい」ことだ。ここ数年間で 5 連敗以上を何度か経験している。しかし逆を言えば「連勝をしやすい」ともいえる。

手法にマッチする相場、マッチしない相場はどんな手法にもあるが、本手法はその傾向が顕著にあらわれる。

得意な相場は雲に沿っている、わかりやすい「トレンド相場」だ。おもしろいように勝てる。

一方「もみ合い相場」ではエントリー回数が少なくなり勝率も低下する。もみあい相場では、「月単位」で負けることもある。それでもトータルでは利益が残る手法だ。

大切なことは負けが続いても、たとえ 5 連敗してもメンタルが一切左右されることのない資金管理を行うことが重要だ。

№3 の手法と同じで 1 時間足以上の時間軸ではチャンスが少ないので、15 分足以下推奨。

チャート環境（15 分足）

１．移動平均線 3 本表示（SMA50、SMA20、SMA5）

２．移動平均線ハッチングインジケーターを使用（水色雲：上向き　茶色雲：下向き）

通常「雲」とは一目均衡表で使われる抵抗帯や支持帯を指す。

本手法では便宜上 SMA50 よりも SMA20 が上にある場合を「水色雲」とし、SMA50 よりも SMA20 が下にある場合は「茶色雲」とする。

・水色雲：SMA50 より SMA20 が上にある上昇サイン

・茶色雲：SMA50 より SMA20 が下にある下落サイン

※本手法はピンバーを使用しないが、リアルトレードでは№3 手法と同じチャート環境で取引することになるので、そのまま表示している。

エントリールール（15 分足）

買いの場合

１．SMA5 が水色雲のなかに潜る

２．水色雲の中で反発

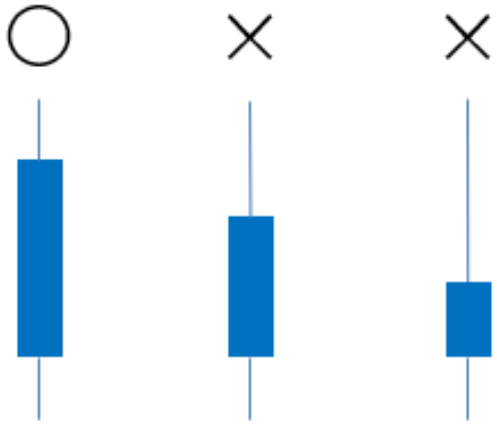
３．水色雲を「大陽線」で上抜ける

４．水色雲の上限まで押し目を待って買い

※水色雲の上限まで待つ時間は、ブレイク後「ローソク足 5 本」を目安にする。ローソク足 5 本以上の時間が経過した場合はエントリーを見送る。

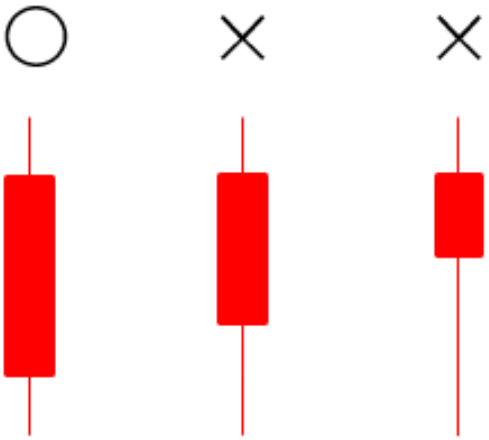
「大陽線」の基準

実体が上ヒゲよりも長いローソク足を「大陽線」とする。上ヒゲが実体よりも長い場合は見送り。実体と上ヒゲがほぼ同じ長さだった場合も見送る。下ヒゲの長さは考慮しなくてよい。



「大陰線」の基準

実体が下ヒゲよりも長いローソク足を「大陽線」とする。下ヒゲが実体よりも長い場合は見送り。実体と下ヒゲがほぼ同じ長さだった場合も見送る。上ヒゲの長さは考慮しなくてよい。



売りの場合

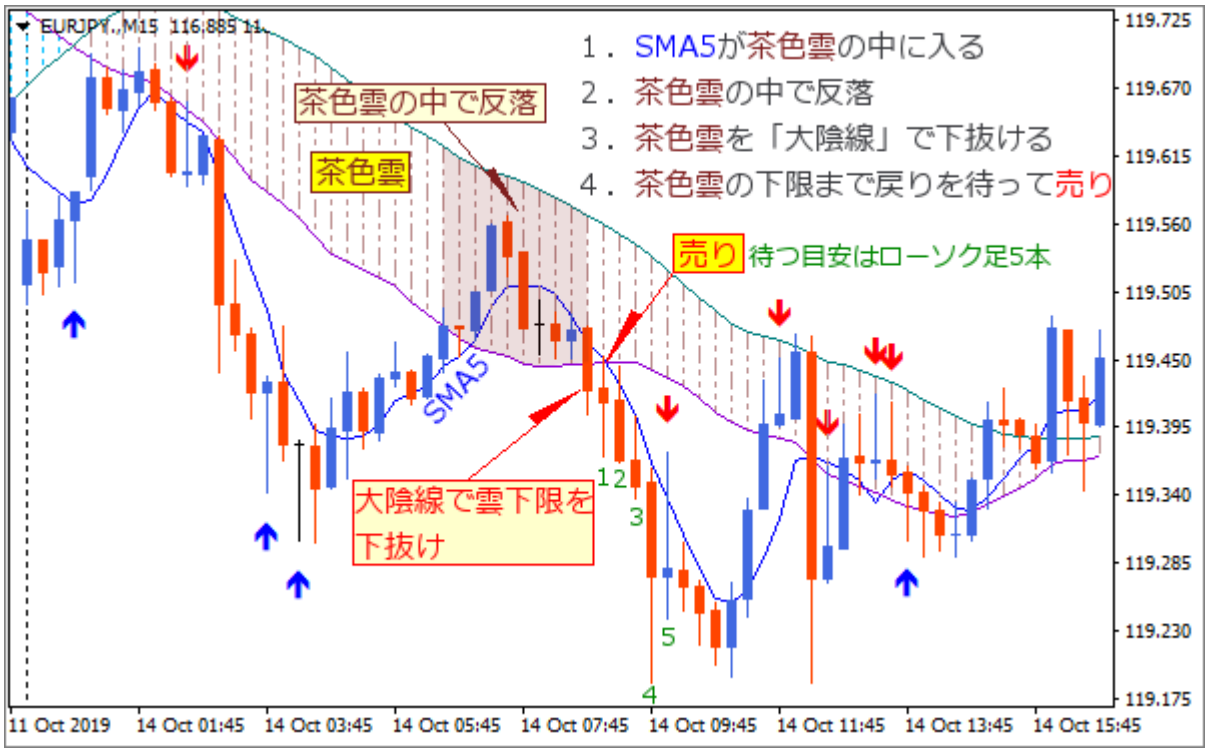
１．SMA5 が茶色雲の中に入る

２．茶色雲の中で反落

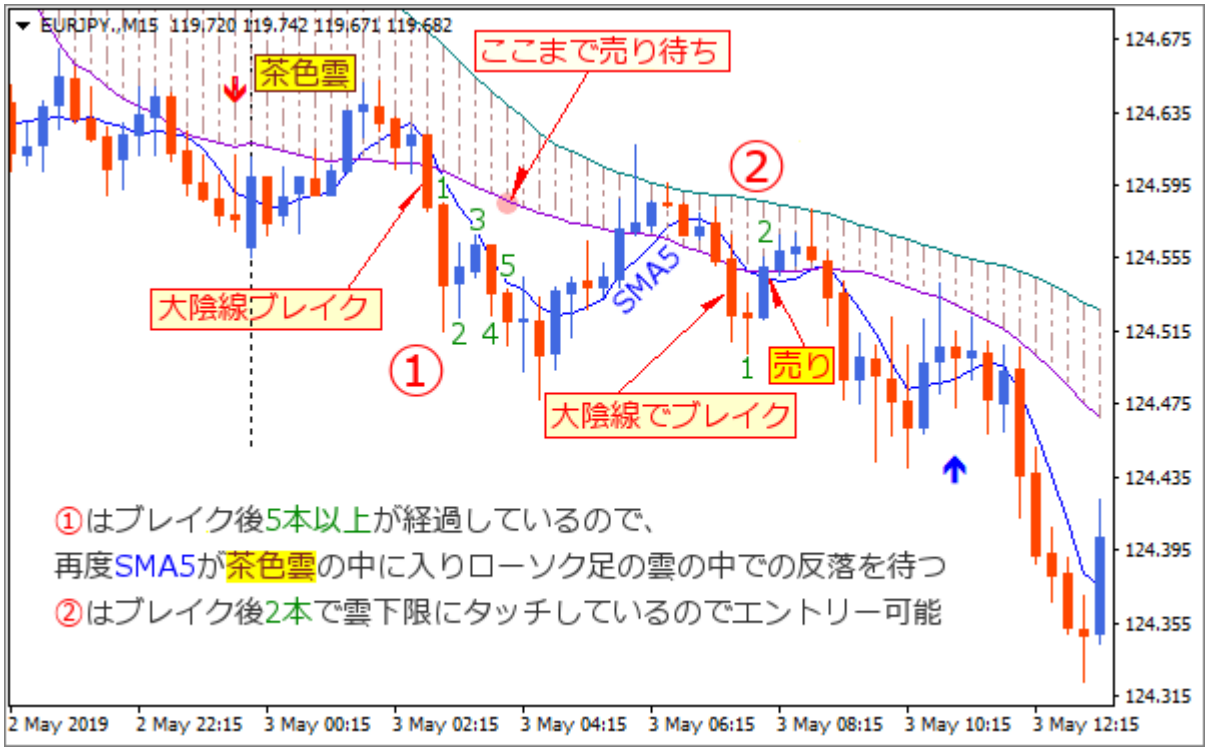
３．茶色雲を「大陰線」で下抜ける

４．茶色雲の下限まで戻りを待って売り

※茶色雲の下限まで待つ時間は、ブレイク後「ローソク足 5 本」を目安にする。ローソク足 5 本以上の時間が経過した場合はエントリーを見送る。



※ブレイク後にローソク足「5 本待つ」例



※②のエントリーは後述のルールで「様子見」になるが、ここでは「5 本待つ」例として参考にしていただきたい。

エントリーを見送る条件（15 分足）

1．雲をローソク足終値でブレイクしているケース

2．「大陽線」「大陰線」でブレイクしていない

3．「大陽線」「大陰線」ブレイク時に直近高値・直近安値に跳ね返され抜けきれていないケース

4．「三尊」「逆三尊」を予測させる形では見送り

5．ブレイクした直前のローソク足 2 本を観察し、その高値・安値を、ブレイクしていない場合は見送り

6．直近の値動きが少なく、もみ合いを予測させる値動きの場合は見送り

7．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

１．雲をローソク足終値でブレイクしているケース（買い：水色雲下限、売り：茶色雲上限）

雲のブレイクは「トレンドの転換」を意味する。また雲をはさんでの値動きはもみ合いになるケースが多い。以下のチャートは「水色雲」の下限を終値でブレイクしているため、その後の買いは見送りとなる。

２．「大陽線」「大陰線」でブレイクしていない

買いを例にすると、水色雲まで SMA5 とローソク足が潜ったあとに、雲の上限ブレイクは必ず「大陽線」である必要がある。

実体より長い、または実体とほぼ同じ長さの上ヒゲが出現した場合は見送る。

３．「大陽線」「大陰線」ブレイク時に直近高値・直近安値に跳ね返されて抜け切れていないケース

以下のチャートを見ていただきたい。

SMA5 が水色雲の中に潜った後に、水色雲の上限をローソク足終値でブレイクしている。

ここで注目していただきたいのが「赤色水平線」の存在だ。押し目を作っている最中に「大陽線」1 本が出現している。しかしすぐに大陽線を否定する大陰線が出たことにより「直近高値」を形成していることがわかる。

この「直近高値」を試しにいき、抜け切れていない場合は、そこにレジスタンスがあると想定してエントリーを見送る。

わかりにくい形なので、本手法の理想的なエントリーパターンと見送りパターンを比較するとイメージが付きやすいと思う。

・理想的なエントリーパターン

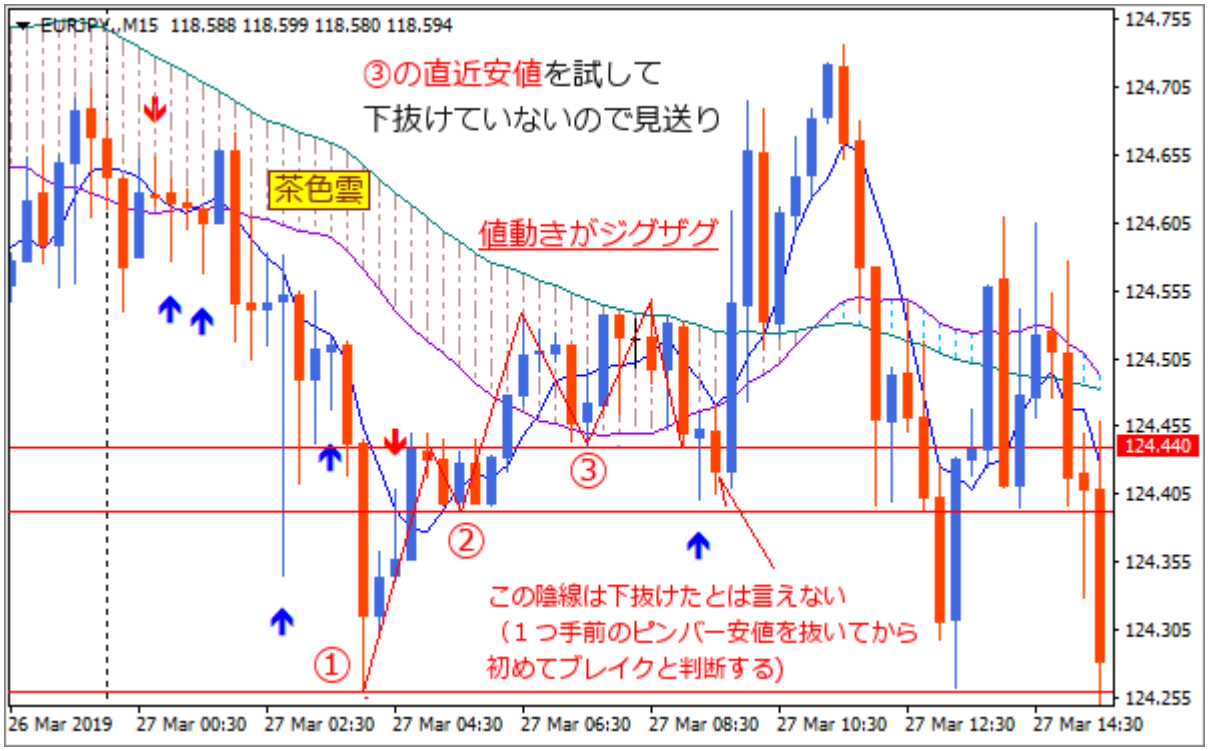
一直線に茶色雲への戻しが入り、一直線に下落する展開。このような形の戻しでは、下落中に意識されそうな直近安値はなく「①の直近安値までは下げそうだな」と誰もが同じイメージをもてるだろう。

相場は人気投票で値動きが決まるので、世界中の投資家の思惑が一致すればするほどわかりやすい値動きを展開することになる。

比較対象として、見送りを検討する必要があるチャートをパターンを確認してみよう。

・エントリーを見送るパターン

以下のチャートではジグザグに戻しを形成したことにより、②、③の直近安値が存在している。茶色雲をブレイクする場面で③の直近安値を試しにいき、終値で下抜けていない場合はエントリーを見送る。



※この見送りルールは、あくまでも雲の下限を「ブレイクした陰線」が直近安値を試しにいった場合のみ、下抜けているかどうかを確認するものである。

つまり雲の下限を「ブレイクした陰線」が、直近安値とある程度距離が離れていればエントリーしても問題ない。

したがって以下のチャートではエントリーが可能となる。

直近安値や直近高値を決める基準は、明確なルール（たとえばOpips 戻したらなど）を定めていない。その時のさまざまな相場の状況を考慮して判断している。当然迷うこともあるし、間違う時もあるだろう。

チャートは似た形になる時がよくある。しかしすべてが同じ形になることはありえない。だから難しい。

ただし迷うというのは、「理想的なエントリーパターン」ではないのだ。したがってロット数を減らす対策や、ローソク足 1 本様子見て少しでも有利な位置でエントリーするなど、工夫を加えるようにしている。

もちろん「少しでも迷ったら様子見」というのもよいアイデアだ。どんな手法であっても、検証を行っていれば勝ちやすい形が見えてくる。勝ちやすい形だけで勝負していれば、トータルで負けることはないと容易に想像できる。

４．「三尊」「逆三尊」を予測させる形では見送り

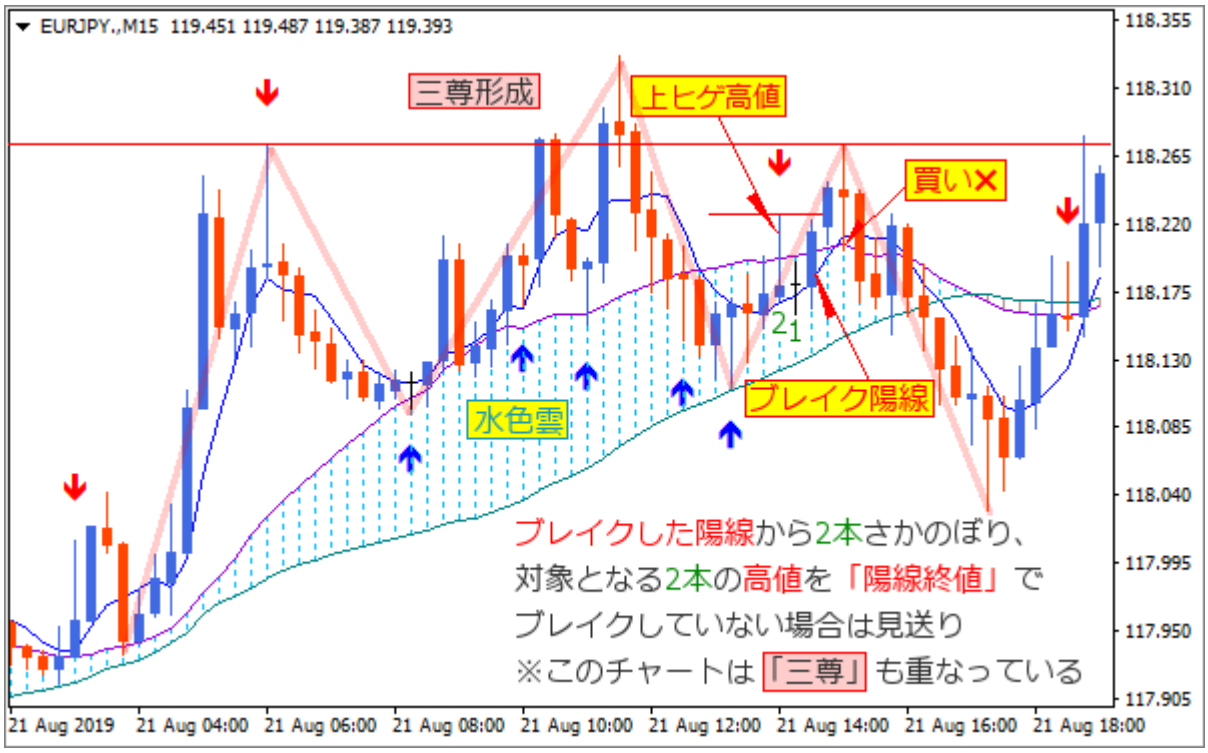
三尊（買い）逆三尊（売り）を予測させる値動きになった場合は見送り。ただし三尊・逆三尊ラインまで「8pips」程の利益が確保できる場合はエントリーしてもよい（決済で後述）

※三尊のケース

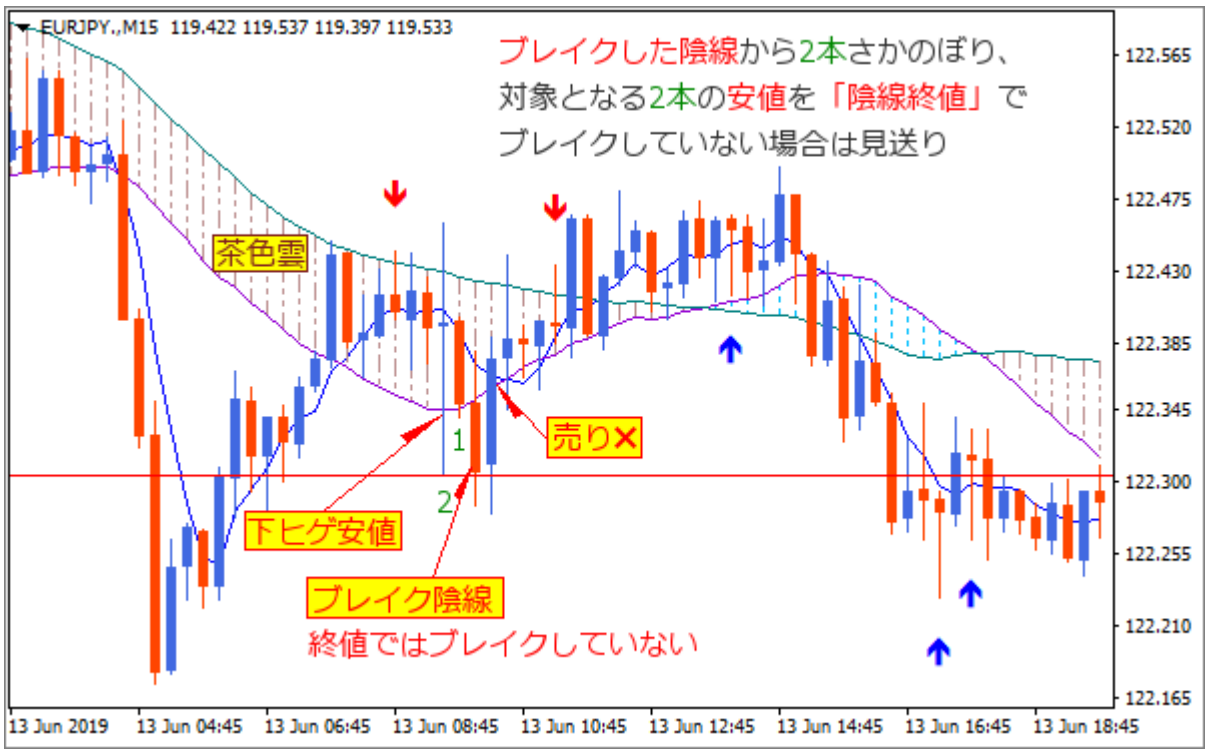
※逆三尊のケース(変則的でエントリーのリスクが高い場面)

５．ブレイクした直前のローソク足２本を観察し、その高値・安値を、ブレイクしていない場合は見送り（直前の安値・高値を更新していないと勢いはつきにくい）

※買いの例



※売りの例


EURJPY.,M15 119.422 119.537 119.397 119.533
ブレイクした陰線から2本さかのぼり、
対象となる2本の安値を「陰線終値」で
ブレイクしていない場合は見送り
茶色雲
売り×
1
2
下ヒゲ安値
ブレイク陰線
終値ではブレイクしていない
122.565
122.520
122.475
122.430
122.385
122.345
122.300
122.255
122.210
122.165
13 Jun 2019
13 Jun 04:45
13 Jun 06:45
13 Jun 08:45
13 Jun 10:45
13 Jun 12:45
13 Jun 14:45
13 Jun 16:45
13 Jun 18:45

６．直近の値動きが少なく、もみ合いを予測させる値動きの場合は見送り

SMA5 が横ばいになる場面では膠着状態になる。雲の上限ブレイクが微妙だった場合は大きい値動きが出るまで様子見する。仮にエントリーしてしまった場合は早めに決済すべき。

以下のチャートは（見送り№３の「大陽線」「大陰線」ブレイク時に直近高値・直近安値に跳ね返され抜けきれていないケースでもある）

利益確定ルール（15 分足）

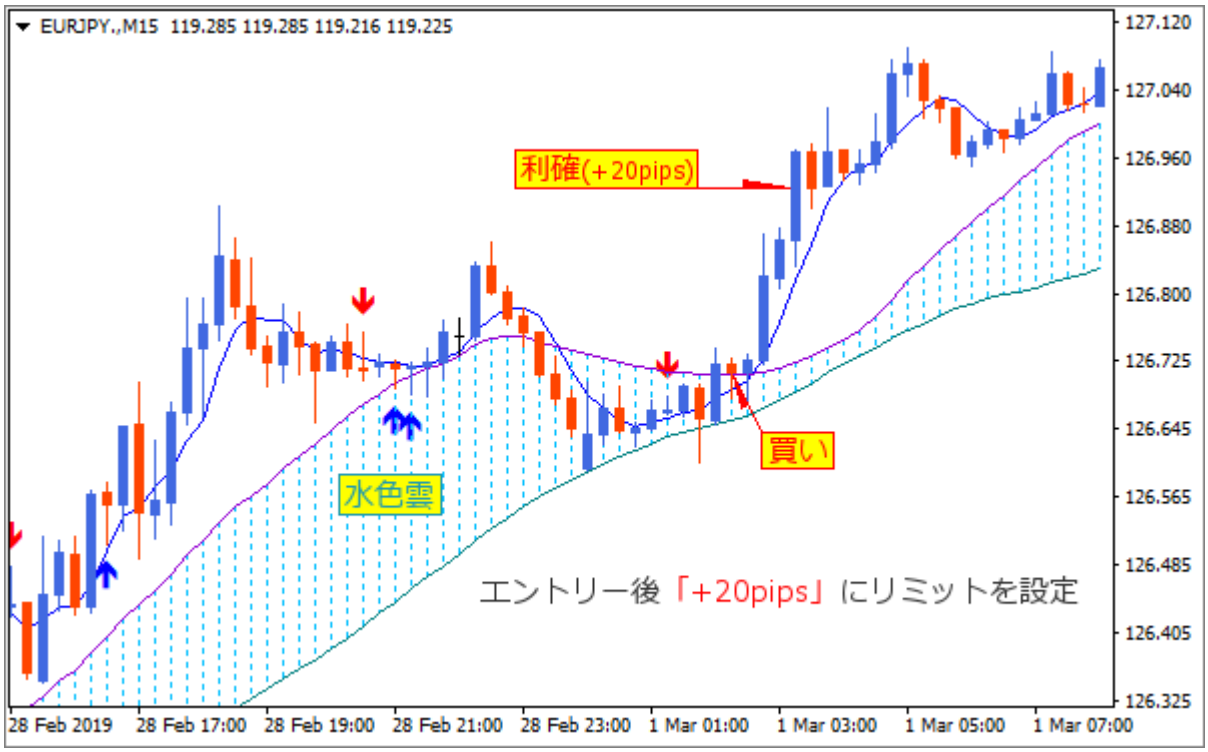
１．エントリー後「+20pips」にリミットを設定する

２．三尊・逆三尊まで「8pips」程の利益が見込める場合はエントリー後、三尊・逆三尊ラインで決済

１．エントリー後「+20pips」にリミットを設定する

過去検証とリアルトレードの経験から、20pips よりも 30pips の方がトータルの利益は大きくなる傾向がある。私の場合本手法では、日足や 4 時間足の流れを見て利益を伸ばすこともあるが、勝率を重視して基本的には「20pips」にリミットを設定している。

「勝率が低くても問題ない」「最大限利益を伸ばしたい」という方は臨機応変にリミットを変更していただければと思う。



２．三尊・逆三尊まで「8pips」以上の利益が見込める場合はエントリー後、三尊・逆三尊ラインで決済

「三尊」や「逆三尊」は典型的な天底パターンとして認識しておく必要がある。

前述したように、基本は見送り戦略だ。しかしエントリーポイントから「三尊」や「逆三尊」ラインまで「8pips 程」離れている場合はエントリーを行い、ラインで利確する。

「三尊」や「逆三尊」はトレンドが継続するキレイな形ではないため、早めに決済すべき。

雲に潜ってからの再ブレイクでエントリーする本手法の特性上「三尊」「逆三尊」が現れやすいのでとく注意する必要がある。

※逆三尊のケース

以下のチャートではエントリーポイントから「逆三尊ライン」まで約 8pips 程の利益が見込めるためエントリーを行う。

ポイントは「逆三尊ライン」ギリギリではなく、若干余裕をみて手前で決済すること。

損切りルールとストップポイントの変更（15 分足）

1．エントリー後、一律「10pips」にストップを設定する

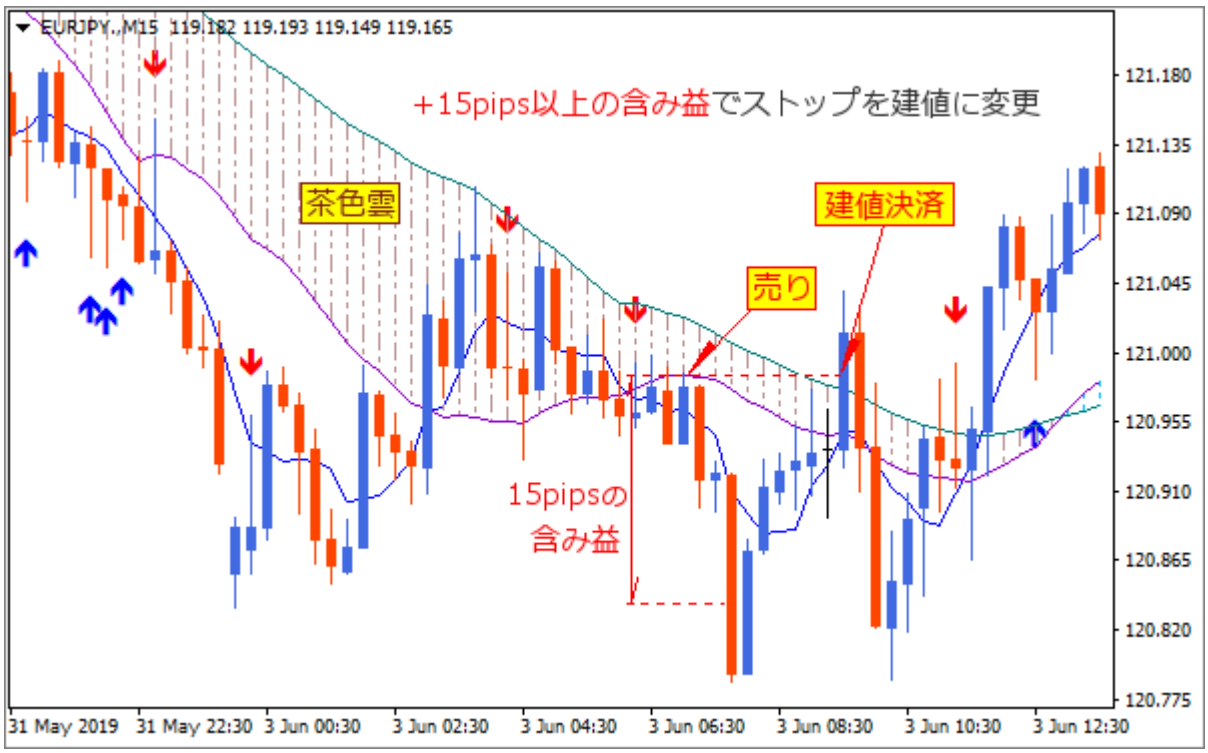
2．「+15pips」以上の含み益になったらストップを建値に変更する。

3．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

1．エントリー後「10pips」にストップを設定する

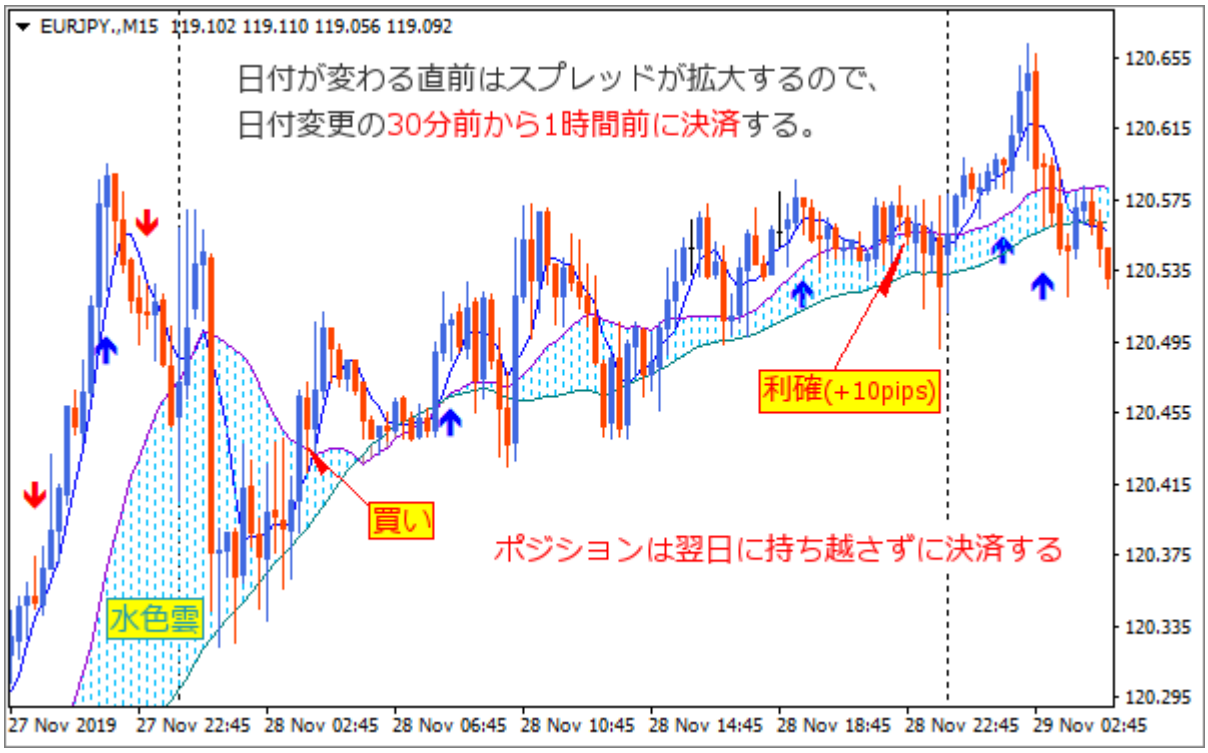
本手法はロット数の調整は行わず、エントリー後に一律「10pips」にストップを設定する。

２．「+15pips」以上の含み益になったらストップを建値に変更する



３．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

日付が変わる直前はスプレッドが拡大する。したがって日付変更（XM では夏時間：6：00、冬時間：7：00 に変更）の 30 分前から 1 時間前に決済する。※早起き推奨



まとめ

本手法は「雲」に SMA5 とローソク足が潜り、雲の中で反発することがエントリーの条件となる。

この形を描くことは「キレイな押し目・戻し」が発生している事とイコールである。

チャートを観察していただくとわかるはずだ。ボラティリティが激しく、急上昇・旧下落を繰り返す相場でエントリーすることはあり得ない。

なぜならこのような相場展開では、雲の中にローソク足が数本で入ったとしても SMA5 が追随していかないからだ。

相場は「波」であるから、いかにキレイな波を見つけて、その波にうまく乗れるかが重要なポイントになる。

本書に掲載のエントリーチャートを見ると、雲を使用することにより理想的な「波」で仕掛けられていることがわかる。

ただしキレイな波であっても、必ずトレンドの転換はやってくる。そのトレンド転換を見極めるのが「雲のブレイク」であり、「直近高値・安値」であり「三尊・逆三尊」となる。

ちなみに「ダブルトップ・ダブルボトム」は天井・底の典型パターンではないのか？という疑問をもつ人もいると思うだろう。本手法の場合「ダブルトップ・ダブルボトム」は無視して結構だ。

ダブルトップ・ダブルボトムの形は 2 度天井・底をつけることになるが、「キレイな波を描いた後に」3 度目の正直で天井・底を試す場合に限っていえば、ブレイクしやすいというのが私の持論だ。

記事中に紹介している「理想的なエントリーパターン」など、検証を行っていると出現率は少ないものの、勝てる確率の高いパターンが見えてくる。そのパターンだけでもぜひ試していただければと思う。

№5 ：SMA50 ピンバー手法

手法概要

執 筆 者	TOMOZO
取引スタイル	**デイトレード**
時 間 足	15 分足、その他
通貨ペア	何でも OK（検証は EUR/JPY）
分析方法	ピンバー、移動平均線、移動平均ハッチ
注文方法	成行、指値
取引時間帯	9:00～24：00

本書で紹介しているほとんどの手法は、複雑なインジケーターを使うことのない簡単なものばかりだ。そのなかでも「№5.SMA50 ピンバー手法」は最もシンプルなエントリールールだ。

おそらく FX の手法を考えたことがある人であれば、誰もがすぐに思いつくアイデアであり、web サイトや書籍などでも同類の手法は紹介されている。

だがそんな世の中に出回っている手法であっても、エントリーを厳選すれば、十分な利益を獲得できる。

エントリーを厳選することは、自動的に取引回数の減少につながる。他の手法でも述べているように、FX の目的が「エントリー」になってはトータルで利益を残すことはできない。

チャートのキレイな形だけに絞って、トレンドが発生している「押し目や戻し」だけエントリーを行う。「機械的」にこなすことが重要だ。

やはり本手法も 1 時間足以上の足では取引回数が少ないので、15 分足以下が推奨となる。

チャート環境（15 分足）

１．移動平均線２本表示（SMA50、SMA20）

２．移動平均線ハッチングインジケーターを使用（水色雲：上向き　茶色雲：下向き）

通常「雲」とは一目均衡表で使われる抵抗帯や支持帯を指す。

本手法では便宜上 SMA50 よりも SMA20 が上にある場合を「水色雲」とし、SMA50 よりも SMA20 が下にある場合は「茶色雲」とする。

・水色雲：SMA50 より SMA20 が上にある上昇サイン

・茶色雲：SMA50 より SMA20 が下にある下落サイン

エントリールール（15 分足）

買いの場合

１．ローソク足が水色雲の中に潜る

２．上向き矢印ピンバーが「水色雲下限」タッチ後に出現する

３．次の足の始値で買いエントリー

水色雲の上で推移していることにより上昇トレンドを確認できる。この状態で、ある程度の押し目を待ち「水色雲下限（SMA50）」で、ピンバーでの明確な反発を確認してから買う。

売りの場合

１．ローソク足が茶色雲の中に潜る

２．下向き矢印ピンバーが「茶色雲上限」タッチ後に出現する

３．次の足の始値で売りエントリー

売りエントリーは単純に買いと逆になっただけ。

茶色雲の下で推移していることにより下落トレンドを確認できる。この状態で、ある程度の戻し目を待ち「茶色雲上限（SMA50）」で、ピンバーでの明確な反落を確認してから売る。

エントリーを見送る条件（15 分足）

1．SMA50（買い：水色雲下限、売り：茶色雲上限）をブレイクしている場合は見送り

2．買いは押し目の最安値、売りは戻しの最高値でなければ見送る

3．「三尊」「逆三尊」を予測させる形

4．月曜日に大きく「窓開け」している相場は見送り

5．直近の値動きが不安定なケースでは見送る

6．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

1．SMA50（買い：水色雲下限、売り：茶色雲上限）をブレイクしている場合は見送り

以下のチャートは水色雲をローソク足終値で下抜けている。その後にピンバーが出現したとしても買いエントリーは行わない。

２．買いは押し目の最安値、売りは戻しの最高値でなければ見送る

以下のチャートは、茶色雲の上限で「下向きピンバー」が出現している。しかし左側に目を向けると、高値を更新していないことがわかる。

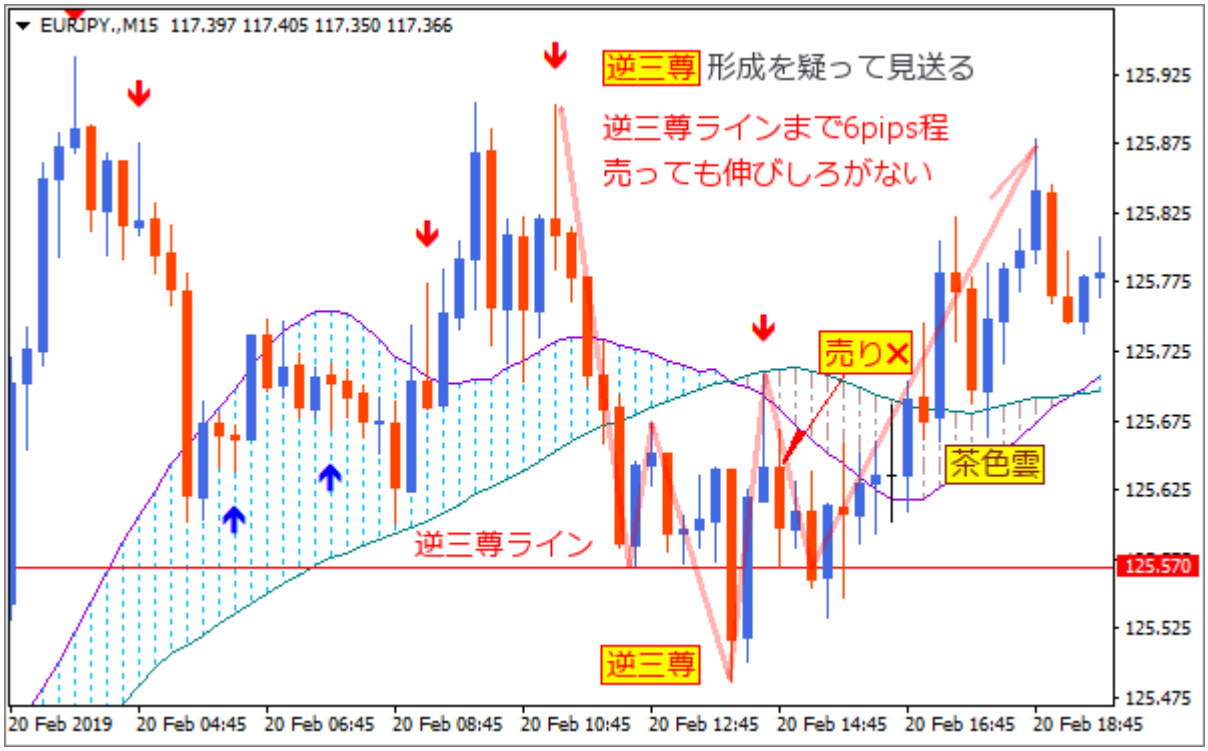
この場合、再度高値を試す動きが想定される。相場は常に行きすぎる傾向があるため、次に高値を目指した時にはストップを刈られる可能性が高くなる。

したがってこのケースでは、エントリーを見送る。

３．「三尊」「逆三尊」を予測させる形

三尊（買い）逆三尊（売り）を予測させる値動きになった場合は見送り。ただし三尊・逆三尊ラインまで「8pips」程の利益が確保できる場合はエントリーしてもよい（決済で後述）

※逆三尊のケース



４．月曜日に大きく「窓開け」している相場は見送り

業者によって月曜日の取引開始時刻が違うため、「窓開け」の高さは業者間で異なる。

そうなると移動平均線の位置が変わり、雲の形も業者ごとに違う。

本手法は「SMA50」への直接的な接触がエントリーの条件となる、したがって大きな窓開けが起こると、SMA50 の位置は業者間で誤差が生まれ意識されにくくなる。

以前までは「窓開け」を気にすることなくエントリーしていた。しかしここ数年の「窓開け」の勝率があまりにも悪く見送り対象に追加している。

ちなみに窓開けで様子見するのは本手法のみで、他の手法でこのルールは採用していない。ただし今後の成績次第では、全手法に適用することも検討している。

５．直近の値動きが不安定なケースでは見送る

以下のチャートは「水色雲の下限」付近で上向きピンバーが出現している。しかしタッチの手前で反発しているためエントリーは行わない。その後再度「水色雲の下限」を試して長い「十字線」が出ている。

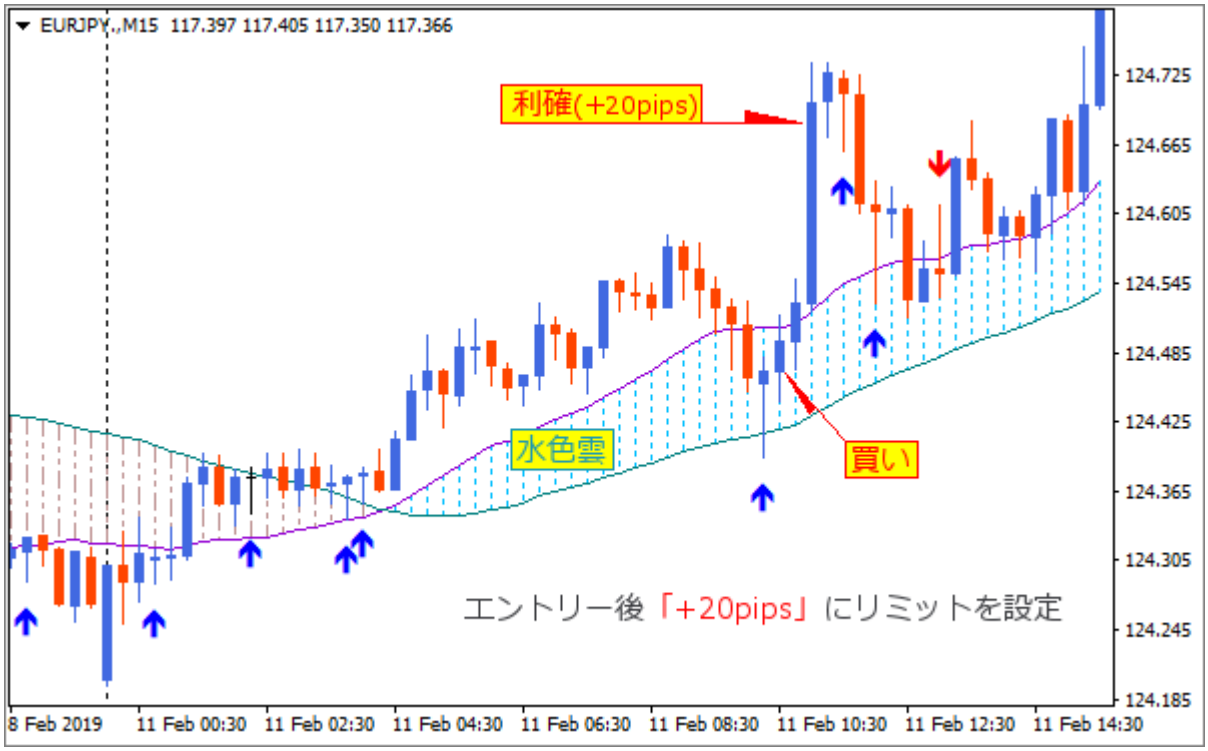
十字線の動きがかなり曖昧な値動きであり、２本後の「上向きピンバー」は様子見が正解となる。ここはかなりエントリーを悩む場面といえるだろう。しかしむりやりに、エントリーをする場面ではない。

利益確定ルール（15 分足）

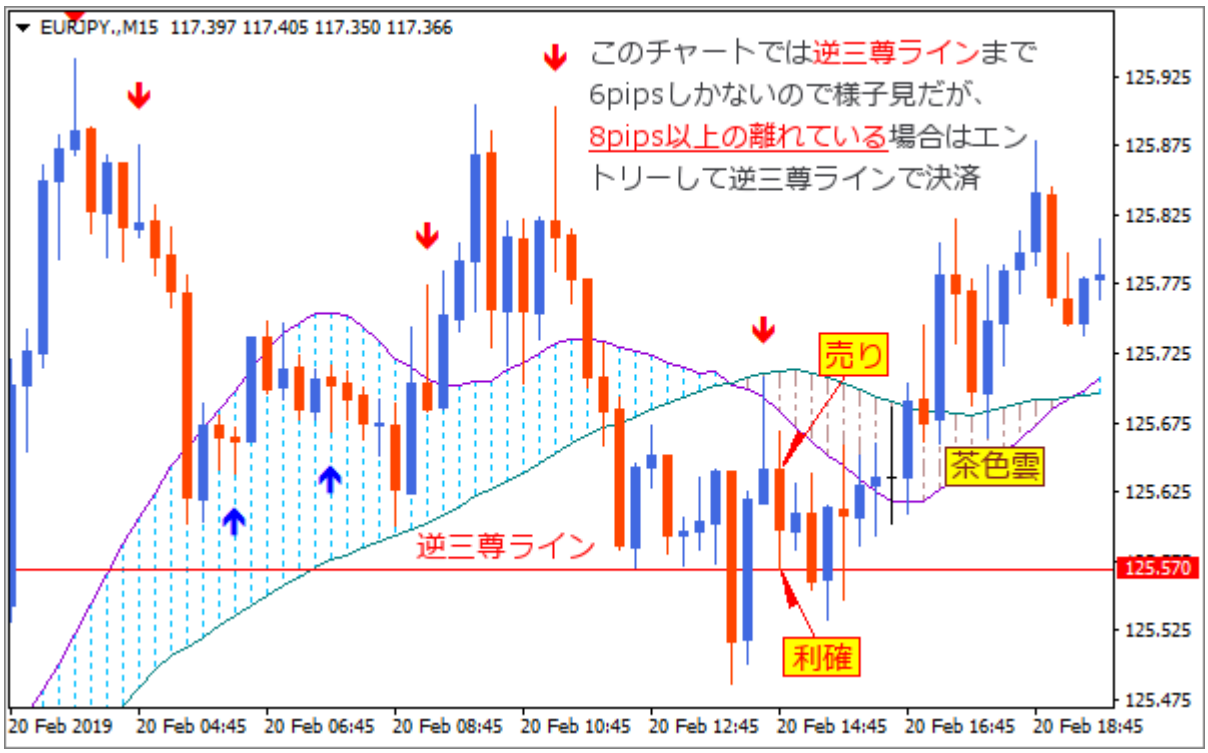
１．エントリー後「+20pips」にリミットを設定する

２．三尊・逆三尊まで「8pips」程の利益が見込める場合はエントリー後、三尊・逆三尊ラインで決済

１．エントリー後「+20pips」にリミットを設定する



２．三尊・逆三尊まで「8pips」程の利益が見込める場合はエントリー後、三尊・逆三尊ラインで決済



損切りルールとストップポイントの変更（15 分足）

１．エントリー後、安値、高値まで 10pips 以下の場合「10pips」にストップを設定

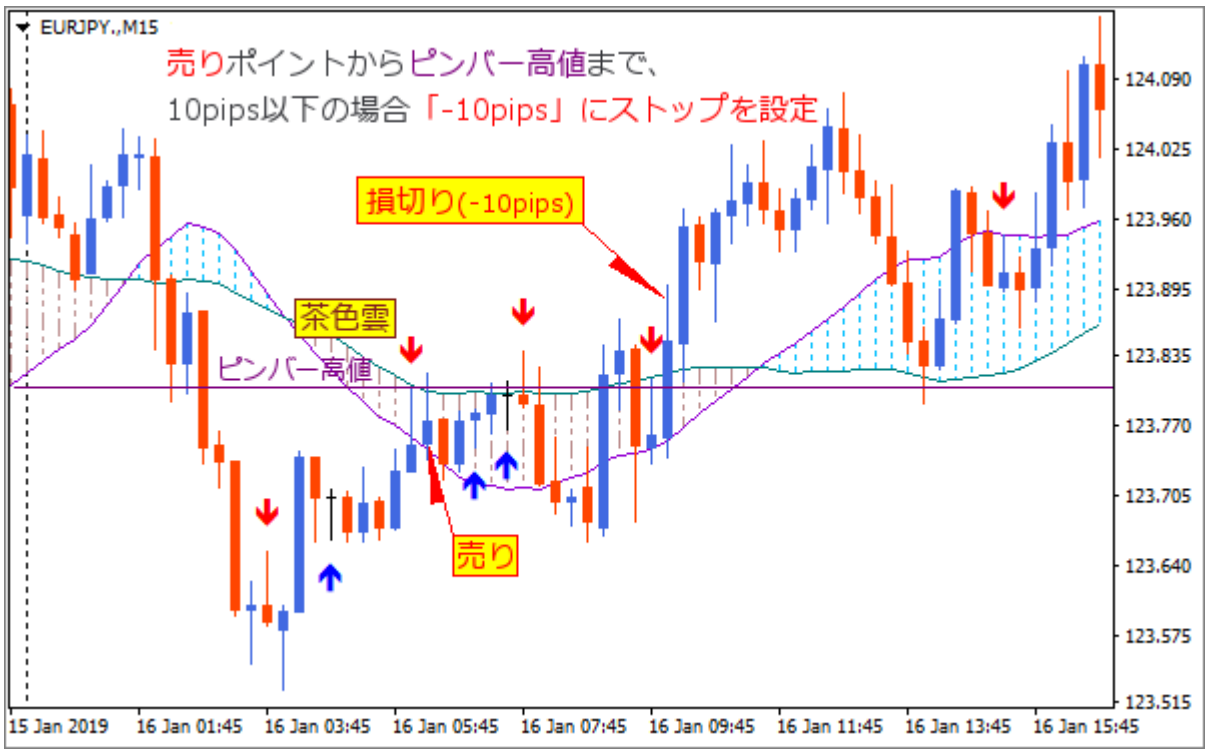
２．安値、高値までの距離が「10pips」以上離れている場合は、ロット数を減らしてエントリー行い安値、高値から 1pips 余裕を見てストップを設定

３．「+15pips」以上の含み益になったらストップを建値に変更する。

４．エントリー後に極端なボラティリティの低下がみられた場合は建値付近で決済する

５．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

1．エントリー後、安値、高値まで 10pips 以下の場合「10pips」にストップを設定



2．安値、高値までの距離が「10pips」以上離れている場合は、ロット数を減らしてエントリー行い安値、高値から 1pips 余裕を見てストップを設定

３．「+15pips」以上の含み益になったらストップを建値に変更する。

以下２つのパターンについては、他の手法とも同じルールなので説明を省略させていただく。

４．エントリー後に極端なボラティリティの低下がみられた場合は建値付近で決済する

５．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

まとめ

本手法は、ピンバーや雲を使った他の手法でトレードしている最中に誕生した。

「超シンプルに 50SMA タッチで取引しても勝てるのでは？」とある日思いつき、検証を重ねたところ、十分な優位性が認められたことから、手法のポートフォリオに採用している。しかしシンプルだかといって軽視してはいけない。月間成績でこの手法が最も稼いだ月もあるくらい貢献してくれている。

「簡単な手法で勝てるはずがない。」という先入観をもっていては完成しなかった手法だと思う。シンプルな手法は、複雑なインジケーターが正解ではないことを教えてくれる。

№６：フィボナッチ手法

手法概要

執 筆 者	TOMOZO
取引スタイル	**デイトレード**
時 間 足	１時間足、その他
通貨ペア	何でも OK（検証は EUR/JPY）
分析方法	移動平均線、水平線、フィボナッチリトレースメント
注文方法	指値、逆指値
取引時間帯	9:00～24：00

続いて紹介する手法は「フィボナッチリトレースメント」を使った手法。

フィボナッチリトレースメントは、世界中の投資家が使う人気の高い分析方法だ。本書を読んでいる方も一度は試したことがあるのではないだろうか。

フィボナッチリトレースメントは大きく分けて２つの使い方がある。

１．トレンド中の押し目や戻し目を図る指標（23.6%、38.2%、50.0%、61.8%）

２．トレンド中の反発・反落ポイントを探る指標（161.8%、261.8%、423.6%）

今回は基本的な使い方である「１」にあたる手法を紹介する。

その年のボラティリティによって成績は異なるが、年間成績で見ると安定した利益を得ている手法である。

本手法最大のポイントは「売り注文」しか行わないことだ。「上昇相場」と「下落相場」の値動きの違いに気が付いている方は多いのではないだろうか。本手法では「下落相場」だけにターゲットを絞って取引することにより高い勝率を維持できている。

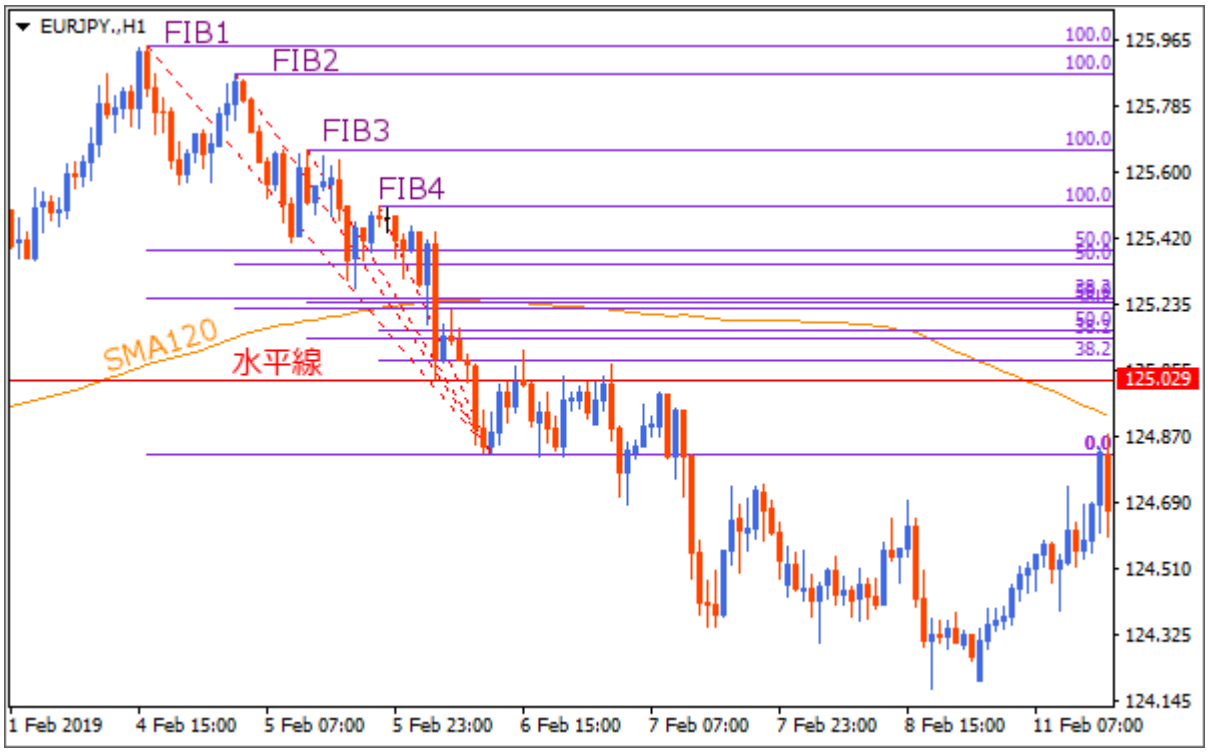
またエントリー、決済ともに指値・逆指値注文で対応できる点もメリットで、常にチャートを見られない方にオススメできる手法だ。

チャート環境（1 時間足）

1．移動平均線（SMA120）

2．水平線

3．複数のフィボナッチリトレースメント 38.2%、50.0%



フィボナッチリトレースメントは、起点となる 0.0%と 100%、エントリーに使用する 38.2%と 50.0%を表示。それ以外はすべて消去する。

フィボナッチリトレースメントの引き方は、SMA120 をローソク足終値での下抜けを確認してから、高値から安値に向かって引く。大抵の相場で複数のラインを引くことができる。

この段階では、どのフィボナッチが反落ポイントになるかはわからないので、意識された高値があれば、何本も安値に向かってラインを引いていく。

エントリールール（1 時間足）

売りの場合

１．120SMA をローソク足終値で下抜ける

２．120SMA が下向きであることを確認する

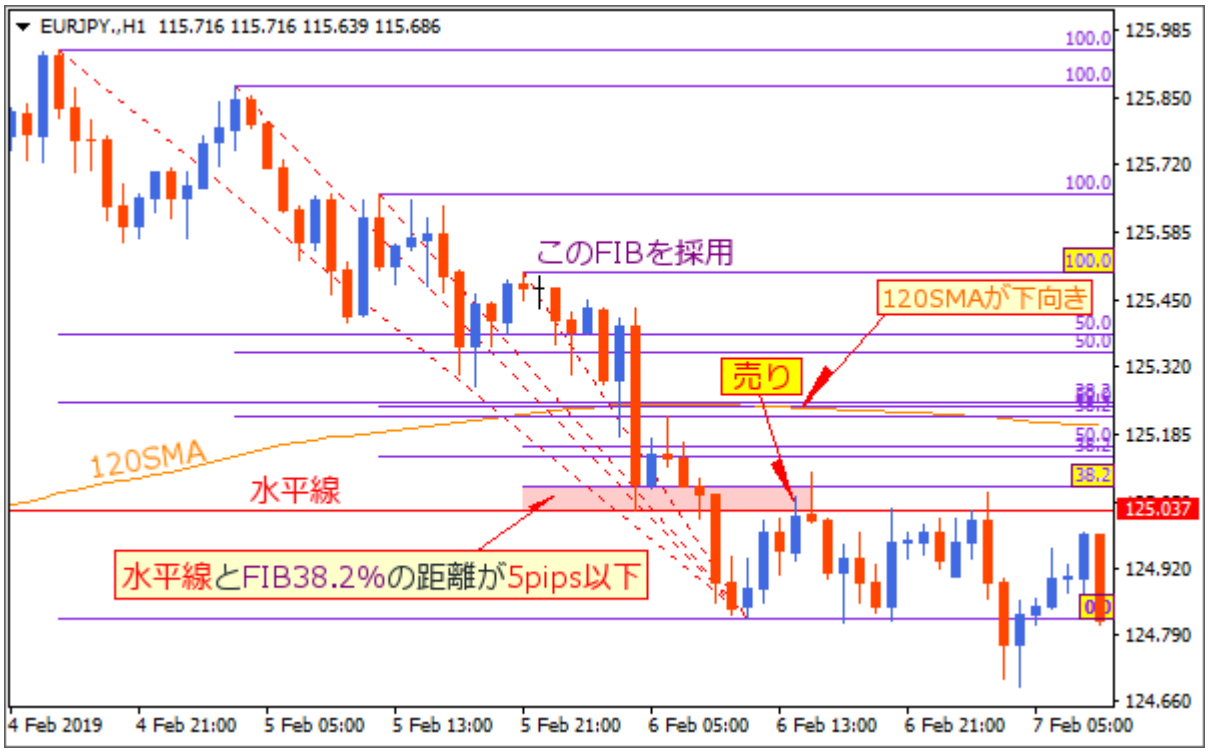
３．反発した安値に水平線を引く

４．高値から安値にフィボナッチリトレースメントラインを引く

５．フィボナッチ 38.2%、あるいは 50.0%と水平線の距離が「5pips」以下の場合、フィボナッチラインと水平線の中間点に売り指値注文

※買いエントリーは行わない。

複数のフィボナッチと水平線を引き、現在のレートと最も近いポイントでエントリーを行う。フィボナッチと水平線が一致（5pips 以下）しない場合は、一つ上でエントリーできないかを探っていく。



買いエントリーを行わない理由

下落相場が上昇相場よりもスピードが速いのは、以下の格言からも読み取れる。

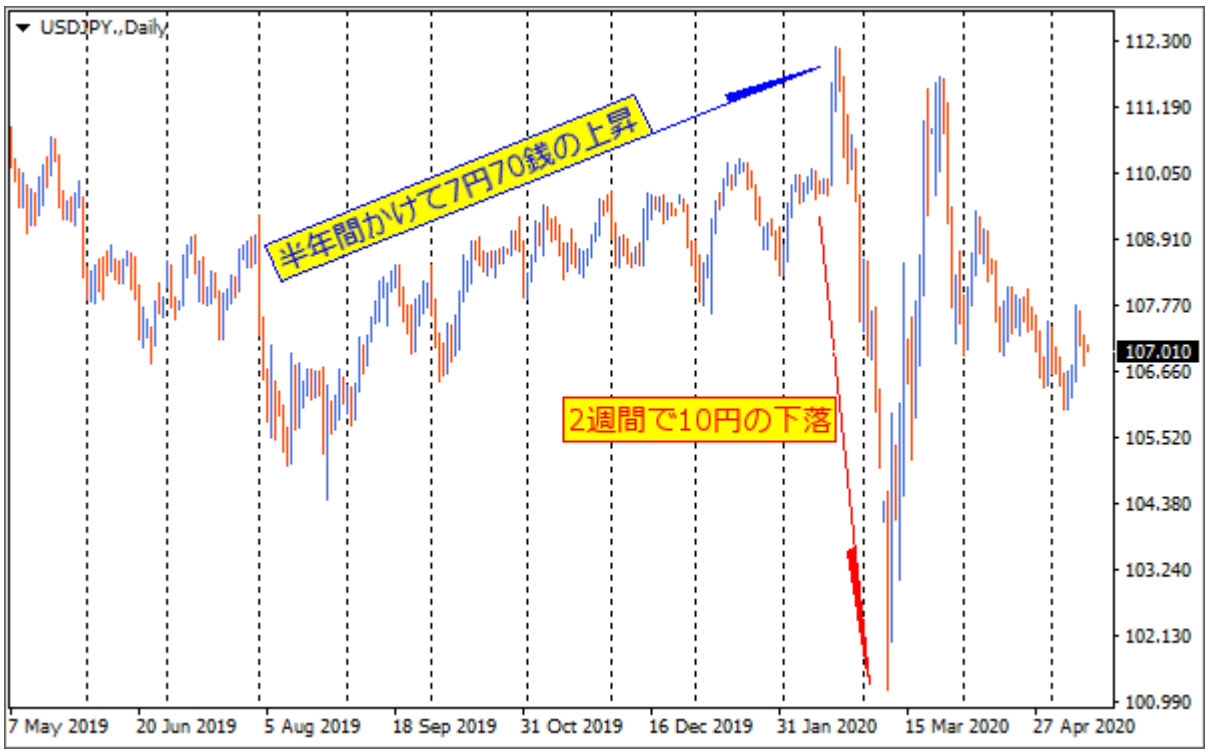
・天井三日、底百日（上げ百日、下げ三日）

・売りは早かれ、買いは遅かれ

これらの格言は「上昇はダラダラとゆっくり時間をかけて買われていくが、下落のスピードは一瞬でストンと落ちる」ことを意味している。

コロナショックのドル円場をみても、半年間かけて 104.5 円～112.2 円まで 7 円 70 銭、上昇した相場は、わずか 2 週間で 101.2 円まで 10 円の下落となっている。

底をつけた後の切り返しも凄い勢いだが、この動きは強い下落がなければ起こらなかった上昇であり、揺り戻し相場と考えるべきだろう。



このように下落相場と上昇相場の特徴は、明らかに違うことがわかる。

売りは利益が伸びやすく、買いは利益が伸びにくいともいえるだろう。この特徴を生かして売りだけしか取引しない「売り専門」の投資家もいるくらいだ。

私も常に「売り」と「買い」の成績差を比較しているが、検証と実践の結果、今回のフィボナッチを使った手法では、「売り」と「買い」の成績差が顕著に表れることがわかった。

上昇相場では短い陽線を形成して時間をかけて買われていくため、いざ押し目が入ったとしてもフィボナッチの各ポイントは反応を示しにくい。

一方下落相場では、長い陰線が出て一気に安値を更新していくエッジの効いた展開が多い。メリハリのある値動きは「わかりやすい直近安値」を形成することになる。

わかりやすい直近安値とフィボナッチ 38.2%と 50.0%が重なることにより、世界中の投資家が「意識しやすいポイント」を誕生させるのだ。そのポイントでエントリーすれば、優位性の高いトレードを行える。

エントリーを見送る条件（1 時間足）

エントリーを見送る条件は以下の５つだ。

１．120SMA が下向きになっていない場合は見送り

２．わかりやすい「ダブルボトム」を形成したら見送り

３・損切り後、次のエントリーポイントがあってもエントリーはしない

４．安値までの値幅が少なすぎる、あるいはボラティリティが極端に低下している場合は見送り

５．月曜日は勝率が悪いため見送り

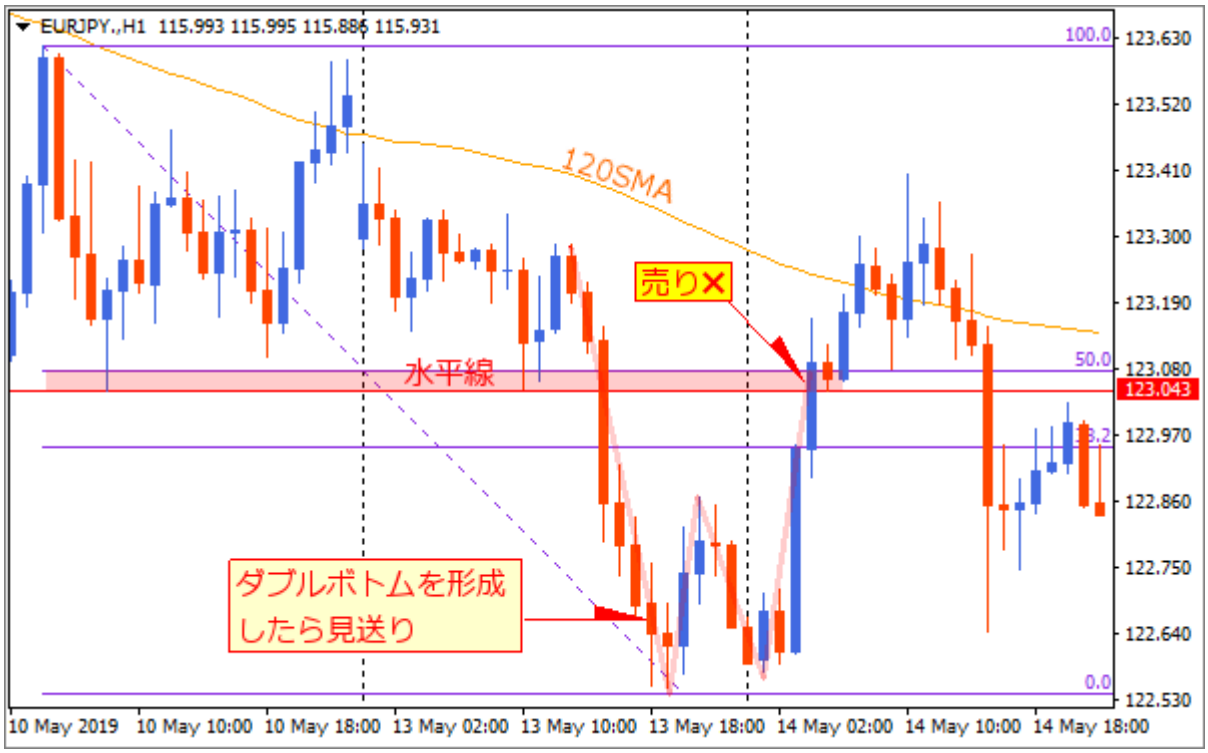
６．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

順番に紹介していく。

１．120SMA が下向きになっていない場合は見送り

120SMA の角度が下向きになっていない形は「押し目」の可能性が高く、120SMA をブレイクしていたとしても売りエントリーは見送る。

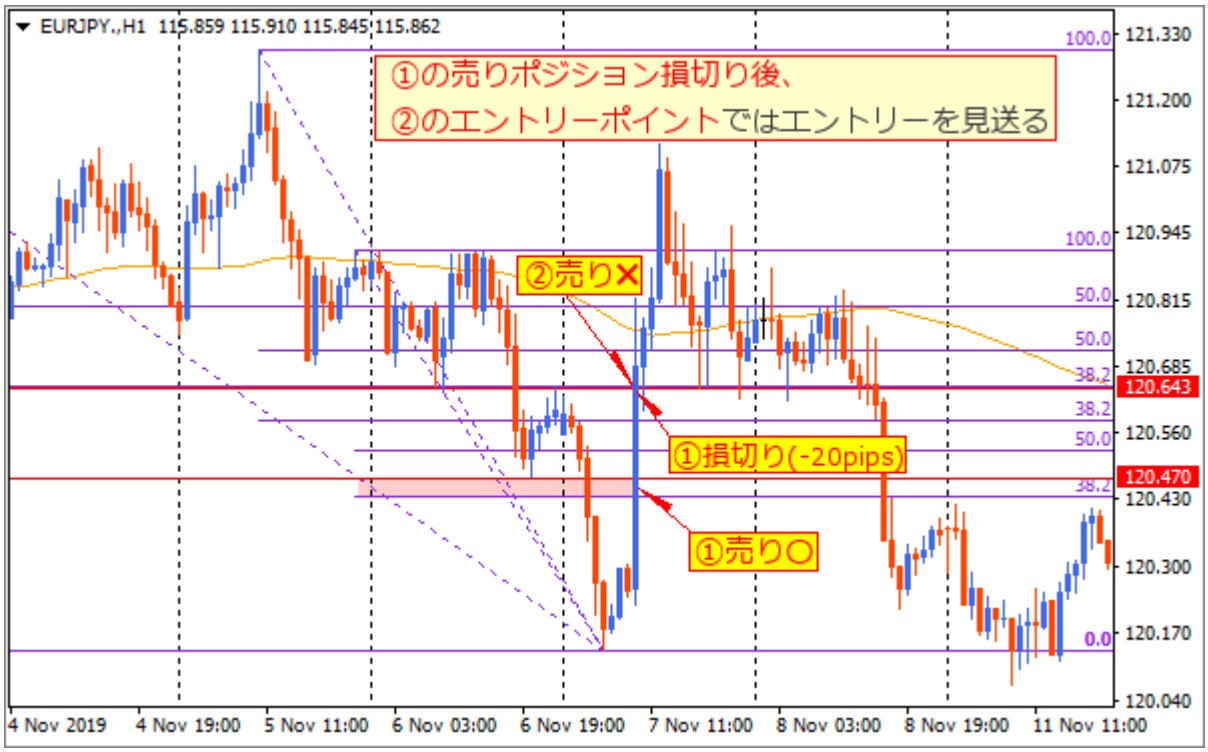
２．わかりやすい「ダブルボトム」を形成したら見送り



３・損切り後に、次のエントリーポイントがあってもエントリーはしない

本手法はストップ「20pips」に対して、利益確定の値幅は「20pips～30pips」である。（後述）

つまり「勝率重視」の手法となるため、１回の下落相場で連敗を喫してしまっては大きな痛手となる。したがって損切り後に次のエントリーチャンスが訪れたとしてもエントリーは見送る。



４．安値までの値幅が少なすぎる、あるいはボラティリティが極端に低下している場合は見送り

以下のチャートはエントリーポイントから直近安値までの値幅「12pips」しかない。

また前日の値動きを比較すると、明らかにボラティリティが低下しており、エントリーのリスクが高い場面となる。

〇pips 以下で見送りという決まりはない。しかし直近の値動きと比較して、ボラティリティが低下している場合は見送る。

５．月曜日は勝率が悪いため見送り

どうもこの手法は月曜日との相性が悪い。「窓開け」の有無にかかわらず、損切りされる回数が多くなってしまう。以前は気にせずに月曜日もエントリーしていた。しかし勝率が悪いエントリーを、永遠に行うことは合理性に欠けるので、現在は見送り対象としている。

以下のチャートはダブルボトムを形成しているので「２」の見送りにルールにも該当する。

６．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

以下のチャートは米国雇用統計 3 時間前のエントリーだ。指標発表前の数時間は値動きが出にくいため、エントリーをしても期待値は低い。

仮にエントリーをしてしまった場合は発表前に決済しておこう。

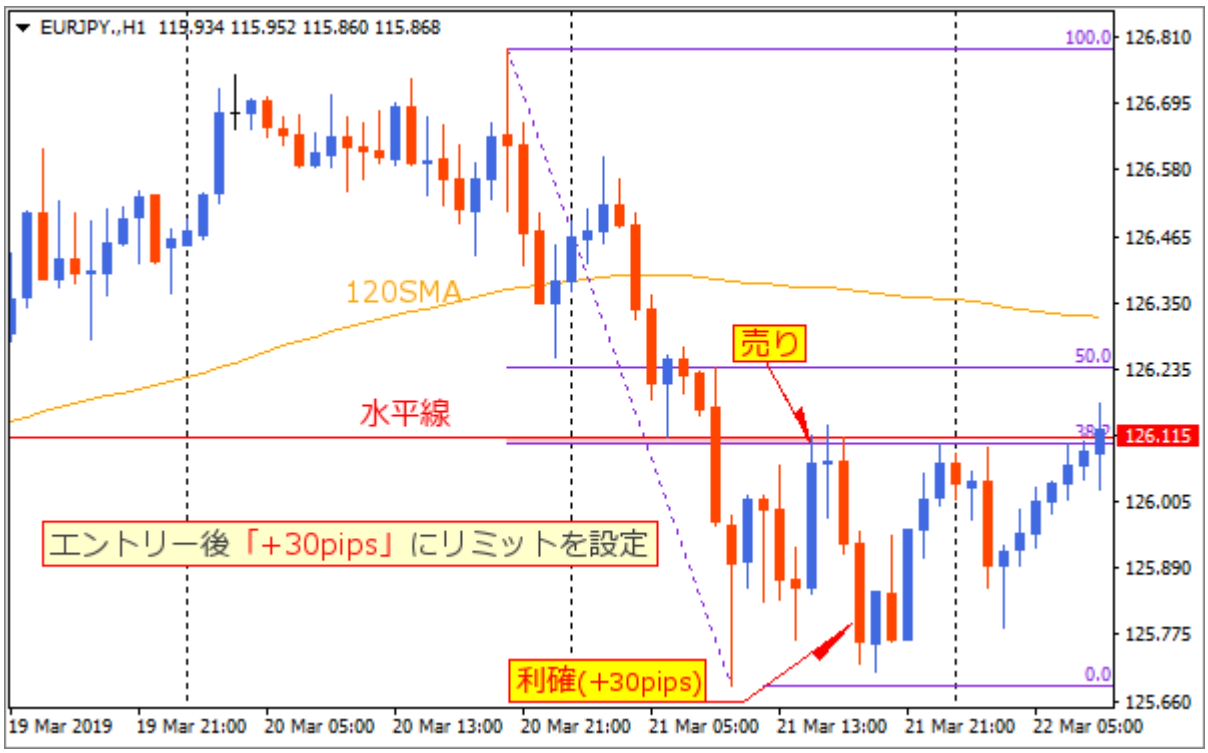
利益確定ルール（1 時間足）

１．エントリー後「+30pips」にリミットを設定する

２．エントリーポイントから直近安値までの距離が 30pips 以下、20pips 以上の場合は直近安値付近で利益確定

３．エントリーポイントから直近安値までの距離が「20pips」未満の場合は「+20pips」にリミットを設定する

1．エントリー後「+30pips」にリミットを設定する



2．エントリーポイントから直近安値までの距離が 30pips 以下、20pips 以上の場合は直近安値付近で利益確定（安値ピタリではなく若干余裕を見て決済する）

３．エントリーポイントから直近安値までの距離が 20pips 未満の場合は「+20pips」にリミットを設定する

ストップ 20pips が本手法の損切りルールなので、損失と利益の比率 1：1 は確保しておきたい。したがってエントリーポイントから直近安値までの距離が近い場合は、リミットを「20pips」に設定して直近安値ブレイクを狙っていく。

損切りルールとストップポイントの変更（1 時間足）

１．エントリー後、一律「20pips」にストップを設定する

２．「+25pips」以上の含み益になったらストップを建値に変更する。

1．エントリー後、一律「20pips」にストップを設定する

2．+25pips 以上の含み益になったらストップを建値に変更する。

まとめ

いかがだったろうか。２つのレジスタンスが重なるポイントにターゲットを絞って「売りだけ」を行うのが本手法のルールだ。

「売りだけしかエントリーを行わないとなると、取引チャンスが大きく減ってしまう。機会損失になる」と考える方がいるだろう。しかしその考えは大きな間違いだ。

FX の目的がエントリーになってしまっては、長期的に相場に生き残っていくことはできない。

重要な指標は「プロフィットファクター（総利益÷総損失）」であり、いかにムダなエントリーを避けて総損失を減らしていけるかが、FX で勝つための鍵となる。

エントリーを行うことは「リスク」なのだ。運が悪ければ、エントリーした瞬間に「値飛び」が起きてロスカットが発動しない可能性だってある。

1 回の取引に必ず FX 業者の手数料（スプレッド、マイナススワップなど）が乗っていることも常に意識しておかなければならない。

今回の手法は「売りだけしか行わない」という考え方だ。しかし手法によっては「買いだけしか行わない」という考えがあってもよいだろう。

重要なことは先入観にとらわれることなくさまざまな仮説を立てて、検証を行っていくことだ。

No.７：通貨ペア強弱手法

手法概要

執 筆 者	TOMOZO
取引スタイル	**デイトレード**
時 間 足	1 時間足
通貨ペア	何でも OK（検証は 10 通貨ペア）
分析方法	移動平均線乖離率ツール　水平線
注文方法	成行、指値、逆指値
取引時間帯	9:00～24：00

続いては「トレンドの強さ」を数値化してあらかじめフィルターをかけ、理想的な相場だけトレードを行う。という手法だ。

手法を紹介する前に、この手法ができるまでのストーリを書いていく。

「トレンド」とは日本語に訳すと「傾向」という意味だ。

FX では上がっているか、下がっているか、どちらに強く振れているかを指し示している意味になるだろう。トレンドにはさまざまなケースがある。

リーマンショック、コロナショックなどの大暴落のような形もあれば、押し目・戻し目をつけながらゆっくりと上昇・下落する相場もまたトレンドと定義される。

つまりトレンドには「種類」があるわけだ。

私はこのトレンドを分類してエントリー前の「環境認識」として使えないかと考えた。

たとえば、

・強いトレンドはブレイクに乗る

・弱いトレンドは押し目や戻りを待つ

などの戦略を立案できれば、もっと効率的に勝てるのではないかと思ったのだ。

しかしトレンドに種類があるといっても、ローソク足がすべて同じ形状を描くことはないし「感覚的」にトレンドを決めてしまっては検証を行うことはできない。

そこで考えたのがトレンドを「数値化」することだった。トレンドを数値化できれば、再現性の高い検証を行える。

さまざまな指標を試した結果、トレンドを数値化するために「移動平均線乖離率」を使うことにした。移動平均線乖離率は現在のレートが移動平均線からどれだけ離れているかを数値化した指標であり、トレンドの強弱を調べるにはピッタリの指標である。

この数値を使い、日足の「短期」「中期」「長期」で検証を行った。

その結果「丁度よい」トレンドの数値があることを発見した。「強すぎず、弱すぎない」トレンドである。

最初は「トレンドの強さを示す数値が大きければ、大きいほど利益が得られるのではないか」という仮説のもとに検証を行っていた。しかしこれは大きな勘違いだった。

そもそも「移動平均線乖離率」は移動平均線からの離れ具合で「買われすぎ」や「売られすぎ」を判断する逆張り指標であり、数値が大きいとやがて乖離が修正され、レートが元に戻ることを意味しているからだ。

また最初から想像できたことだが「弱すぎるトレンド」の優位性が発揮されることはなかった。数値ではトレンド方向を示しているものの、チャート上では今一つトレンドを認識できないような弱いトレンドで利益を得ることはできなかったのだ。

リーマンショックのような大相場ではなく、クリスマス休暇のようなボラティリティの少ない相場でもない「丁度よい」トレンドだけを狙うことにより、優位性が高いトレードを実現できるようになった。

さらに１つの通貨ペアだけではなく、複数通貨ペアの「移動平均線乖離率」を比較すれば、通貨ペアの相関性を掴める。

以下の画像が、短期、中期、長期の「移動平均線乖離率」を表にしたものだ。

上位ランキング　D1-5EMA

買い	Rank	売り
NZD/JPY 1.31	No.1	GBP/NZD -1.16
NZD/USD 1.19	No.2	GBP/AUD -0.93
AUD/JPY 1.14	No.3	EUR/NZD -0.59

強 → 弱

上位ランキング　D1-30EMA

買い	Rank	売り
AUD/JPY 2.82	No.1	GBP/AUD -3.37
AUD/USD 2.69	No.2	GBP/NZD -2.42
AUD/CAD 1.87	No.3	EUR/AUD -1.78

強 → 弱

上位ランキング　D1-60EMA

買い	Rank	売り
AUD/USD 2.84	No.1	GBP/AUD -4.21
AUD/CAD 2.74	No.2	GBP/NZD -2.45
AUD/JPY 2.62	No.3	EUR/AUD -2.27

強 → 弱

D1-5EMA

	EUR	JPY	GBP	AUD	NZD	CAD
USD	0.61	0.09	0.05	1.04	1.19	-0.46
EUR	-	0.71	0.55	-0.40	-0.59	0.15
JPY	-	-	0.22	1.14	1.31	0.57
GBP	-	-	-	-0.93	-1.16	-0.41
AUD	-	-	-	-	-0.16	0.57
NZD	-	-	-	-	-	0.73
CAD	-	-	-	-	-	-

D1-30EMA

	EUR	JPY	GBP	AUD	NZD	CAD
USD	0.90	0.12	-0.81	2.69	1.61	-0.81
EUR	-	1.03	1.70	-1.78	-0.73	0.08
JPY	-	-	-0.58	2.82	1.75	0.93
GBP	-	-	-	-3.37	-2.42	-1.60
AUD	-	-	-	-	1.05	1.87
NZD	-	-	-	-	-	0.80
CAD	-	-	-	-	-	-

D1-60EMA

	EUR	JPY	GBP	AUD	NZD	CAD
USD	0.59	-0.21	-1.52	2.84	0.90	-0.15
EUR	-	0.38	2.09	-2.27	-0.39	0.45
JPY	-	-	-1.63	2.62	0.69	-0.12
GBP	-	-	-	-4.21	-2.45	-1.61
AUD	-	-	-	-	1.89	2.74
NZD	-	-	-	-	-	0.81
CAD	-	-	-	-	-	-

この表は私が独自に開発したツールで「強い通貨ペア」と「弱い通貨ペア」の１位～3 位までをリアルタイムで表示できる仕様となっている。（1 分足、5 分足、15 分足、1 時間足、4 時間足、日足、合計 21 通貨ペアに対応）

上位３位までのランキング表を見れば「より上昇しやすい最も強い通貨ペアを買い」「より下落しやすい最も弱い通貨ペアを売る」というトレードができるのだ。

このツールは当サイトの「会員申し込み」により無料でご利用いただけるので、気になった方はぜひ申込みをしていただければと思う。ツールの特徴は下記の動画でご覧いただける。

youtube：https://www.youtube.com/watch?v=0GCYjMPv7gI&t=22s

それではトレンド強弱ランキングツールを使った、具体的なトレード手法を紹介していく。

本手法は「買い」と「売り」の取引ルールが異なるので、「買い」と「売り」を分けて解説する。

チャート環境：買い

１．移動平均線乖離率 日足 5EMA（トレンド強弱ツールを使用）

２．水平線

最初にトレンド強弱ツールの、D1-5EMA「買い」1 位の通貨ペアに注目する

AUD/USD 0.87

D1 は日足、5EMA は移動平均線乖離率 5EMA を表している。

上位ランキング　D1-5EMA

買い	Rank	売り
AUD/USD 0.87	No. 1	USD/CAD -1.00
CAD/JPY 0.83	No. 2	NZD/CAD -0.58
AUD/JPY 0.70	No. 3	EUR/CAD -0.56

本ツールは合計「21 通貨ペア」をランキング付けしているが、すべての通貨ペアではなく、以下の「10 通貨ペア」が取引対象となる。

「10 通貨ペア」以外は、スプレッドが広く不安定な値動きをするケースが多いため、対象外としている。

トレンド強弱ツールで環境認識を行ったあとは、1 時間足チャートで取引を行っていく。

テクニカル分析は使用せず、水平線 1 本でエントリーの判断をする。

エントリールール：買い

エントリールールは極めてシンプルなものだ。以下の「3 工程」でエントリーを行う

1．「買い」ランキング 1 位の通貨ペアを確認（数値：0.50～0.99）

2．直近安値に水平線を引く

3．直近安値到達で買いエントリー

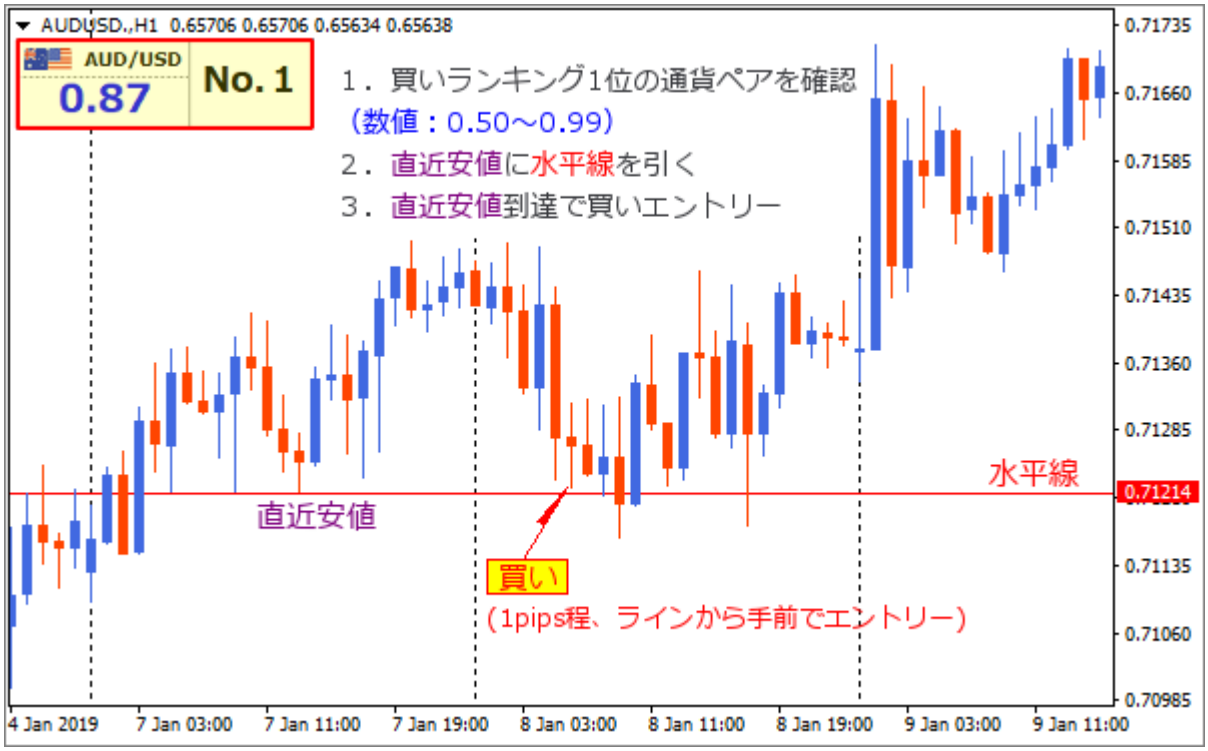
冒頭で説明した「強すぎず、弱すぎない丁度よいトレンド」が「0.50～0.99」となる。

日足のデータにおいて、0.50 未満、1.00 以上の数値が表示された場合、その日の取引は様子見する。

実際のチャートでエントリーポイントを確認してみよう。

この日の「買い」ランキング１位は「AUD/USD：0.87」であった。エントリールールに該当するので、直近安値に水平線を引き、指値買い注文をして到達を待つ。

ポイントは水平線ピタリに注文を入れるのではなく「1pips」程ラインから手前に注文をすることだ。



※注）チャート左上のランキングは、わかりやすいように掲載したものであり実際に MT4 には表示されない。

エントリーを見送る条件：買い

エントリーを見送る条件は以下の４つだ。

１．月曜日は見送り

２．直近の高値で長い上ヒゲが出ており、そこから右肩下がりになっている

３．直近のボラティリティ不安定なケースでは見送る

４．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

順番に解説していく。

１．月曜日は見送り

月曜日特有の値動きに「窓開け」がある。

トレンド方向への窓開けには「達成感」があり、窓開け確認後、利益確定の売り注文や窓埋めを狙った新規の売り注文が入りやすい。

その値動きが相場転換を引き起こすことが多く「直近安値での買い」の優位性が低いため、見送りとしている。

なお検証の結果「窓開け」以外も月曜日の勝率は著しく低かったことから、火曜日～金曜日までエントリーを行うのが本手法のルールとなる。

２．直近の高値で長い上ヒゲが出ており、そこから右肩下がりになっている

下記のチャートでは、一度強い反落があったポイントから、高値を切り下げる展開。

前日の高値からの切り下げであれば、直近安値で買っても問題ない。一方で 3 日前（10/17）からの高値切り下げは見送りの対象となる。

３．直近のボラティリティ不安定なケースでは見送る

以下のチャートは前日一気に「200pips」以上の上昇を見せている相場。「ECB 金利政策発表」がきっかけとなり乱高下する展開になった。

ストップを「20pips～30pips」に設定している本手法ではリスクが高くなるため、エントリーを見送る。

続いて「利益確定」のルールを解説していく。

利益確定ルール：買い

１．直近高値付近（ピタリではなく少し手前）で利益確定

基本的に直近高値まで保有する。ただ直近手前で反落するケースがよくあるので、直近高値ピタリではく、若干の余裕をみて利確する。

１つオススメしたいのが、高値をつけたローソク足の終値に注目すること。含み益が多く出ていればこのポイントで決済する。

ほとんどの手法で採用している「三尊」を意識しての利確は、この手法では基本的には意識していない。なぜなら「その日の最も強い通貨ペア」であるという背景があるためだ。

当初は「三尊」を意識して利確を行っていた。しかし過去のデータを取った時に、三尊ラインを上抜けて直近高値まで進行することが明らかに多かった。

したがって現在のルールとしては「三尊」は無視して直近高値付近までポジションを保有するようにしている。

損切りルールとストップポイントの変更：買い

1．エントリー後、直近高値まで 50pips 未満の場合は「20pips」にストップを設定

2．エントリー後、直近高値まで 50pips 以上ある場合はロット数を減らして「30pips」にストップを設定

3．ポジションは翌日に持ち越さずに決済する

1．エントリー後、高値まで 50pips 未満の場合は「20pips」にストップを設定

上昇トレンドのなかでも、比較的値動きが少なく（50pips 未満目安）直近高値までの距離が近いケースでは、ストップを「20pips」に設定する。

２．エントリー後、直近高値まで 50pips 以上ある場合はロット数を減らして「30pips」にストップを設定

直近高値までの値幅が「50pips」以上あるときは、それだけリターンも大きくなる。したがってストップを「30pips」まで広げロット数を減らす。

ストップを広げても１回あたりの損失額を同じにすることで、ドローダウンを減らす事ができる。１回１回のトレードに依存しないことが大切だ。

３．買いポジションは翌日に持ち越さずに決済する

買いの場合はポジションを翌日に持ち越さずに決済する。一方で売りは翌日もポジションを保有する。なぜならば売りポジションの方が、利益が伸びやすいからだ。

「買いは保守的に、売りは大胆に」が利益確定の合言葉だ。

続いて売り注文の取引ルールについて解説する。

チャート環境：売り

１．移動平均線乖離率 日足 5EMA（トレンド強弱ツールを使用）

２．水平線

最初にトレンド強弱ツールの、D1-5EMA「売り」1 位の通貨ペアに注目する

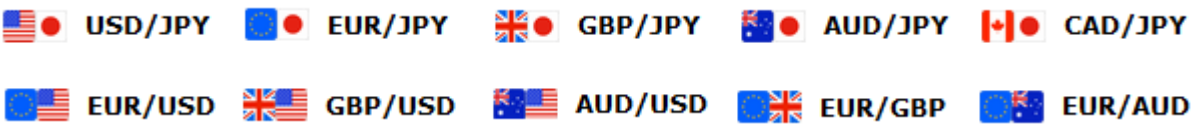
「EUR/GBP －0.80」

D1 は日足、5EMA は移動平均線乖離率 5EMA を表している。

上位ランキング　D1-5EMA

買い	Rank	売り
GBP/CAD 1.00	No. 1	EUR/GBP -0.80
GBP/JPY 0.96	No. 2	AUD/NZD -0.43
GBP/AUD 0.91	No. 3	EUR/NZD -0.29

このツールは合計「21 通貨ペア」をランキング付けしているが、すべての通貨ペアではなく、以下の「10 通貨ペア」が取引対象となる。



「10 通貨ペア」以外は、スプレッドが広く不安定な値動きをするケースが多いため、対象外としている。

トレンド強弱ツールで環境認識を行ったあとは、１時間足チャートで取引を行っていく。

テクニカル分析は使用せず、水平線１本でエントリーの判断をする。

続いてエントリールールを解説していく。買いは直近安値タッチでのエントリーだけであったが、売りの場合は２つのエントリールールがある。

エントリールール１：戻り売り

１．「売り」ランキング１位の通貨ペアを確認（数値：-0.50～-0.99）

２．直近高値に水平線を引く

３．直近高値到達で売りエントリー（ダブルボトム限定）

買いとプラスマイナスが逆になっただけで、トレンド強弱ツールの数値は同じ。

「強すぎず、弱すぎない丁度よいトレンド」が「-0.50～-0.99」となる。

買いとの違いは、売りの場合「ダブルボトム」限定でネックライン（直近高値）への戻りを売るという点だ。

実際のチャートでエントリーポイントを確認してみよう。

この日の「売り」ランキング１位は「EUR/GBP：－0.80」であった。

エントリールールに該当するので直近高値に水平線を引いていく。ここで売りは必ず２回底を打った「ダブルボトム」に近い形になっているかを確認する。

そして直近高値である、ネックラインへの戻しに売り指値注文を行う。買い注文と同じで若干手前（1pips 程）に注文をしておく。

売りは買いと異なり値動きが早いので、底がキレイな形になっていないと直近高値が意識されにくい。そのためキレイな形である「ダブルボトム」を待ってからネックラインでエントリーを行うことで、手法の優位性を高めている。

エントリーを見送る条件：戻り売り

1．ダブルボトム形成後のネックライン以外はエントリーを避ける

2．直近のボラティリティが不安定なケースでは見送る

3．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

1．ダブルボトム形成後のネックライン以外はエントリーを避ける

続いて売りの２つ目のルールを解説する。

エントリールール２：ブレイク

２つ目のエントリールールは「ブレイク」を使ったものだ。

１．「売り」ランキング１位の通貨ペアを確認（数値：-0.50～-0.99）

２．前日あるいは２日前の安値に水平線を引く（当日安値は NG）

３．水平線をファーストタッチでブレイクする（1pips 以上）

４．水平線まで 10pips 未満の場合は成行エントリー、10pips 以上の場合は戻りを待ってエントリー

上記が「買い」では行わない「売り」限定のルールになる。

実際のチャートで確認してみよう。

ポイントは水平線を「ファーストタッチでブレイク」していることだ。本来意識されるはずの直近安値がまったく意識されず、下抜けることに意味がある。

１時間足単位で反発せずに一気にブレイクした相場は、買いポジションを保有していた投資家のストップを巻き込んで下落を促進することになる。

また更に勢いよくブレイクした値動きをみて、新規の売り注文も増えて下落が加速していくのだ。

上昇相場でこのエントリーを行わない理由は、シンプルに上昇の加速が起きにくいからだ。

№6 フィボナッチ手法の解説で「買いエントリーを行わない理由」について解説しているのでもう一度読んでいただきたい。

下落相場と上昇相場の値動きの特徴は別物であり、よりトレンドがでやすい下落相場においてこのルールを採用している。

※水平線からブレイクしたローソク足終値の距離が 10pips 以上ある場合は、10pips までの戻りを待ってエントリーする。

エントリーを見送る条件：ブレイク

1．水平線ブレイクはファーストタッチのみ

2．当日安値ブレイクのエントリーは行わない

3．水平線ブレイクの基準は最低でも 1pips 以上が必要

4．水平線から「30pips」以上下落している場合は見送り

5．水平線をブレイクした陰線の下ヒゲが実体よりも長い場合は見送り

6．直近のボラティリティが不安定なケースでは見送る

7．米国雇用統計など重要イベント直前はエントリーを避ける

順番にチャートで解説していく。

1．水平線ブレイクはファーストタッチのみ

２．当日安値ブレイクのエントリーは行わない

世界中の投資家が意識しているのは、当日の安値ではなく日足として形が残る、当日より前の直近安値となる。

３．水平線ブレイクの基準は最低でも 1pips 以上が必要

４．水平線から「30pips」以上下落している場合は見送り

水平線からの距離が離れるほどリスクが高いエントリーとなる。下記のチャートでも前日安値を一気にブレイクしており、ブレイクに飛び乗るというよりも「戻りを待つ」形となる。その判断材料として「30pips」という基準を設けている。

５．水平線をブレイクした陰線の下ヒゲが実体よりも長い場合は見送り

安値ブレイクした陰線の下ヒゲに注目し、実体よりも長かった場合はエントリーを見送る。

以下のチャートは、水平線からブレイクしたローソク足の安値まで「30pips」以上離れているのでダブルのルールで見送りとなる。

利益確定ルール

・ルール１：戻り売りの場合

１．直近安値付近（ピタリではなく少し手前）で利益確定

この日は欧州市場で「ECB 政策金利発表」があった。発表までには時間があり、キレイな形だったのでエントリーし、直近安値付近で利益確定。

・ルール２：ブレイクの場合

２．エントリー後「+50pips」にリミットを設定

ブレイクでは利益を伸ばし「+50pips」で利益確定する。

大きな利益が期待できるエントリーなので、ストップを切り下げながら利益を追求するやり方でもよい。過去のトレードを振り返っても、実はこの方がトータルの利益は大きい。

下落トレンドが継続して「100pips」相場によっては「300pips」を獲得できる時もあるので、こちらのスタイルの方がよいという方は検証のうえ採用していただければと思う。

損切りルールとストップポイントの変更

・ルール１：戻り売りの場合

１．エントリー後、直近安値まで 50pips 未満の場合は「20pips」にストップを設定

２．エントリー後、直近安値まで 50pips 以上ある場合はロット数を減らして「30pips」にストップを設定

戻り売りの損切りは「買い」と同じルールだ。

１．エントリー後「20pips」にストップを設定

上記のチャートは、直近安値までの距離が近いのでストップは「20pips」になる。

直近安値までの距離が「50pips」離れている場合は、ストップを「30pips」に設定してロット数を通常の 30%程減らしてエントリーする。

・ルール２：ブレイクの場合

１．エントリー後「20pips」にストップを設定

２．「+25pips」以上の含み益になったらストップを建値に変更する

１．エントリー後「20pips」にストップを設定

２．「+25pips」以上の含み益になったらストップを建値に変更する（ブレイクのみ）

ストップの変更を行うのは「ブレイク」のみで「戻り売り」のエントリーはストップを変更せずにポジションを保有する。

まとめ

いかがだったろうか。環境認識としてトレンド強弱ツールの数値を確認する必要はあるが、エントリーには「水平線１本」しか使わないきわめてシンプルなルールであり、再現性の高い手法である。FX 初心者の方も馴染みやすいだろう。

またこの手法は、直近の安値や高値を使うためエントリーポイントが事前にわかる手法だ。

したがってあらかじめ指値注文をしておけば、知らないうちに約定しているし、ブレイクを狙う場面も直近安値到達にアラームを仕掛けておくことでエントリーの見逃しを防止できる。朝一でツールをチェックするのは 1 分もかからないので、時間的な負担も少ない。

デメリットはボラティリティが少ない年では取引回数が少なくなることだろう。

直近の 4 年間で見ると、2016 年と 2017 年はボラティリティが高くチャンスはかなりあった。一方 2018 年 2019 年は前の 2 年間と比較すると取引回数は少なかった。

2019 年の取引を調べたところ年間の取引回数は 26 回。ただし少ない取引のなかでも、損益レシオ「2.0 以上」で勝率「77%」と安定したパフォーマンスを発揮している。

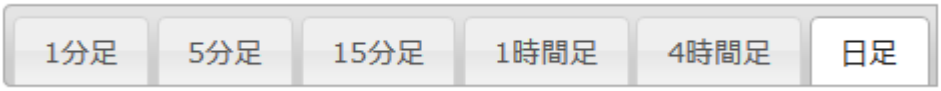
おそらくほとんどの人は、年間 26 回しか取引がない手法には興味がないだろう。ただ期待値が高い取引チャンスを「待つ」のが私のスタイルなのでこの手法を紹介させていただいた。

私が伝えたいのは、どんな手法であっても「待つ」のは必要であることだ。そしてトレードを仕事にしたいのであれば、「待つ」ことは必須になる。

本書では繰り返し述べている。「待てなければ相場の世界では生き残れない」ことを再度認識していただければと思う。

ところで今回はトレンド強弱ツールの「日足」を使った手法について紹介した。

実際のトレンド強弱ツールでは 6 種類（1 分足、5 分足、15 分足、1 時間足、4 時間足、日足）の時間足に対応している。



たとえば 1 時間足のトレンド強弱を背景にして 5 分足や 15 分足でトレードを行うなど、さまざまな使い方がある。このツールを使った手法を開発し、専業トレーダーになった方もいる。

かなり有益なツールなので、さざざまなパターンを検証していただければ幸いだ。

№8 ：2line 手法

手法概要

執 筆 者	まもと
取引スタイル	**デイトレード**
時 間 足	1 時間足
通貨ペア	EURJPY,EURUSD,USDJPY
分析方法	2line、水平線
注文方法	成行、指値、逆指値
取引時間帯	8:00～24：00

いよいよ本書で紹介する最後の手法だ。8 つ目の手法は TOMOZO ではなく、知り合いの専業 FX トレーダー「まもと氏」の手法を紹介する。

まもと氏はかれこれ 10 年来の付き合いで、私よりも先に専業トレーダーになった人物だ。まもと氏は出会ってすぐのころ「やっと資産が億に到達した」と言っていた。

現在の資産状況を詳しく聞いたことはないが、10 年以上が経過した今、おそらく私とは一桁違う額を稼いでいると思う。それだけ結果を残してきたトレーダーだ。

まもと氏はブログや SNS にはまったく興味がないようで、インターネット上でその存在を確認することはできない。今回普段の遊び仲間である私が「手法を 1 つ紹介していただけないか」とお願いしたところ、快く協力していただいた。

10 年以上使っているという、本書の締めに相応しい素晴らしい手法だ。ぜひ参考にしていただきたい。

※「まもと氏」に本文を執筆していただいた後に、実際取引した場面を教えていただき、チャートは統一性を図るため TOMOZO が作成した。

はじめに伝えたい重要なこと

私が最初に伝えたいのは、投資における損切りは「生死に関わるほど重要」であること。投資の死とは、もちろん資金が“スッカラカン”になることだ。

資金が尽きた水準であなたの投資は終わる。とく FX はゼロサムゲームの世界。生存競争に勝つためには確実な損切り能力を身につけなければならない。

勘違いしてほしくないのは、ただ損切りができればよいというわけではない。

資金の 10%の含み損で損切りしたからといって褒められるようなものではないのだ。

私のモットーは「損切りは最小限に」だ。

損失をどれほど少なくするかで勝負は決するといってもよい。1 回あたりの取引損失を抑え込めば、どんなに下手な投資を実行しても「死」を迎えることはない。

そして次に続くのが「利益は最大限に」である。

好機と捉えたならば大胆なポジション管理が必要だ。時には利益を最大限伸ばすための努力が不可欠となる。

1 つ例を示す。1 トレードにおけるロスカットの 10 倍利益を勝ち得たとしよう。

利益 10 倍とはすなわち、10pips の損失であるならば、100pips の利益となる。

100pips の利益が確定したとき私はこう考える。

「よし。損切り 10pips、10 回分を確保できた。」と。

「損切り 10 回分」は投資家にとって実に勇気が湧いてくる言葉ではないだろうか。

FX で 10 回連続の損切りを経験した人がどれだけいるだろうか。おそらくほとんどいないだろう。この 10 回分の損切りを確保するという考え方が肝要なのだ。

10 年以上前だろうか「FX で稼ぐ人は 1 勝 9 敗でも勝つ」という書籍が販売されていた。

「あり得ない。」と当時バカにしていたものだ。しかし FX で勝てない人を長年見続けていると、この書籍くらい極端な理念をもつことが、よい結果につながると今では感じている。

投資の世界でコントロールできるのは損失だけ。そして利益についてはできるだけ欲張ること。私の基本的な投資スタイルはこの考えのもと成り立っている。

チャート環境

まずこの手法に用いる分析方法から紹介する。

１．２本の移動平均線（2line）

２．サポートライン、レジスタンスライン

以上の２つだ。移動平均線（茶色、赤色）のパラメータは、かなり苦労して見つけた数値なので伏せさせていただく。

理由はこのレポートを無料で配布されると聞いたので、流用されて悪徳な FX 情報商材に使われることは避けたいためだ。

２本の移動平均線とサポートライン、レジスタンスラインしか使わない超絶シンプルな方法なので、設定値は教えてしまっては簡単にコピーされてしまう。

もちろん読者にはこの手法を「コピー」してトレードに生かしていただきたいと思っている。だがさも自分が開発したように、高額で売られてしまうのは私の意志に反しているので、ここはご理解いただきたい。

ただしこれから取引の方法を教えても、肝心要の移動平均線の設定値がわからなければこの手法は使えない。

したがって TOMOZO さんのサイト会員になった方に、今回の手法が使用できる「2line」のインジケーターをプレゼントさせていただくことにする。

ただしインジケーターでも手法の要である移動平均線の数値は隠してあるのでご注意を。

本書では「茶色のライン」「赤色のライン」の用語で説明を進めていくことにする。

エントリールール

買いエントリーの場合

１．チャートの左側、ブレイクした高値にサポートラインを引く

２．茶色ライン、赤色ライン、どちらからのラインとサポートラインの一致で買い

拍子抜けするほど簡単なルールだ。

まず左側のチャートでリアクションがあった点をサポートと定める。そしてそこまで戻るのを待つ。新規でエントリーするのは茶色ライン、あるいは赤色ラインと一致していなければならない。

注文方法は成行注文を勧奨する。忙しい人は指値注文でも構わない。ただしエントリーするのはサポートラインではなく、茶色ラインや赤色ラインになるので注意してほしい。

売りエントリーの場合

１．チャートの左側、ブレイクした安値にレジスタンスラインを引く

２．茶色ライン、赤色ライン、どちらかのラインとレジスタンスラインの一致で売り

売りも買いと同じルールだ。リアクションのあった点にレジスタンスラインを引き、茶色ラインあるいは赤色ラインまでの一致を待ち、売りエントリーする。

サポートライン、レジスタンスラインと茶色ライン、赤色ライン一致の条件

ボラによってチャートの見え方は違うので、ライン間の一致条件を「〇pips 以内」など、pips で定めているわけではない。ここに主観が入るので、トレード成績の違いを作り出す原因になるかと思う。

有耶無耶な表現になるのであまりいいたくないのだが、どうしても「経験」が必要になってしまう。実際自分がトレードする時の最終的な判断は「勘」に頼っている現状があるので、そう言わざるを得ない部分がある。

とはいえ大まかなガイドラインがないと混乱してしまうだろうから、本書を書くにあたり、過去のトレードを見返してみた。

たとえば一日に 30pips のボラなど、極端に動きが少ない相場でなければ、ライン一致の基準を「5pips」と定めてしまって問題ない。まずは「5pips」の距離感で試してほしい。

直前ブレイクのエントリーパターン

サポートライン、レジスタンスライン、茶色ライン、赤色ラインの一致は、先に紹介したような時間が過ぎたものだけではない。

直前のブレイクにおいても、このエントリールールを当てはめられる。

まずはこのチャート、エントリーに該当する。

注目してほしいのは、茶色ラインで跳ね返された後に、ブレイクすることでサポートラインが誕生することだ。そしてそのサポートラインに戻ってきたところを買う。

売りについても見てみよう。直前に赤色ラインで跳ね返されている。そのあとブレイクしたことで、レジスタンスラインが誕生している。

ブレイクに至るまでの流れが美しく、迷いなく売れる実例だろう。

エントリーを見送る条件（1 時間足）

記事を書くにあたり、TOMOZO さんにテンプレートをいただき「エントリーを見送る条件」を言語化してみたのだが、これがなかなか苦労した。

以下 2 つの条件がある。

1．すぐ近くにある次の直近高値・直近安値をブレイクしていない

2．サポートライン、レジスタンスライン到達が 4 回目である

１．すぐ近くにある次の直近高値・直近安値をブレイクしていない

赤色ラインで反落し、直後にブレイクしたことにより一致の条件で買えるように見える。

しかし、注目してほしいのはサポートラインの上にある高値の存在だ。

この高値をブレイクしていない限り様子見の対象となる。

２．サポートライン、レジスタンスライン到達が４回目である

まず念頭に置いてほしいのは、乱雑なチャートでは取引してはならないことだ。

もみあう相場で、サポートラインやレジスタンスラインになりえる、高値・安値を行ったり来たりするような光景では優位性を見いだせない。

言語化すると「4 回目の到達は見送り」だ。

上記のチャートをみてほしい。レジスタンスラインに 2 回目、3 回目で到達したときは、茶色のライン、赤色のラインが離れている。しかし 4 回目の到達では一致していることがわかるだろう。

「一致したので売り」という戦略をとりたいところだが、4 回目ではすでに遅いのだ。レジスタンスラインの期限切れといえるだろう。4 回目の一致は高い確率で損切りされやすい型になる。

利益確定ルール

続いては決済についてだが、前書きで説明した、

・「損切りは最小限に」

・「利益は最大限に」

この考えが土台になっている。

大事なことは買いと売りとの利益確定は別個に考えることだ。具体的には、

「買いは欲張らずに早めに利益確定、売りは欲張って利益を伸ばす」となる。

買いの利益確定

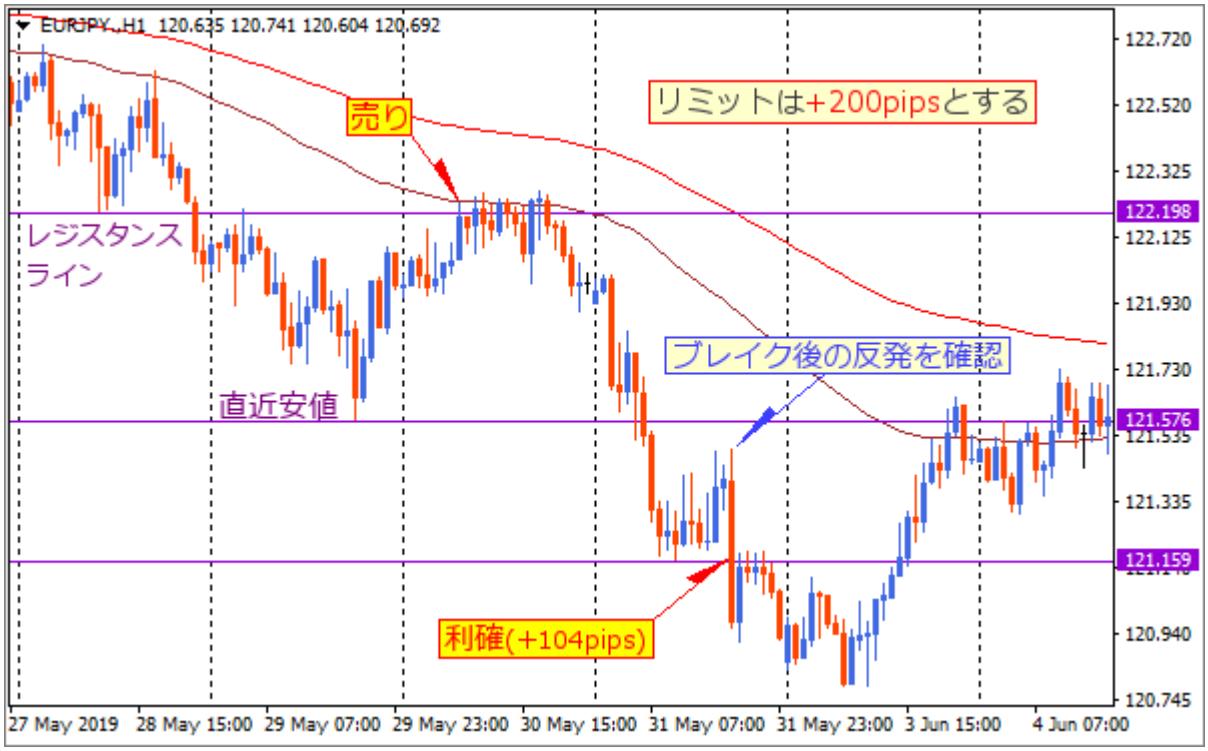
１．直近高値付近で利益確定

買いは利益を伸ばすことはせずに、エントリーした位置から最も近い直近の高値付近で利益確定する。

売りの利益確定

１．直近安値ブレイクを狙う。ブレイク後に反発したら、反発した安値付近で利確

売りエントリーは必ず直近安値ブレイクを狙う。直近安値ブレイク後に反発した場合のみ、再度底値を試したタイミングで利益確定する。



２．リミットは「200pips」とする。

売りエントリーはできるだけ利益を伸ばす。正直「200pips」のリミット到達はめったに起こらない。ただし「200pips」のリミットを目指すくらい強気で持ち続ける方が通算成績ではプラスとなる。

損切りの値は「10pips」としている。（後述）前書きで述べた式に当てはめると、「200pips」は損切り 20 回分の利益と同じだ。

つまりこの手法の取引回数を見れば、「200pips」の利益は「1 年分の損切りを確保した」といえる。普段「20pips」程で利確している人にとっては、ハードルが高い利益設定だと思うかもしれない。

しかし一度でも「200pips」のリミットに到達した時の気分を味合えばきっと癖になるはずだ。どんな手法を使っていたとしても、FX で勝つには必要不可欠な考え方となる。

損切りルールとストップポイントの変更

買いのルール

1．エントリー後「-10pips」にストップを設定

2．「20pips～25pips」の含み益でストップを建値に変更

1．エントリー後「-10pips」にストップを設定

「損切りは最小限に」という投資理念のもと「-10pips」で迅速に損切りをしている。

10 回連続で負けても、たかが 100pips だ。いくらでも挽回できる分、1 回の損切りに対して感情を乱されることはない。精神衛生上「10pips」の損切りはオススメしたい。

２．「20pips～25pips」の含み益でストップを建値に変更

下記のチャートはよく覚えている。最初は前日高値を目標にしていた。しかし小幅な反落があり、再度高値を試す動きになったところで利益確定を考えることになる。

しかし判断が遅れてしまったことで、次の陰線がでてしまった。結局臨機応変な対応ができずに建値決済で終えてしまう悔しいトレードになった。

下記のチャートは「20pips～25pips」程の上昇でストップを建値に移動している。

売りのルール

１．エントリー後「-10pips」にストップを設定

売りも買いと同じで「-10pips」で損切りを行う。

２．直近安値に到達でストップを建値に変更

売りは直近安値ブレイクを狙うが直近安値に到達したタイミングでストップを建値に変更。

まとめ

今回は 2019 年、ユーロ円の取引履歴を引っ張り出して解説させていただいた。

この手法を読み、多くの人が「簡単だな。自分にもできそうだな。」と感じたと思う。

2 本の移動平均線と 1 本の水平線で取引しているわけだから、そう考えるのは当然のことだろう。

１つアドバイスをさせてもらうと、簡単なルールだからといってあまり多くの通貨ペアでは取引しないほうがよいことだ。なぜならば通貨ペアが増えれば増えるほど、注意力は散漫になり集中力も低下する。

目と手が慣れている人であれば問題ないだろう。しかし FX をはじめて間もない、儲かった経験がない人は絶対にやめた方がよいと進言させていただく。

まずは１つの通貨ペアで実績をだすこと。ここに力を注がなければならない。

この手法を見ればわかる通り FX で勝つためには何も特別なことをする必要はない。

多くの人が負ける行為の「逆」を意識すればよいだけだ。youtube を見れば、FX で退場してしまうような大きな損失を受けた動画がたくさん UP されているので、確認してほしい。

皆共通のパターンがあるはずだ。共通パターンとは「損大利小」つまり損失が大きく、利益が少ないトレードだ。一方でこの逆、私たちが目指すスタイルは「損小利大」損失を小さく、利益を大きくするトレードになる。

私は長年、相場からの利益で生活をしている。何年間も決してブレルことなく「損小利大」を貫き通してきた。時には負け込むこともあり、緊張状態が続くこともあった。

しかし 3 ヵ月、半年、1 年という比較的長いスパンで見ると、必ず収支はプラスになっているのだ。その実績が自信となり、ロット数が増えてもクイック注文のエントリーボタンを躊躇なく押せるようになっていった。

人間は慣れないことに抵抗があり難しい。だからこそ積み重ねが大事だと思う。まずは 100pips の利益確定を経験してみる、そして次は 200pips の利益確定にチャレンジしてみる。そうやって行動を変えていけば時間の経過と共に収支がプラスになっていくはずだ。

今回少しでも相場の経験を伝えられたらと思って協力をさせていただいた。拙い文章で大変読みにくかったと思う。何か 1 つでも伝わってくれれば嬉しい。

FX 手法の画期的な検証方法

手法の検証は以下 2 つの段階からなる。

1．過去チャート検証

2．少額でのリアルトレード

2 の「少額でのリアルトレード」について「デモトレード」では問題あるのか？という意見がでてくるだろう。結論からいってデモトレードではダメだ。

何故ならばデモトレードでは自身の大切な「お金」を投資しているという実感がまるでない。デモトレードは別名「バーチャルトレード」という言い方もする。そう。デモトレードはバーチャルの世界なのだ。

バーチャルの環境では相場における独特の緊張感は失われ、一貫性のある取引ができなくなり、正確なデータが取れない。

またデモ口座とリアル口座では、チャートのサーバーが違うという点もデモトレードをオススメしない理由の一つだ。

デモ環境とリアル環境がまったく同じという業者もある。しかし業者によっては、サーバーが異なることもあり、約定力やレートの誤差など微妙な変化が起こりえる。

最終的に投資を行う場は「リアル口座」だ。したがって本番環境で検証を積み重ねることが重要となる。

初心者だから「リアルトレード」は不安すぎるという方もいるだろう。安心してほしい。ほとんどの FX 業者では小ロット用の口座が用意されている。

たとえば私が推奨している海外 FX 業者の「XM」ではマイクロ口座と呼ばれる、初心者用の口座があり、この口座では最小 0.01 ロット（1 ロット 1000 通貨）から取引が可能だ。

0.01 ロットは 10 通貨なので 10pips 動いて 1 円。100pips 動いてたったの 10 円だ。

仮に月 300pips 負けてしまったとしても、たった 30 円の損失。誰にとっても月 30 円は、痛くも痒くもない金額だろう。

しかも「10 円でも失いたくない」という感情が働くのか、小ロットのトレードであっても、デモトレードとは異なる緊張が生まれ、トレードに対して真剣に取り組むようになる。

緊張感を保ち、資金を失うことなく手法の正確な検証を行えるのが、デモトレードにはない「少額でのリアルトレード」のメリットだ。

したがって過去検証を終えた後には、必ず「少額でのリアルトレード」を行おう。

それでは本題に入る。

「過去チャート検証」と「少額でのリアルトレード」、この２つを建物に置き換えるとわかりやすいので、建物に例えてみた。

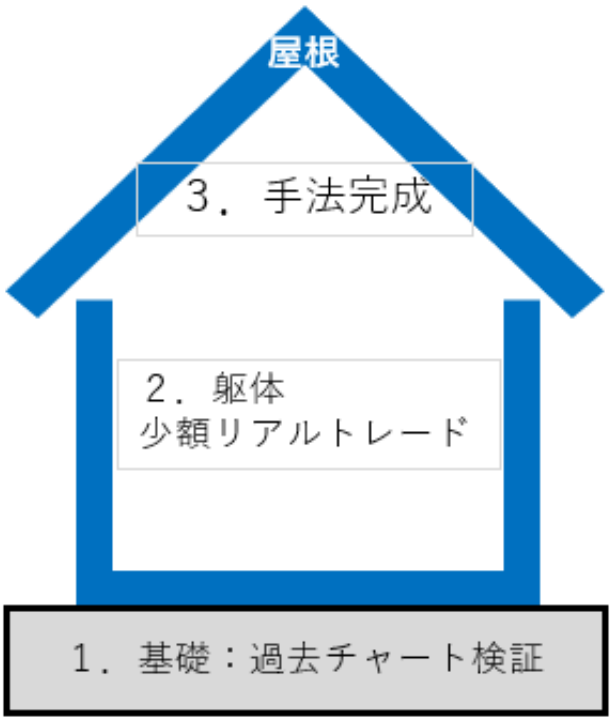
１．「過去チャート検証」が家の基礎部分、

２．「少額でのリアルトレード」が家の躯体部分

３．「手法完成」を屋根とする。

手法が完成した！と思ったら屋根を取り付けて実践に臨むというイメージになる。

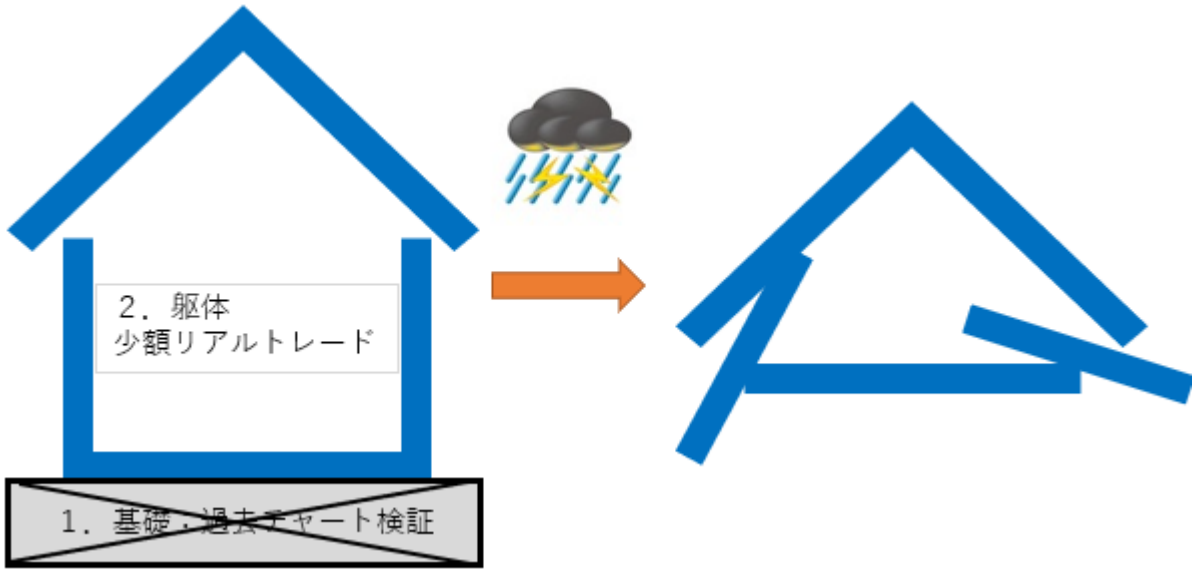
強固で安定感のある家（手法）ができるかは大工（トレーダー）の腕次第だ。



過去チャートの検証をしないとどうなるか？（基礎の省略）

過去チャート検証を省略して、いきなり少額でのリアルトレードをはじめてしまうのは基礎がないところに家を建てているようなものだ。

基礎がない躯体に屋根を掛けて家を完成させたとしても、台風や地震など普段と違う環境におかれた際にはあっという間に倒壊してしまうだろう。



基礎がなければ倒壊してしまうのは相場でも同じことだ。

仮に明確なルールを定めて「少額のリアルトレード」で勝てたとしても、たまたまで時期がよかっただけかもしれない。

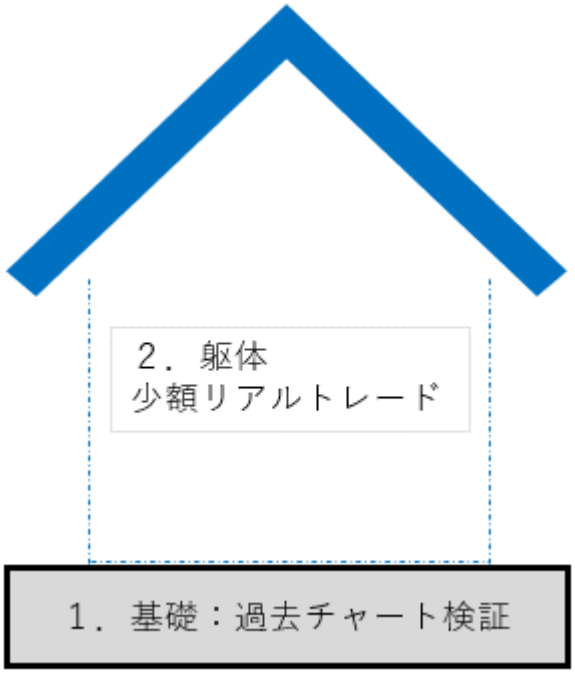
「偶然」を勘違いして「勝てる手法が完成した！」と・・意気揚々とリアルトレードに臨んでも検証の母数が少ないので、経験をしたことのない相場展開では手法が通用しなくなり、やがてまったく勝てなくなってしまうのだ。

「土台がないところに、家は立たない」という言葉があるように、

過去チャートを検証して「手法の基礎」を作らない限り、長期的に使える「勝てる手法」が完成することはない。

少額でのリアルトレードをしないとどうなるか？（躯体の省略）

建物は躯体なくして完成することはない。躯体がない状態では屋根がかからないのだ。基礎がなくても家は建つ。しかし躯体がないと家は建たない。



FX の検証も同じだ。

実は最も重要なのが、躯体部分にあたる「少額でのリアルトレード」になる。

FX で勝てない多くの人は同じ特性をもっている。

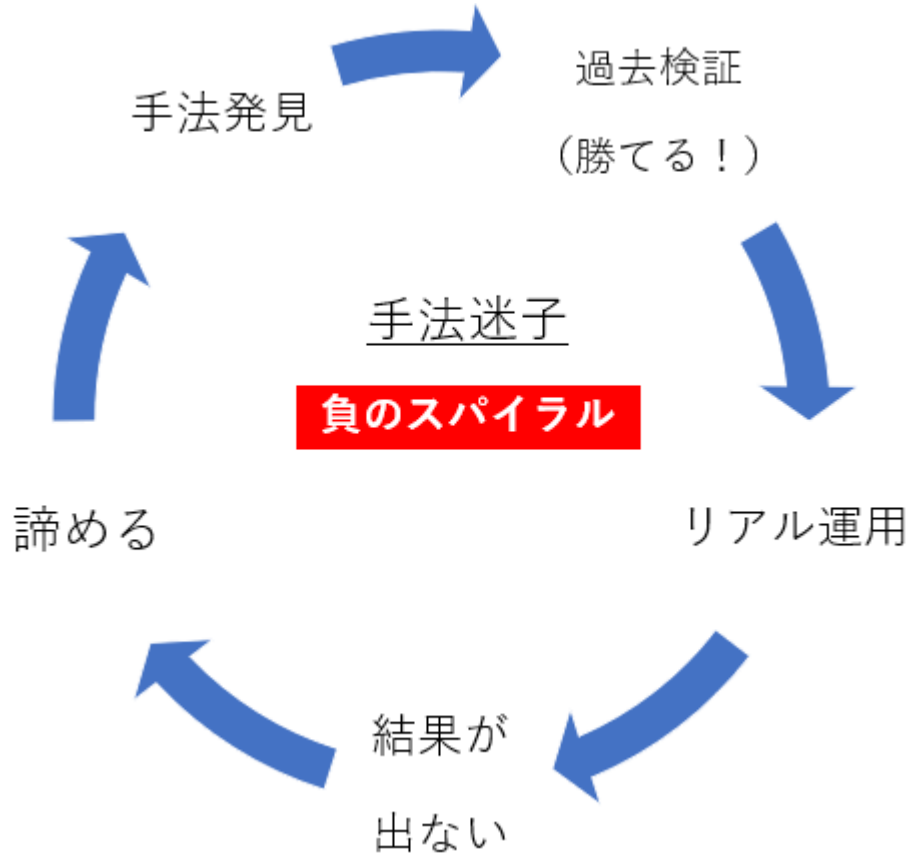
その特性とは基礎部分にあたる「過去チャートの検証」にはかなりの時間を費やす一方、少額でのリアルトレードを省略して本格的な運用をはじめてしまうことだ。

数年間の過去チャート検証では高いパフォーマンスを発揮していたので、間違いないと判断してリアル口座で本格的に運用したところ、数か月でドローダウンを更新してしまった。

なんてことは FX 投資家の「あるある」ではないだろうか。

手法の検証において本当に時間をかけるべきフェーズは、日々の「動いているチャート」でトレードを行う「少額でのリアルトレード」なのだ。少額でのリアルトレードを省略してしまうと、いつも同じ間違いを繰り返しことになる。そうなると負のスパイラルに突入だ。

この状態を「手法迷子」とも呼ぶ。



きちんと「最後」まで検証していない人が手法迷子になってしまうわけだ。

「時間をムダにしたくない。すぐに FX で儲けてやろう」と思うから失敗する。相場はそんなに簡単にはいかない。長い時間をかけて取り組むものだ。

現在検証をしている手法の完成までには「半年～1 年」かかると思いながら日々、黙々と検証を続けることが重要となる。

よく考えてみればわかることだ。少額のトレードで勝てない人が、大きな LOT 数を張った取引で勝てるはずがない。しかし皆「自分だったらできる」と根拠のない自信で、鍵となる工程を飛ばしてリアルトレードをはじめてしまうわけだ。

重要なことなので繰り返す。時間をかけるのは「少額でのリアルトレード」だ。実際に動いているチャートでしかわからないことがたくさんある。

このフェーズで新たな発見が生まれ、そして「自信」を得られるのだ。

本書では「１．過去チャート検証」から「２．少額でのリアルトレード」までの流れを具体的な手法で詳細に解説している。

私はこの検証を繰り返したことにより FX で勝てるようになり、専業トレーダーになり、そして、億トレーダーになれた。

したがって同じことをやれば、必ずあなたも「勝てるトレーダー」になれるはず。

この検証方法が少しでも参考になれば幸いだ。

過去チャート検証

０．手法を用意する

「書籍」「web」「youtube」なんでもよいのでさまざまな媒体を参考にして、お気に入りの手法を見つける。もちろん自分の経験から独自の手法を考えてもよい。

以外なことに突拍子のないアイデアからパフォーマンスの高い手法が完成したりするものだ。どんなアイデアでもよいので、日々のチャート観察で「手法のアンテナ」を張っておくことが大切だ。

今回は、本書で紹介している№１の順張りピンバー手法（15 分足）を使って具体的な検証の流れを解説する。

この手法は数年前から使用しているものでありすでに完成しているが、今回はあえて手法を作った当時にさかのぼって最初から検証を行ってみた。

検証方法をご覧になる前に、№１の順張りピンバー手法（15 分足）の取引ルールについて、一度目を通していただければ理解が早いかと思う。

１．取引履歴をエクセルに入力する

ここでは、エントリーレートや決済レートなど詳細なデータを入力する必要はない。

優位性があるか、ないかを簡易的に確認したいため、とにかくスピード重視で検証に必要となる最低限の項目だけを入力しよう。

チャートを確認しながら取引履歴を入力していくと、決めたルールのなかでもエントリーすべきか、見送るべきかを迷う形がでてくると思う。そういった時は、ひとまずすべての取引を入力してメモ欄に、迷った理由を記載しておく。

結果の良し悪しを気にせずにデータを集めることに意義がある。連敗が続くと本来エントリーすべき形を見逃してしまいがちだ。この点には十分留意する必要がある。

様式はエクセルでも google スプレッドシートでもなんでもよい。

以下の表は私が「過去検証」で使用しているオリジナルのエクセル表だ。「過去検証ノート」と名前をつけている。

（FX Works 会員申し込みでプレゼント、詳細は 221 ページに記載）

過去検証ノートの紹介動画：https://youtu.be/WPrLfbdL1aM

手法名	順張りピンバー手法（15分足）													
No.	日付	曜日	MT4時刻	日本時刻	売買	通貨ペア	時間足	LOT	pips	損益	種別	評価	メモ	経済指標
1	1月4日	金	4:45	11:45	買い	EURJPY	M15	1	20.0	20,000				22:30 (米)雇用統計
2	1月8日	火	3:30	10:30	売り	EURJPY	M15	1	20.0	20,000				
3	1月9日	水	6:30	13:30	買い	EURJPY	M15	1	-10.0	-10,000				
4	1月11日	金	5:15	12:15	買い	EURJPY	M15	1	20.0	20,000				
5	1月17日	木	6:45	13:45	売り	EURJPY	M15	1	20.0	20,000				
6	1月17日	木	12:15	19:15	売り	EURJPY	M15	1	-10.0	-10,000				
7	1月18日	金	9:30	16:30	買い	EURJPY	M15	1	-10.0	-10,000				
8	1月25日	金	7:45	14:45	買い	EURJPY	M15	1	-10.0	-10,000				
9	1月25日	金	12:45	19:45	買い	EURJPY	M15	1	50.0	50,000				
10	1月25日	金	14:15	21:15	買い	EURJPY	M15	1	50.0	50,000				
11	2月1日	金	16:30	23:30	買い	EURJPY	M15	1	50.0	50,000				22:30 (米)雇用統計
12	2月4日	月	14:00	21:00	買い	EURJPY	M15	1	-10.0	-10,000				
13	2月6日	水	7:15	14:15	売り	EURJPY	M15	1	17.0	17,000				
14	2月7日	木	15:00	22:00	売り	EURJPY	M15	1	-10.0	-10,000				
15	2月14日	木	7:15	14:15	買い	EURJPY	M15	1	20.0	20,000				
16	2月18日	月	2:15	9:15	買い	EURJPY	M15	1	20.0	20,000				
17	2月18日	月	3:30	10:30	買い	EURJPY	M15	1	0.0	0				
18	2月19日	火	3:15	10:15	売り	EURJPY	M15	1	0.0	0				
19	2月20日	水	2:45	9:45	買い	EURJPY	M15	1	20.0	20,000				
20	2月21日	木	2:45	9:45	売り	EURJPY	M15	1	20.0	20,000				

主な機能を紹介すると「曜日」「日本時刻」「経済指標」「各種データ」が自動で入力される。MT4 の時刻は日本の時刻と誤差があり、夏時間と冬時間でも異なる。この誤差を自動で日本時刻に変換されるようにしている。

また過去検証では「経済指標」の有無も重要だ。実際のリアルトレードではエントリーしない経済指標で勝ちを重ねても意味がない。この表では日付を入力すると、2015 年～主要な経済指標が自動で挿入される。

また「勝率」「利益額」「獲得 pips」「損益レシオ」「PF」などの各種データも自動で計算されるので、検証した手法の成績を効率よく確認できる。

2．取引データの確認

ある程度のデータが集まったら、手法の優位性について確認する。

この時点では「PF：2.0 以上」あれば合格となる。

PF の計算方法は 「利益」÷「損失」で求められ、この数値が手法の良し悪しを決めることになる。PF がよいに越したことはない。ただしここがゴールではない。あまり神経質にならず先に進もう。

たとえば最初の段階で「PF：2.0」だったとしても、検証の段階でさまざまなルールを追加していくことにより、倍の「PF：4.0」の手法が完成することもある。

以下のとおり本手法は「PF：2.43」なので次の段階に進む。

種別	全取引
取引回数	129
勝ち回数	62
負け回数	42
引き分け回数	25
勝率（勝ち回数÷取引回数）	48%
勝率（引き分け回数を除く）	60%
獲得pips	602.0
利益額	1,022,000
損失額	420,000
損益額	602,000
勝ち平均額	16,484
負け平均額	10,000
損益レシオ	1.65
PF	**2.43**

※「過去検証ノート」では、上記の集計表も自動で出力される。

3．チャートを保存する

チャートの保存は「PF：2.0 以上」の手法を発見した後に行う。手法の優位性を確認せずにチャートを保存するのは時間のムダなのでやめよう。

このタイミングで過去チャートをもう一度みなおすことになるので、見落としがあった場合は、取引履歴に入力していく。

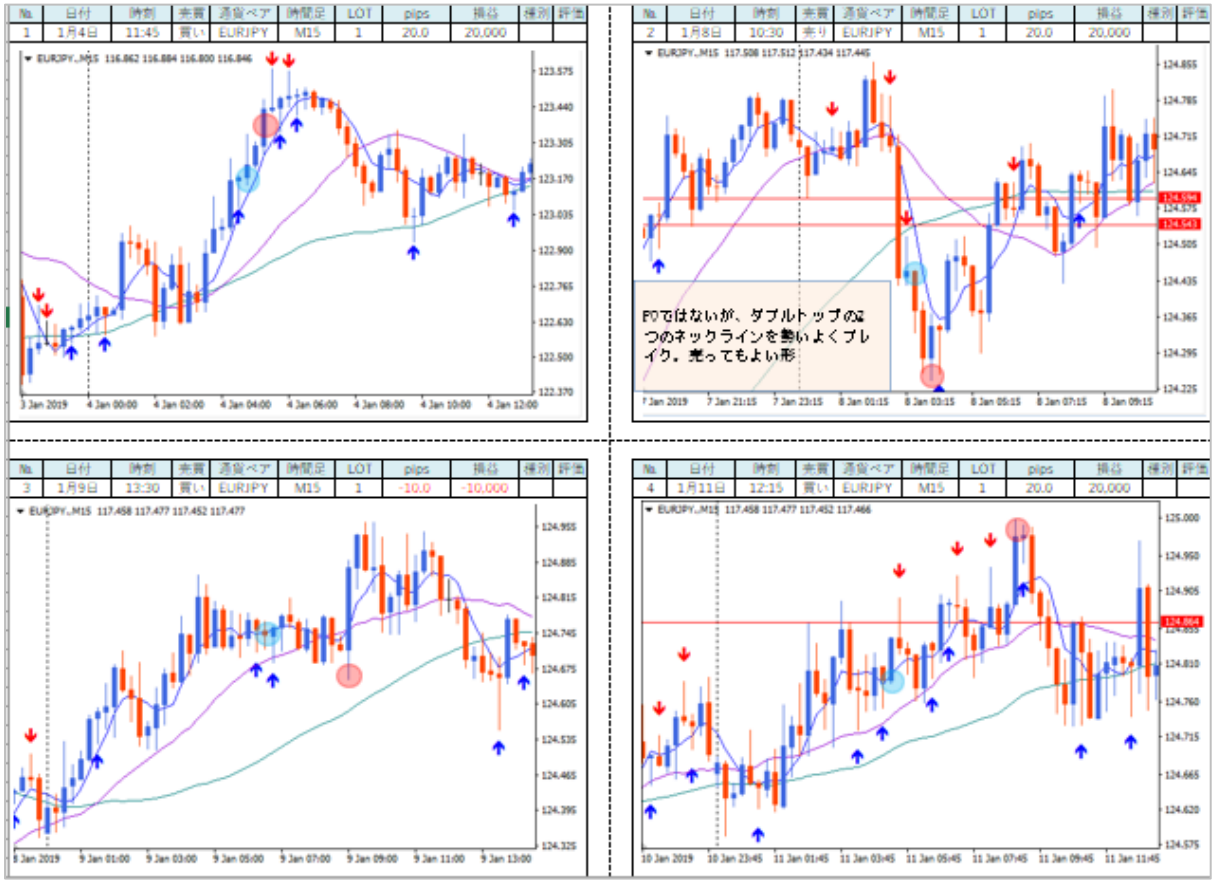
チャートはエクセルシートの、

・１つの時間足(チャート１枚）だけで完結できる場合は「4 分割チャート」

・マルチタイムフレーム（チャート２枚）分析は「2 分割チャート」

にそれぞれ保存にしていく。

今回の手法はチャート１枚でエントリー・決済の判断ができるので 4 分割チャートを使用

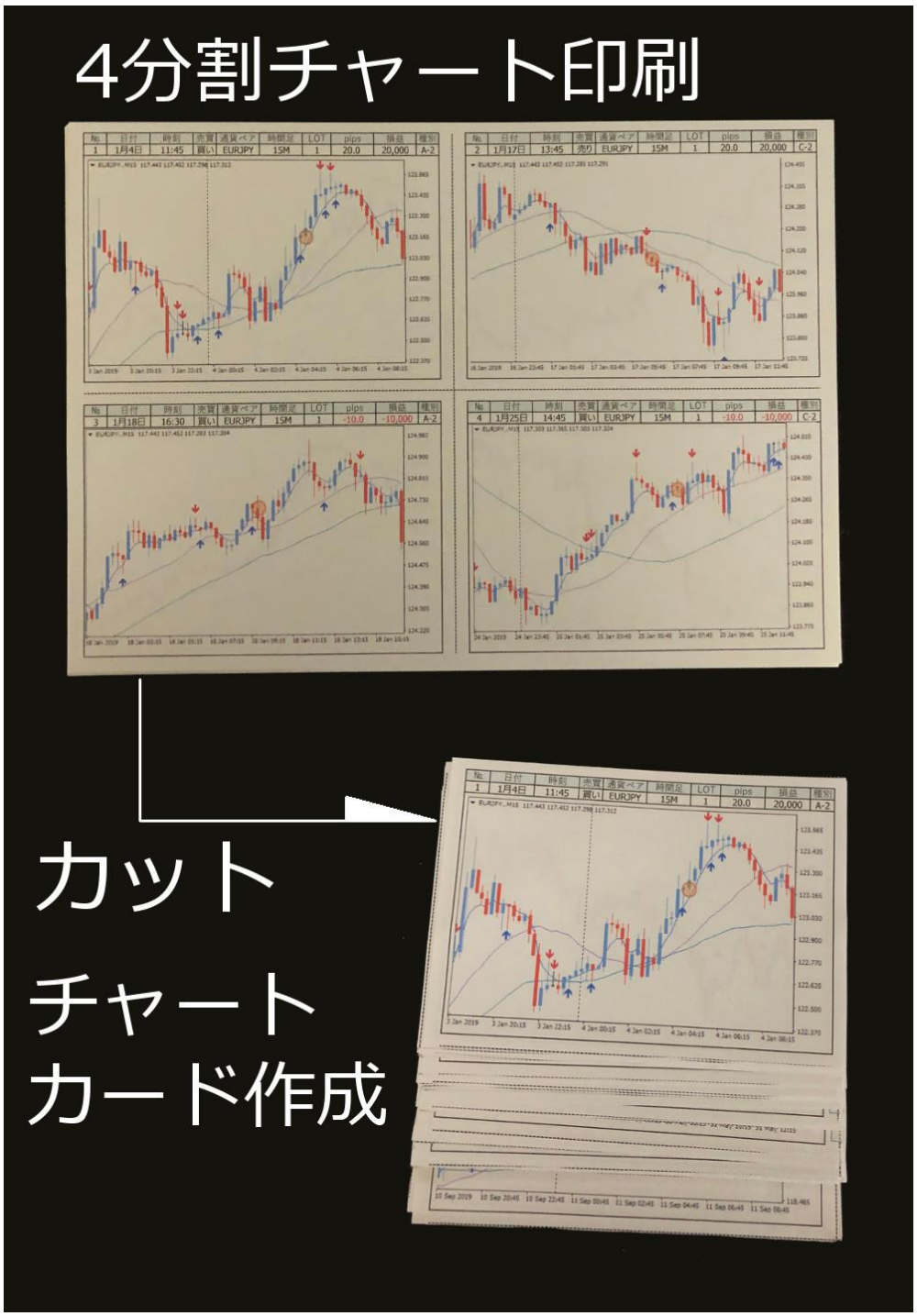


エントリーポイント・決済ポイントをエクセルのオブジェクト機能を使って明示し、コメントがあれば残しておく。

４．「4 分割チャート」を印刷してカット

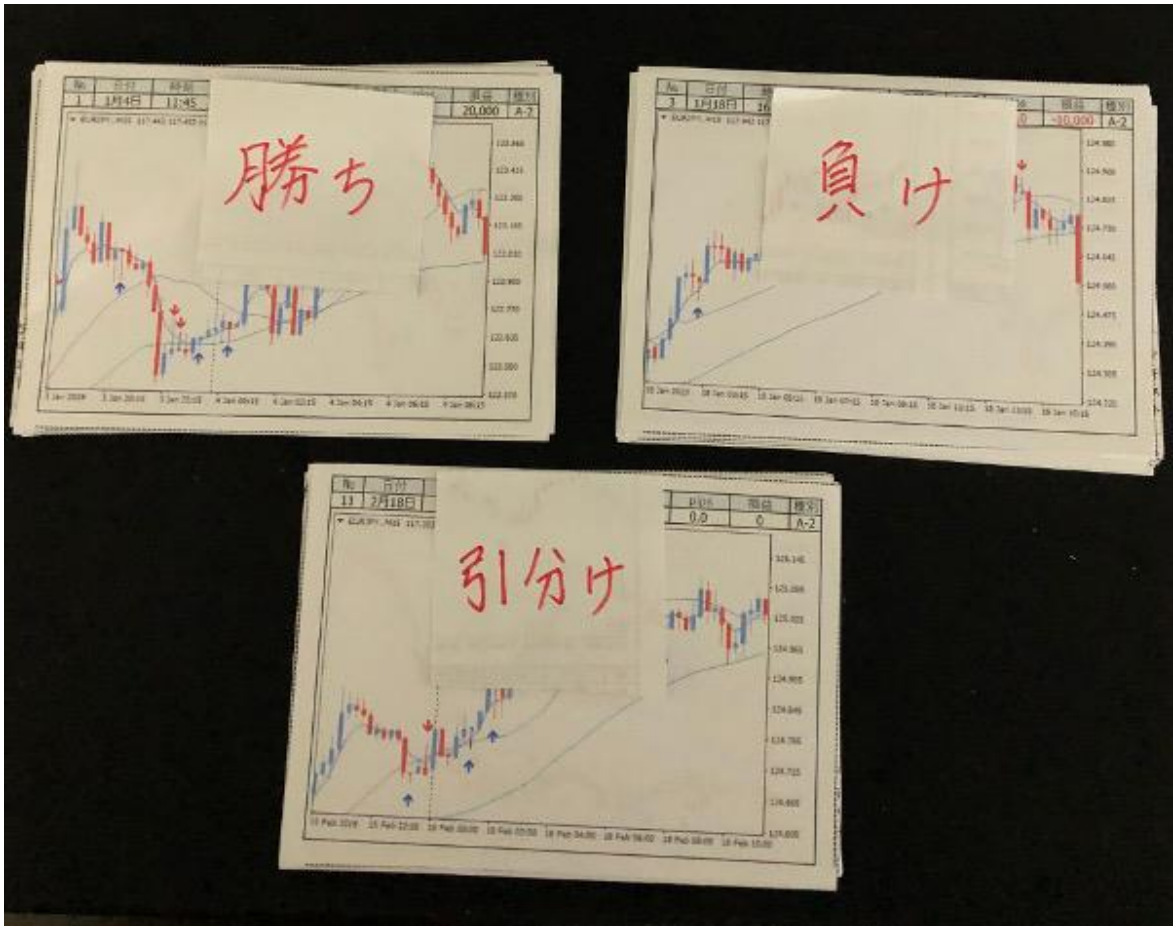
A4 用紙に 4 分割チャートを印刷。カットして「チャートカード」を作る。

チャートカードを作成するメリットは、効率的にチャートパターンの観察ができることだ。さまざまなパターンを確認しながら新たにルールを構築するのは、パソコンの画面上では非常に効率が悪い。このような作業はアナログ式が一番なのだ。



５．勝ち、負け、引き分けに分類する

チャートを「勝ち」「負け」「引き分け」に仕分けする。



最初に決めたエントリールールのなかでも、さまざまなパターンがある。迷わずエントリーできた場面もあれば、エントリーに迷った微妙な場面もあるだろう。その迷う原因が何なのか１枚１枚のチャートを見比べながら究明していく。

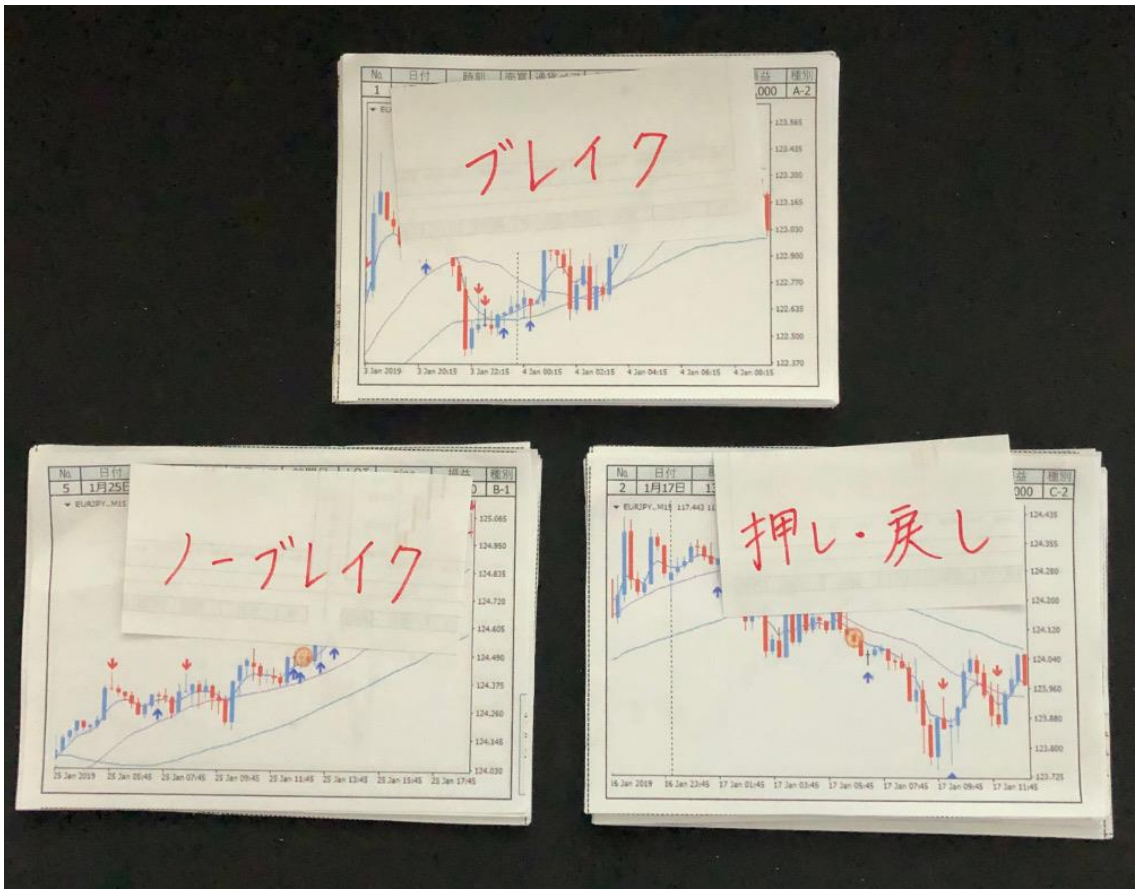
この原因を究明することが、次に説明する「仮説を立てる」につながっていく。

またこの段階で、必ずエントリーしなくてはならない「鉄板パターン」の傾向をつかめるはずだ。

チャートを何枚も並べて「あーでもない。こーでもない。」と時間をかけてやってほしい。必ず勝ちにつながる発見があるはずだ。（カードの仕分けには指サックが便利）

6．チャートパターンで仕分けする

次にエントリーチャートのパターンを仕分けする。必ずいくつかのチャートパターンに分けられるはずだ。



最初に「勝ち」「負け」「引き分け」に仕分けしたチャートをじっくりと確認すれば、なんらかのタイプの違いを発見できるはずだ。

今回の手法では「ブレイク」「ノーブレイク」「押し・戻し」の３つに仕分けした。

１．ブレイク：直近安値・高値をブレイク後にピンバーが出現

２．ノーブレイク：直近安値・直近高値付近でピンバーが出現

３．押し・戻し：押し目・戻し目がある程度入ってからのピンバーが出現

この段階で複雑に分類する必要はない。

今回の手法以外での１つ例を示すと、クロスでエントリーするルールであれば、一方の移動平均線の角度が「下向き」「水平」「上向き」として分類してもよいだろう。

7．仕分けしたチャートごとの成績を確認する

３つのタイプに分類して「偏り」のあるデータがあれば「成功」といえる。

たとえば「ブレイク」の PF が 5.0 になり「ノーブレイク」の PF が 1.0 になれば「ノーブレイク」は見送って「ブレイク」だけエントリーすればよいというルールが完成する。

実際のデータが以下になる。

「ブレイク」「ノーブレイク」「押し・戻し」の項目に注目してほしい。

種別	全取引	ブレイク	ノーブレイク	押し・戻し
取引回数	129	66	17	46
勝ち回数	62	29	10	23
負け回数	42	20	4	18
引き分け回数	25	17	3	5
勝率（勝ち回数÷取引回数）	48%	44%	59%	50%
勝率（引き分け回数を除く）	60%	59%	71%	56%
獲得pips	602.0	276.0	119.0	207.0
利益額	1,022,000	476,000	159,000	387,000
損失額	420,000	200,000	40,000	180,000
損益額	602,000	276,000	119,000	207,000
勝ち平均額	16,484	16,414	15,900	16,826
負け平均額	10,000	10,000	10,000	10,000
損益レシオ	1.65	1.64	1.59	1.68
PF	**2.43**	**2.38**	**3.98**	**2.15**

PF は「ノーブレイク」が「3.98」で最も高いという意外な結果になった。

ただしノーブレイクの取引回数は「17 回」と少なく信用に値する母数ではない。

ひとまずここでは、３つのタイプで成績に大きな差は見られないと結論付けて、３つの種別のまま、次の段階に移ることにした。

8．さまざまな「仮説を立てて」検証を行う

次のフェーズとしてさまざまな仮説を立ててチャートと照らし合わせていく。

たとえば、

・エントリー時のローソク足の細かい形

・当日の高値、安値をブレイクしている場合の値動き

・移動平均線の角度による成績の変化

・エントリー前の「10 本」のローソク足に注目する

など思いつくままにアイデア出しを行う。すでにチャートカードを何度も見ているので、なんらかのアイデアが湧いてくると思う。

私はこの手法を作った当時、下記のような仮説を立てた。

“移動平均線 3 本の「パーフェクトオーダー完成」からある程度時間が経過している相場は、トレンドが確定しているともいえるので、更に値動きがトレンド方向に加速するのではないか？”

この仮説から下記のようにルールを作った。

・パーフェクトオーダーから「5 時間以上」が経過している相場でのエントリーはリミットを+50pips に設定。（当初はすべて 20pips）

・パーフェクトオーダーから「5 時間未満」の場合は、当初のルール通りリミットを+20pips に設定。

・「50pips」直前で相場が逆行し「建値決済」で終わるのは精神的にキツイので、トレンドの勢いが止まり押し目・戻し目を作ったうえで 2 回天井・底を試した場合、ネックラインにストップを移動する

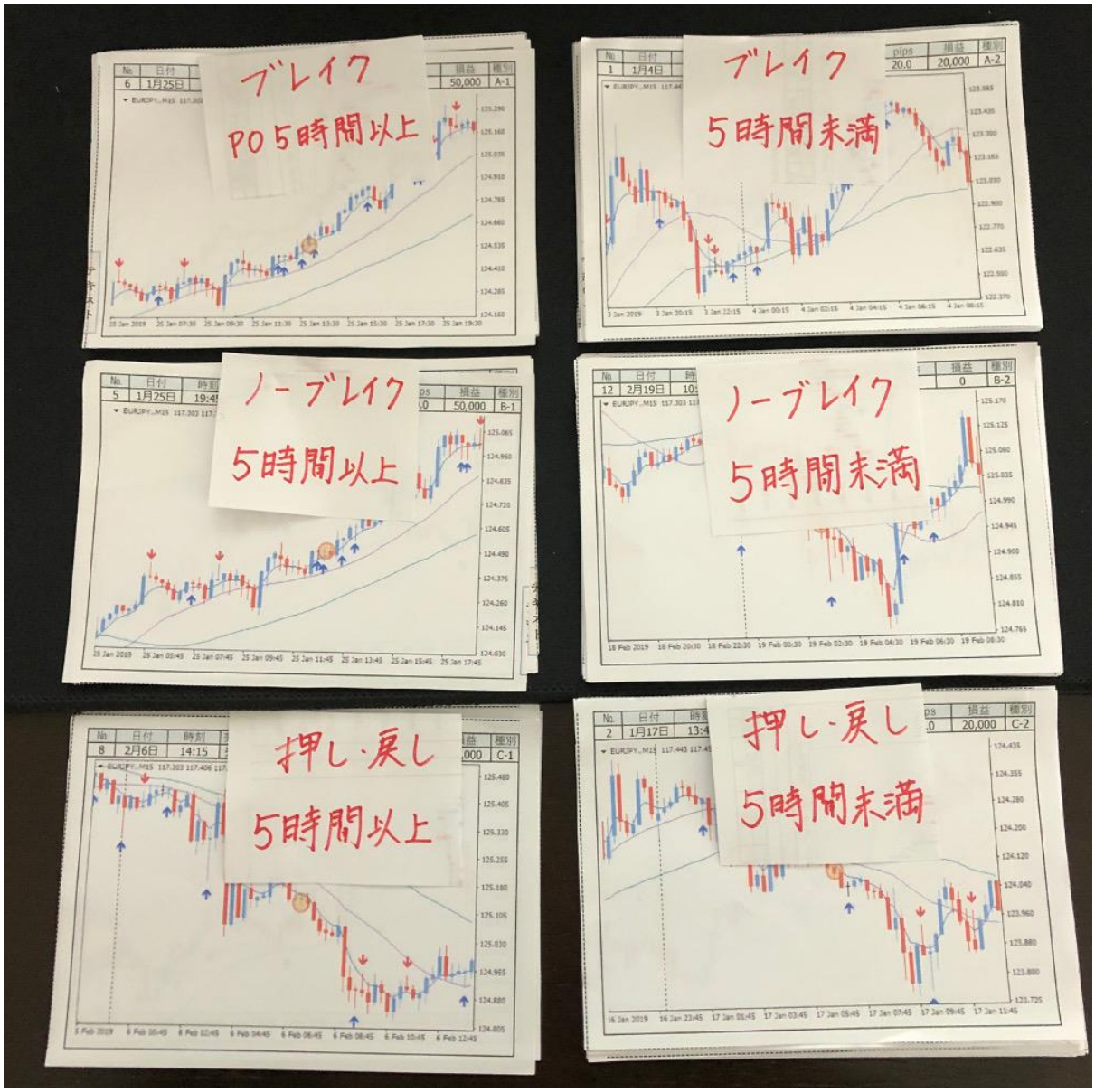
・「15pips」の含み益でストップを建値に変更（当初のルール通り）

・損切りは「-10pips」に設定（当初のルール通り）

9．仮説のとおりにチャートを仕分けする

「ブレイク」「ノーブレイク」「押し・戻し」３つのタイプでパーフェクトオーダーから

「5 時間以上」経過しているチャートと「5 時間未満」のチャートを仕分けする。



１０．仕分け後の成績を確認する

結果は下記のとおりだ。

種別	全取引	ブレイク		ノーブレイク		押し・戻し	
		5時間以上	5時間未満	5時間以上	5時間未満	5時間以上	5時間未満
取引回数	129	12	54	1	16	4	42
勝ち回数	62	7	22	1	9	3	20
負け回数	42	4	16	0	4	1	17
引き分け回数	25	1	16	0	3	0	5
勝率（勝ち回数÷取引回	48%	58%	41%	100%	56%	75%	48%
勝率（引き分け回数を除	60%	64%	58%	100%	69%	75%	54%
獲得pips	715.0	142.0	223.0	17.0	99.0	60.0	174.0
利益額	1,135,000	182,000	383,000	17,000	139,000	70,000	344,000
損失額	420,000	40,000	160,000	0	40,000	10,000	170,000
損益額	715,000	142,000	223,000	17,000	99,000	60,000	174,000
勝ち平均額	18,306	26,000	17,409	17,000	15,444	23,333	17,200
負け平均額	10,000	10,000	10,000	-	10,000	10,000	10,000
損益レシオ	1.83	2.60	1.74	-	1.54	2.33	1.72
PF	2.70	4.55	2.39	-	3.48	7.00	2.02

パーフェクトオーダーから 5 時間以上経過したポジションの PF は、パーフェクトオーダーから 5 時間未満よりもよいことがわかる。

また「全取引」の数値を見ると最初にまとめたデータよりも「損益」「レシオ」「PF」がすべて改善されている。

PO5時間以上リミット変更ルール追加

種別	全取引
取引回数	129
勝ち回数	62
負け回数	42
引き分け回数	25
勝率（勝ち回数÷取引回数）	48%
勝率（引き分け回数を除く）	60%
獲得pips	602.0
利益額	1,022,000
損失額	420,000
損益額	602,000
勝ち平均額	16,484
負け平均額	10,000
損益レシオ	1.65
PF	2.43

種別	全取引
取引回数	129
勝ち回数	62
負け回数	42
引き分け回数	25
勝率（勝ち回数÷取引回数）	48%
勝率（引き分け回数を除く）	60%
獲得pips	715.0
利益額	1,135,000
損失額	420,000
損益額	715,000
勝ち平均額	18,306
負け平均額	10,000
損益レシオ	1.83
PF	2.70

この結果パーフェクトオーダーから、5 時間が経過している場面では積極的に利益を伸ばしてもよいのではないか？という結論になるわけだ。

また勝率もパーフェクトオーダーから 5 時間経過している場合の方が明らかによいので、この時だけロット数を増やすという選択肢も検討できる。

このデータだけでリミットルールを確定するには至らないが、（少額でのリアルトレードを経てルールを確定）今回の仮説で得たデータは、更なる検証への有益な情報となるはずだ。

更にエントリーのフィルタールールも追加していく。

下記は「押し目・戻し」のチャートカードを観察しているうちに気が付いた特徴だ。

・エントリー後に「三尊」「逆三尊」を予測させる形では損切りが明らかに多い

このことから「三尊」「逆三尊」になりそうなエントリーポイントはすべて様子見とした。
結果は下記のとおりだ。

種別	押し・戻し	
	改善前	改善後
取引回数	46	33
勝ち回数	23	21
負け回数	18	10
引き分け回数	5	4
勝率（勝ち回数÷取引回数）	50%	64%
勝率（引き分け回数を除く）	56%	68%
獲得pips	207.0	291.0
利益額	387,000	391,000
損失額	180,000	100,000
損益額	207,000	291,000
勝ち平均額	16,826	18,619
負け平均額	10,000	10,000
損益レシオ	1.68	1.86
PF	2.15	3.91

※「改善後」には PO5 時間以上でリミット+50pips ルールも含まれている。

取引回数が「13 回」減っているうちの「10 回」が三尊・逆三尊型で損失になったトレードだった。

負けた回数が減少したことで勝率が 50%から 64%に改善され、PF についても「2.15」から「3.91」に大幅な数値の改善が見られる。

その他、移動平均線の傾きなど軽微な変更を加えた「全取引」のデータが下記になる。

当　初

種別	全取引
取引回数	129
勝ち回数	62
負け回数	42
引き分け回数	25
勝率（勝ち回数÷取引回数）	48%
勝率（引き分け回数を除く）	60%
獲得pips	602.0
利益額	1,022,000
損失額	420,000
損益額	602,000
勝ち平均額	16,484
負け平均額	10,000
損益レシオ	1.65
PF	**2.43**

PO5時間以上リミット変更

種別	全取引
取引回数	129
勝ち回数	62
負け回数	42
引き分け回数	25
勝率（勝ち回数÷取引回数）	48%
勝率（引き分け回数を除く）	60%
獲得pips	715.0
利益額	1,135,000
損失額	420,000
損益額	715,000
勝ち平均額	18,306
負け平均額	10,000
損益レシオ	1.83
PF	**2.70**

「三尊」「逆三尊」様子見

種別	全取引
取引回数	111
勝ち回数	57
負け回数	33
引き分け回数	21
勝率（勝ち回数÷取引回数）	51%
勝率（引き分け回数を除く）	63%
獲得pips	722.0
利益額	1,052,000
損失額	330,000
損益額	722,000
勝ち平均額	18,456
負け平均額	10,000
損益レシオ	1.85
PF	**3.19**

たった２つのルールを付け加えただけで勝率、損益額、損益レシオ、PF が改善され安定感のある手法に近づいていることがわかる。

このようにさまざまな仮説を立て、ルールを追加し、成績がどのように変化するか繰り返し検証を行う。

たとえば前述した仮説の他にも、

・ストップを広げるとどうなる？ストップを狭めればどうなる？

・マルチタイムフレーム分析の導入

・リミットを広げる、ストップ変更のタイミングを変える、分割決済をしたらどうか？

・取引時間帯によって成績はどう変わるか？

・曜日ごとに成績はどう変わるか？

・通貨ペアごとの成績はどう変わるか？

など試せることはいくらでもあるはずだ。

ここまでの「過去検証」が終わったら、できるだけ早く「少額でのトレード」を開始する。

実際の相場で本当に通用するか、投資対象となる手法なのかを見極める必要があるからだ。

私が少額でのトレード検証に移行する１つの条件としているのが「PF：3.0 以上」だ。

経験上、過去検証で「PF：3.0 以上」あれば、大きなドローダウンを経験しても年間成績で見るとマイナスになることはほとんどない。

したがって「PF3.0 以上」の手法を過去検証により作り上げた場合は、一日も早く少額トレードの検証に移行することをオススメする。

少額でのリアルトレード

過去チャート検証により、手法が完成したら次に「少額でのリアルトレード」に移る。

少額の取引では懐が痛むことは一切ない。

前述したとおり「100pips」負けても 10 円というトレードができるため、メンタルに影響を与えることがない。しかも実際に動いている相場でのトレードを経験できるわけだ。少額でのリアルトレード以上に価値のある検証方法は見つからない。

「少額リアルトレード」の目的

少額リアルトレードの最大の目的は「正確なデータ」を取っていくことだ。

過去検証で右側のチャートが見えている状態では都合のよい解釈をして、勝ちトレードが増え、負けトレードが減ってしまうのは人の性であり仕方がないことだ。

過去検証では注意していても「自己都合」がどうしても入ってしまう。矛盾が成績を押し上げてしまうことがよくあるのだ。

その「自己都合」を矯正していくのが、リアルタイムトレードの目的だ。

右側のチャートが見えていない状況でしか気付けない情報がある。たとえばチャートの細かいプライスアクションは過去検証ではわからない。

またリアルタイムでチャートを見ていて、1 分足や 5 分足の有効活用ができるという新たな発見があるかもしれない。

リアルタイムでのトレードは、エントリー前後に十分な時間があるため、さまざまな角度から検証を実施でき、より細かい分析を行えるのだ。

したがってリアルタイムトレードでは「一つひとつのトレードを詳細に分析して評価することが大切」になってくる。

この詳細な分析を優位性が確認されていない手法で行っても時間のムダである。

前述したように、基礎がないと家は建たない。建てたとしても、雨風にあたり、万が一地震がきたらすぐに倒壊してしまうことだろう。

しかしすでにこの段階で、過去検証を終えており、手法の基礎部分は完成している。あとは時間をかけて本体を作り、磨き上げるだけだ。

長期的な目線で検証していく

少額トレードを繰り返していると、過去検証と同じ成績にならないことが往々にしてある。時には数か月単位でマイナスになってしまうこともあるだろう。

その時は手法の特性を考えてみることが大切だ。たとえば損益レシオが高く、極端な「損小利大」な手法であれば、数か月後に爆発的な利益を手にする可能性がある。

一方勝率を重視した手法はより慎重になる必要があるだろう。

数か月連続で収支がマイナスになるようだったら、その手法が現在の相場に合わなくなってしまった可能性が高い。

いずれにしろ決して早急な判断はせずに検証を続けることが大切だ。データが集まるほど正しい判断ができるようになる。

注意したいのは「リーマンショック」「東日本大震災後」「コロナショック」など、変動が大きい相場の後だ。変動が大きい相場の後は、テクニカル分析が機能せず、数か月間は影響を与えることになる。

この間まったく勝てないからといって手法を諦めるのはもったいないことだ。

繰り返しになるが、常に長期的な目線で検証を行っていくことが重要となる。

リアルトレードを詳細に分析する具体的な方法

リアルトレードの検証では個別のトレードを以下のように記録しておくことが重要だ。

・なぜ、そこでエントリーをしようと思ったのか？

・なぜ、そこで決済をしようと思ったのか？

・自分が決済した後に、値動きはどうなったのか？

また手法のルールの他に「感情」を記録しておくとよい。

たとえば感情は以下のように記載する。

〇エントリー時

“　現在 5 連敗中であり気持ちが落ち込んでいる。昨日、今日と一度もエントリーチャンスはない。やっと NY 市場でエントリーできそうなポイントを見つけた。しかしここは過去検証における「見送りパターン」に該当している。ただなかなかチャンスがないし、早く連敗を抜け出したい一心でエントリーした。　”

〇決済時

“　エントリー後、10 分もかかることなく損切り。「連敗中」だからこそ逆に慎重になる必要があるのに、本来エントリーすべきではないポイントで焦ってエントリーをした。一体自分は何をやっているのだろうか。こんな取引を続けては絶対に勝てるようにはならない。反省しよう。　”

上記の文章は私が、検証ノートに書いた一文だ。

恥ずかしながら、過去の検証ノートを見返してみると、

「なぜルール通り取引できないのか・・」「なぜ利確を焦ってしまうのか・・」このような言葉が一度ではなく何度も書かれている。

とある週のノートには「大反省しなければならない。」と言った翌日に同じような失敗をしているのだから、目も当てられない状況だった。

とはいえ同じ間違いを何度も繰り返し、文章で記録されていると、さすがに学習し、自分の間違いのパターンを認識できるようになってくる。そして感情をありのままに書いていくと、少しずつ失敗パターンが減っていく。

つまりトレード時の「感情」を記録することにより、「自分の弱点」がみえてくるのだ。

人それぞれ負けるには明確な理由が存在する。

私の弱点は連敗が続くとエントリールールのフィルター基準が緩くなり、ムダなトレードが増えることだった。また連敗中に利確がいつもよりも早くなってしまうことも、利益を減らす原因になっていた。

自分の弱点を明確に知り、改善していくことでトレードの成績は向上していく。

このように「少額でのリアルトレード」では、過去検証をした手法のエントリーや決済ルールはもちろんのこと、自分の行動パターンを一緒に検証していくことが重要だ。

行動パターンを検証しないと、何年経っても同じ間違いを繰り返すことになる。

悪い癖はそう簡単には直らない。時間とお金を掛けて投資に取り組んでいるのに関わらず、結果が伴わない、時間に対してのリターンを得られないのは非常に恐ろしいことだと思う。

そうならないためにも、一刻も早く少額でのリアルトレードをはじめるべきだ。

リアルトレード検証ノートのご紹介

リアルトレードの検証にもオリジナルのソフトを使用している。それが「リアルトレード検証ノート」だ。このソフトを使用することで、効率的かつ楽しく検証を行える。

「リアルトレード検証ノート」も FX Works の会員申し込みでプレゼントしているので、気になる方は申込みしていただければと思う。会員申し込みの詳細は 221 ページに記載している。

このソフトの特徴は、FX 手法を最大 10 個まで登録し検証できることだ。

また最大 500 回までの取引データを登録し、一つひとつのトレードを詳細に分析することが可能だ。

今まで「リアルトレードの検証」が長続きしなかった人は、このツールを使うことにより、検証を継続できるだろう。

リアルトレード検証ノートの機能は、下記の動画で紹介しているのでご覧いただきたい。

URL：https://youtu.be/WGNkuD-4pZ8

きっとあなたの FX ライフを変えてくれるツールになるはずだ。

まとめ

いかがだったろうか。検証の一連の流れを確認できたかと思う。

「かなり面倒な作業だな。」と感じられた方がほとんどではないだろうか。

正直言って私もそう思う。

しかしもし私が、FX をはじめたばかりの自分に「FX で勝つ方法」を教えられるのであれば、本書の検証方法を手渡し、徹底的に読み込むようにアドバイスする。（随分と遠回りしてきたので）

そして FX で勝つための「近道」はなかった。と教えてあげるだろう。

自動売買、あるいはコピートレードなど「近道」がありそうに見えるのが FX 業界の怖いところだ。経験上、自動売買やコピートレードはお金と時間を失わせるものでしかない。

たしかに短期的に勝てる商品も一部存在している。しかし長期的に安定して勝てる商品を私は見たことがない。

そもそも人の力に頼っていては必ずいつか終わりがやってくる。素晴らしいパフォーマンスを発揮している自動売買ソフトがあったとしても、なんらかの理由により販売が終了すればそこであなたの投資は「おわり」を迎えてしまうのだ。

自動売買よりも裁量トレードの技術を向上できれば「一生の財産」になる。

私は「検証力」そのものがトレードの技術だと思っている。

検証が上手い人は、間違いなくトレードが上手い人だ。したがってまずは検証の数をこなしてみてほしい。過去検証とリアルタイムでのトレードをセットにして「習慣化」してしまえばこっちのものだ。少しずつ成果が出てくるだろう。

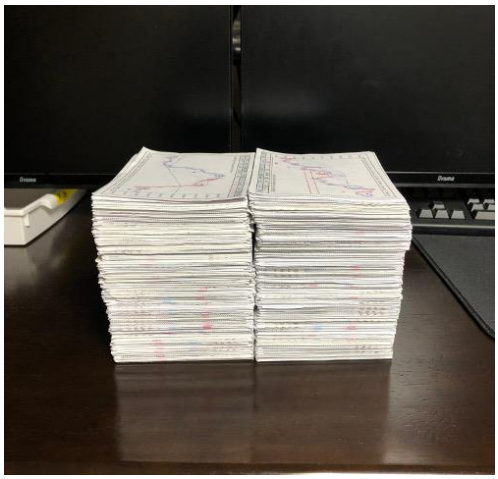
とはいっても検証には多くの貴重な時間を費やしてしまうことになるだろう。自分の取引スタイルを確立するのは、決して簡単な作業ではない。

しかし相場は私たちが生きている限りずっと続くものだ。

明日で相場が終わってしまうわけではく、来年で終わってしまうわけでもない。したがって今すぐ勝てなかったとしても、決して焦る必要はない。

「一歩、一歩」本当に「一歩、一歩」自分のペースで FX 手法を完成させていただければと思う。

下記の写真は私が実際に検証をしてボツになった 4 分割チャートカードの一部だ。おそらく「3000 枚以上」はあるだろう。



このボツチャートの数を見れば、遠回りしているような・・そんな気にさせられた時もあった。しかし今では、間違いなくこの検証方法が FX で勝つための近道であると私は確信している。

FX Work 会員申し込み方法

本書の FX 手法や検証方法で登場したツールは「FX Works」の会員申し込みにより、すべて無料でご利用いただける。また本書で登場したツール以外にも、私が制作した MT4 のトレードに便利な 3 つのツールもプレゼントさせていただく。

「FX Works」会員申し込みの条件は、私が推奨する海外 FX 業者 5 社のから 1 社を選択していただき、「口座申込＋入金＋1 回以上」の取引をしていただくことだ。もちろん複数の口座を申し込んでいただいても問題ない。

対象となる海外 FX 業者は以下の 5 つだ。

1．XM TRADING

URL：https://clicks.pipaffiliates.com/c?c=519704&l=ja&p=0

2．AXIORY

URL：http://go.axiory.com/afs/come.php?id=15&cid=2167&ctgid=100&atype=1

3．Tradeview

URL：https://www.tradeviewlatam.com/ja/forms/accounts?ib=211749

4．MYfx markets

URL：https://www.myfxmarkets.com/open/?ibCode=700962

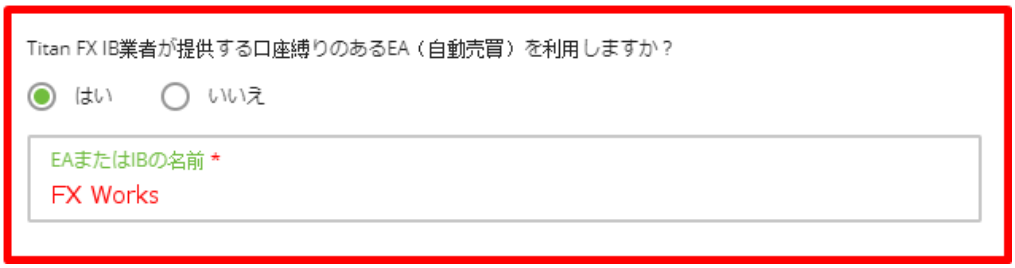
5．TITANFX

URL：https://partners.titanfx.com/registration/ref?cp=SRGTKF6HBM294

※注）既に「TITANFX」の口座をお持ちの方は「追加口座」を開設していただき、

「Titan FX IB 業者が提供する口座縛りのある EA（自動売買）を利用しますか？」で

「はい」を選択、「EA または IB の名前」の欄に「FX Works」と記載。



今回ご紹介する業者は、私が実際に数年間使用してきて一切トラブルがなかった会社を 5 つ厳選した。

すでに上記の口座を保有している方は「追加口座申し込み」で対応が可能だ。本人確認の書類などは必要なくスピーディーに口座申込ができる。

注意点として、インジケーターやツールは FX Works 経由で申し込んだ口座でしか使用できないことだ。流出を防ぐためにプロダクトキーをインジケーターに組み込ませている。

したがって 5 つの口座以外では、使用できないことをあらかじめご了承いただきたい。

ちなみに私は数年前から国内口座を見限って、現在は海外 FX 業者しか使っていない。

「海外 FX 業者＝危険」「国内 FX 業者＝安全」というのは時代錯誤であり、数年前からこの図式は逆転していて「海外 FX 業者＝安全」「国内 FX 業者＝危険」になっている。

「海外 FX 業者を利用したことがない。心配だ。」という方は、下記の国内 FX 業者と海外 FX 業者の違いを書いた記事を見ていただければ海外 FX についての不安が解消されると思う。

⇒ https://fx-works.jp/difference/

海外 FX 業者の特徴など、わかりやすいように「漫画」も用意したので入門編としてこちらもご覧いただきたい。

⇒ https://fx-works.jp/xm_manga/

海外 FX がまったくのはじめてという方は、日本で人気№１の「XM」を選択すれば間違いないだろう。

XM はネット上の情報が最も多く、カスタマーサービスも充実している。ある程度海外 FX での取引に慣れたら、スプレッドが狭い他の業者を選択するのがオススメできる利用法だ。

会員お申し込みの流れ

----------重要----------

会員申し込みの流れは下記になる。

1．上記海外 FX 業者の URL リンクから新規 or 追加口座のお申込み

2．入金を行う

3．１回以上の取引を行う（エントリーから決済まで 5 分以上のポジションが対象）

4．下記のメールアドレスから 5 つの必要事項を記載して送信

メールアドレス：**fxworks1@gmail.com**

・お名前：

・メールアドレス：

・海外 FX 業者名：

・口座番号：

・取引日時：

----------重要----------

取引履歴を確認後、9 つのツールを返信させていただく。（取引から 48 時間以内）

※追加で別の FX 業者を申込みしたい方は、各 FX 業者の URL リンクから口座申込を行い「入金＋1 回以上の取引」後、同じようにご連絡をしていただきたい。

取引を確認後、新たな FX 業者の口座についてプロダクトキーを解除させていただく。

FX Works 会員申し込みで使用できる９つのツール

FX Works 会員申し込みで使用できる 9 つのツールを紹介していく。

・MT4 インジケーター

No.１． Pinbar（No.1 手法、No.2 手法、No.3 手法、No.5 手法）

No.２． MA_Hathing（No.3 手法、No.4 手法、No.5 手法）

No.３． 2line（No.8 手法）

No.４． Keyboard-Shortcuts（水平線等をキーボードに割り当てられるインジケーター）

動画 URL：https://youtu.be/dXcSQqGRvNs

No.５． Time0（ローソク足が確定するまでの残り時間を教えてくれるインジケーター）

動画 URL：https://youtu.be/MJ7v4YvwcAY

・オリジナルツール

No.６． 21 通貨ペア対応トレンド強弱ツール

動画 URL：https://www.youtube.com/watch?v=0GCYjMPv7gI&t=22s

No.７． 押し目・戻し目発見ツール

動画 URL：https://www.youtube.com/watch?v=x-gE_fuVq88

・エクセル検証ツール

No.８． 過去検証ノート

動画 URL：https://youtu.be/WPrLfbdL1aM

No.９． リアルトレード検証ノート

動画 URL：https://youtu.be/WGNkuD-4pZ8

No.１、No.2、No.3、No.6、No.8、No.9 のツールは本書で説明済みなので、No.4、No.5、No.6 のツールをご紹介する。

№4． Keyboard-Shortcuts

Keyboard-Shortcuts（キーボードショートカット）は、MT4 のオブジェクトをキーボードに割り当てできるインジケーターだ。

MT4 は「水平線」や「フィボナッチ」などをチャート上に描写する場合、ツールバーのボタンをクリックすることでチャートに表示させる。

しかしマウスをツールバーに移動させて、オブジェクトをクリックするという手順に煩わしさを感じている方が多いのではないだろうか。

このインジケーターを使えば、たとえば「水平線を H」「フィボナッチを F」など、任意のキーに割り当てができるので、チャート分析の効率化を図ることが可能となる。

キーボードに割り当てが可能なオブフェクトは下記の「７つ」だ。

ショートカットキーは自由に変更できる。自分が押しやすいキーに割り当てするのがよいだろう。

※今後、要望があれば随時オブフェクトを追加していきたいと考えている。

Keyboard-Shortcuts（キーボードショートカット）の特徴は、下記の動画でも紹介しているのでご覧いただきたい。

URL：https://youtu.be/dXcSQqGRvNs

No.5. Time0

「Time0」は MT4 のチャートにローソク足が確定するまでの残り時間を表示するインジケーターだ。

ローソク足の確定を待ってエントリーする手法では、ローソク足が確定するまで、チャートを見続けなければならない。確定までの 1 分間はマウスに手を置いて、じっとチャートを見ているという方は多いだろう。

この場合手元の時計に目を移しながら、ローソク足の確定を待つことになる。しかしローソク足の確定を待つのは結構なストレスだ。「Time0」はこのストレスから解放してくれるインジケーターになる。

下記は 15 分足チャートだ。15 分足が確定するまでの残り時間< 01：25 >が右上に表示されている。この数字を見れば、時計を確認する必要が一切なくなり「あと 1 分 25 分でエントリーだな。」など、ぱっと見で状況を判断できる。

とくに「Time0」は 4 時間足チャートでの使用がオススメとなる。何故ならば 4 時間足は、ローソク足の確定する時間帯がわかりづらいからだ。夏時間と冬時間で 4 時間足の確定する時間が違うこともややこしくなる原因だ。

私は使用している FX 業者の 4 時間足確定時間を暗記しているが、それでも何も考えず、瞬時に「残り〇〇時間」とはならない。その点「Time0」を使えばチャートに目を移すだけで、エントリーするまでの残り時間を教えてくれる。

どんな手法を使っている人でも、役立つインジケーターなのでぜひ試していただきたい。

ちなみに残り時間を表示する場所は「右上」「チャート横」「右下」と変更可能なので、チャートの形状によって表示位置を臨機応変に変えていただければと思う。

「Time0」の特徴は下記の動画でも紹介しているのでご覧いただきたい。

URL：https://youtu.be/MJ7v4YvwcAY

No.７．押し目・戻し目発見ツール

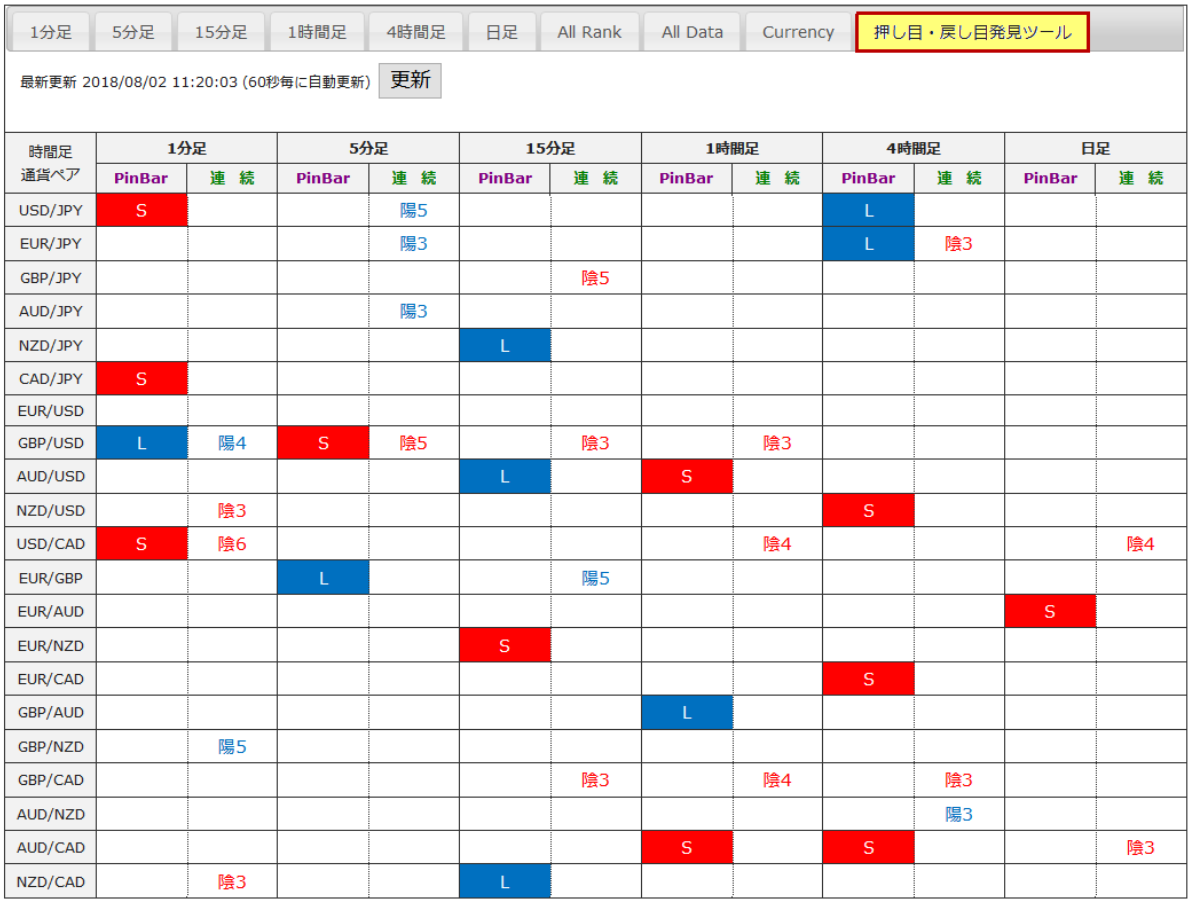
押し目・戻し目発見ツールは、インジケーターではなく web 上で起動するツールだ。

本ツールは「シンプルに売買する」をテーマに誕生した。

このツールには「２つ」の機能がある。

１．pinbar の抽出

２．連続陽線・連続陰線の抽出



時間足 / 通貨ペア	1分足		5分足		15分足		1時間足		4時間足		日足	
	PinBar	連 続	PinBar	連 続	PinBar	連 続	PinBar	連 続	PinBar	連 続	PinBar	連 続
USD/JPY	S			陽5					L			
EUR/JPY				陽3					L	陰3		
GBP/JPY						陰5						
AUD/JPY				陽3								
NZD/JPY					L							
CAD/JPY	S											
EUR/USD												
GBP/USD	L	陽4	S	陰5		陰3		陰3				
AUD/USD					L		S					
NZD/USD		陰3							S			
USD/CAD	S	陰6						陰4				陰4
EUR/GBP			L			陽5						
EUR/AUD											S	
EUR/NZD					S							
EUR/CAD									S			
GBP/AUD							L					
GBP/NZD		陽5										
GBP/CAD						陰3		陰4		陰3		
AUD/NZD										陽3		
AUD/CAD							S		S			陰3
NZD/CAD		陰3			L							

まず 1 つ目の機能である「pinbar」は本書で紹介している pinbar インジケーターによるサインを一覧で表示するものだ。

下記 6 つの時間足、21 通貨ペアに対応している。

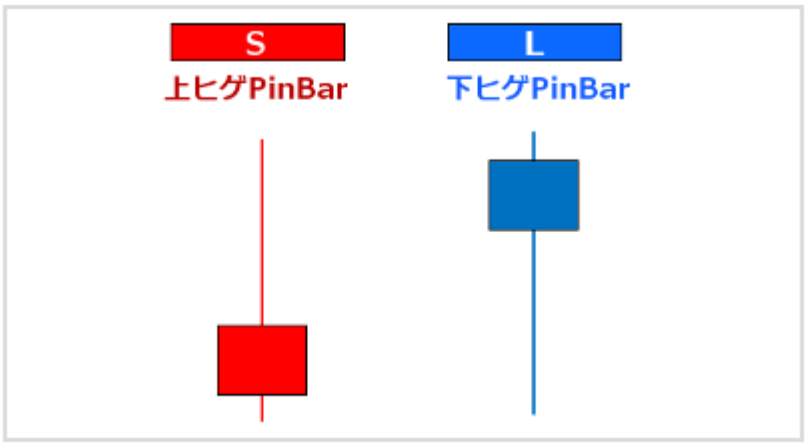
時間足	1分足、5分足、15分足、1時間足、4時間足、日足
通貨ペア	EUR/USD、USD/JPY、GBP/USD、AUD/USD、NZD/USD、USD/CAD、EUR/JPY、EUR/GBP、EUR/AUD、EUR/NZD、EUR/CAD、GBP/JPY、AUD/JPY、NZD/JPY、CAD/JPY、GBP/AUD、GBP/NZD、GBP/CAD、AUD/NZD、AUD/CAD、NZD/CAD **（合計21通貨ペア）**

「pinbar」の項目に注目していただきたい。

時間足	1時間足		4時間足		日足	
通貨ペア	PinBar	連　続	PinBar	連　続	PinBar	連　続
USD/JPY		陰5		陰4		陰5
EUR/JPY		陰3				
GBP/JPY						陰5
AUD/JPY			L	陽3		陰3
NZD/JPY				陽3		
CAD/JPY		陰5				陰4
EUR/USD				陽4	S	
GBP/USD						

・S（ショート）が上ヒゲの PinBar

・ L（ロング）が下ヒゲの PinBar　を表している。



本書で説明しているとおり、pinbar はローソク足単体で確認できる非常にシンプルなものであり、相場の転換ポイントを捉えるうえで有効なシグナルとなる。

１分足を使った短期トレードから、日足を使った長期トレードまでさまざまな取引スタイルに広く使用できる。

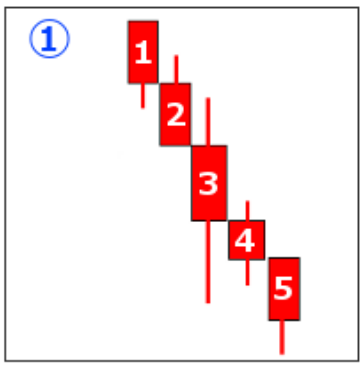
2 つ目の機能が「連続陽線・連続陰線」の抽出だ。表の「連続」をご覧いただきたい。

時間足 通貨ペア	1時間足		4時間足		日足	
	PinBar	連　続	PinBar	連　続	PinBar	連　続
USD/JPY		陰5		陰4		陰5
EUR/JPY		陰3				
GBP/JPY						陰5
AUD/JPY			L	陽3		陰3
NZD/JPY				陽3		
CAD/JPY		陰5				陰4
EUR/USD				陽4	S	
GBP/USD						

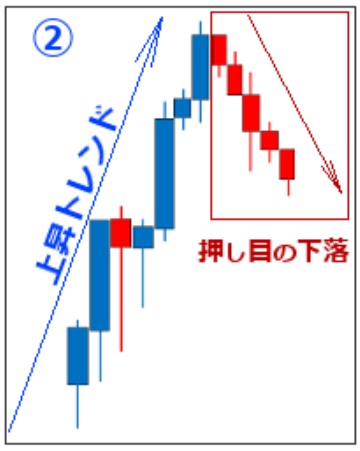
陽、陰の横にある数字は現在「陽線が何本続いているか」「陰線が何本続いているか」を記したものだ。

たとえば「USD/JPY」「日足」連続枠に「陰５」の場合は５日連続で陰線が出現していることになる。ではこの数字にはどんな意味があるだろうか。

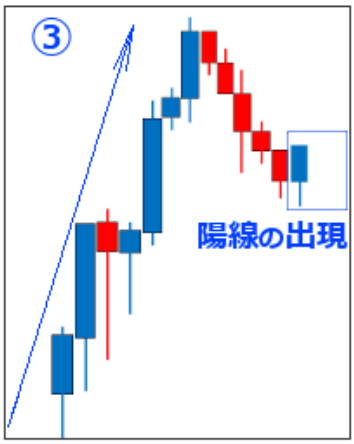
①　陰線５本連続は下落なので「売り方が強い状況」と推測できる。



②　しかし強い上昇トレンド中の「連続陰線５本」であれば状況が変わってくる。より大きい上昇相場の「押し目を形成している」と捉える事ができるだろう。

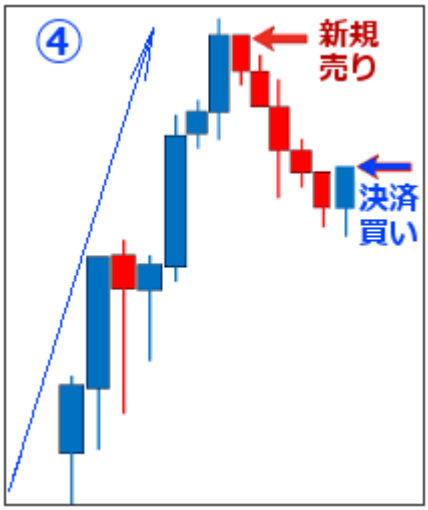


③　そしてこのような天井から「５本連続」で陰線が続いている相場で、突然「陽線」が出現したらどうだろうか。

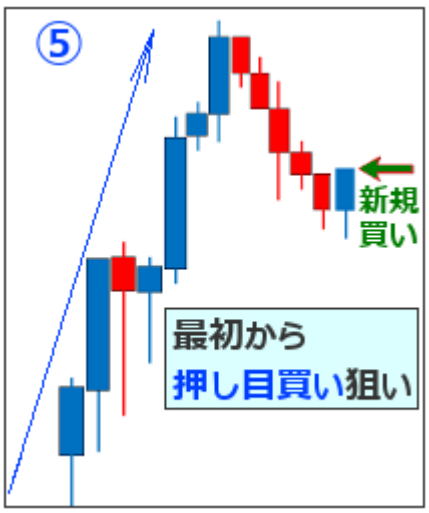


④　天井で売り注文を行い、すでに利益が出ている投資家は、この陽線を大いに警戒するだろう。陰線が 5 本続いた後に久しぶりに出た陽線となる。大きな流れでは現在上昇トレンド中なので「売りポジションの利益を伸ばしてやる」という思考にはなりにくい場面だ。

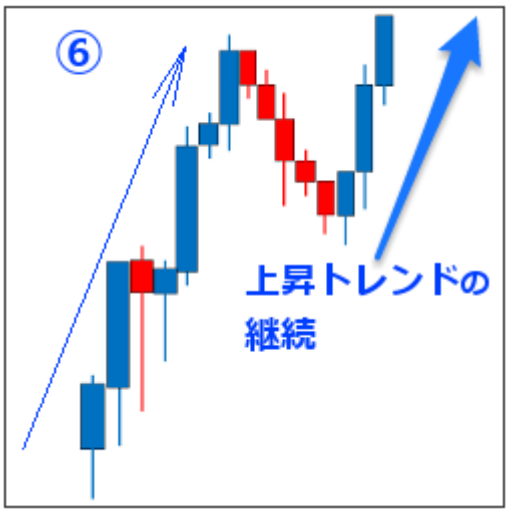
この時に売り方の考えていることは「やれやれ。調整の下落は終わりか。売りは諦めて決済の買い注文を入れるか」となる。



⑤　一方この場面、最初から大きな上昇トレンドの流れに乗る形で、虎視眈々と「押し目買い」だけを狙っている投資家も存在する。このような投資家は、久しぶりに出た陽線を見て、意気揚々と新規の買いエントリーを行うだろう。



⑥　売り方の決済による買い注文と、新規参入した投資家の買い注文が同時に集まることにより、上昇トレンドは継続する。つまり大きな上昇トレンドの流れに逆らう形での、連続陰線は更なる上昇のパワーを溜めている状況ともいえるのだ。



⑦　このように「連続陰線」後の「陽線」はまさに「押し目買い」が入りやすい場面ととらえられ、絶好のエントリーチャンスとなり得る。

上記が考え得る最もシンプルな使い方となる。

さまざまな手法に応用できるツールなので、ぜひ一度試していただき自分の手法を作り上げていただければと思う。

押し目・戻し目発見ツールの特徴を動画にもしているのでご覧いただければと思う。

URL：https://www.youtube.com/watch?v=x-gE_fuVq88

あとがき

本書の執筆を開始してから 5 か月が経過して、今やっと最後のあとがきを書いている。

トレードの合間の一日約 5 時間、月 100 時間は本書に時間を費やしただろうか。

私の FX 経験を形に残したくてはじめたのがきっかけだった。しかし正直完成まで、5 か月もかかるとは思わなかった。自分でいうのもなんだが一切妥協をせずに書き上げたつもりだ。

とくに初心者の方へのわかりやすさを意識して、チャートだけで手法の理解が進むように時間をかけて作った。

本書で紹介している手法はすべて専業トレーダーである私が実際に使用している手法だ。

人によっては「こんな手法で勝てるはずがない。」という意見も出てくだろう。それでも構わない。

ただそのように感じた人は「検証方法」だけでも読んでいただければと思う。１つの手法を教わるよりも「１つの手法の作り方」を教わる方が確実に稼げるトレーダーになるからだ。

私がそうだったように、FX はコツを掴めば誰でも勝てるようになる。

本書がその「きっかけ」になれば幸いだ。

最後にトレードで忙しいなか、快く手法の執筆を引き受けてくださった「まもとさん」に心より感謝の意を申し上げて本書を閉じさせていただく。

Ebook のご感想をいただけませんか？

この度は、FX Works の Ebook をご覧いただきありがとうございます。

もし Ebook のご感想（200 文字以上）をいただけたら、追って下記の

「FX 億トレーダーが使う 8 手法のエントリー＆様子見パターン、4 分割チャート（496 枚収録）」をプレゼントさせていただきます。

いただいた感想は「FX Works」のサイト内でご紹介させていただきます。

感想は下記のメールアドレスに送信してください。確認後、48 時間以内に返信させていただきます。

※お手数ですが、感想のコメントは「200 文字以上」でできるだけ具体的に書いてください。条件に満たない場合はプレゼント PDF をお渡しできない場合があります。

メールアドレス：fxworks1@gmail.com

おまけ

わたしのトレードルーム。自らが設計・施工しましたので自分の体型に合ったスタンディングデスクです。この部屋で毎日、淡々とトレードしています。トレーダーは体が資本なので、運動不足にならないようトレードルームには筋トレグッズも完備です。

筋トレはトレードと似ている（毎日の積み重ねが大切）とわたしは思っています。筋トレをはじめてからトレードにもよい影響があるような？そんな気がします。

トレードも筋トレもツライ時が多いです。それでも続けていればきっとよいことがあります。相場からの退場、筋トレからの退場（怪我）をしないよう慎重に行う事が大切ですね。